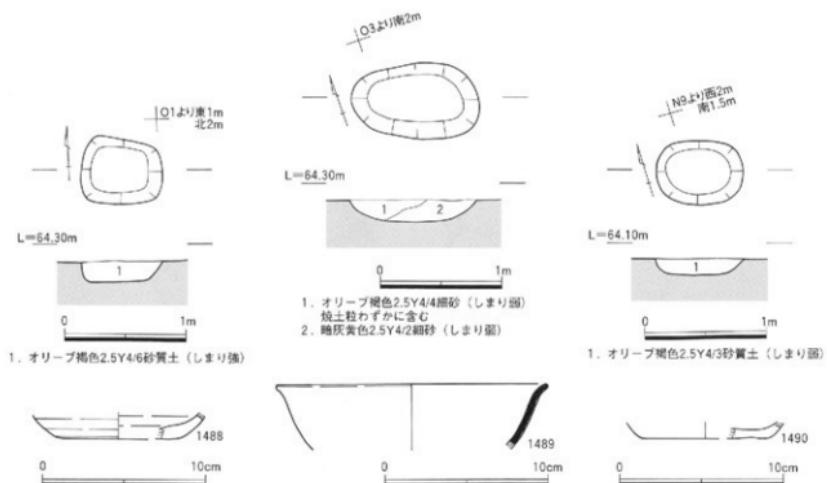


第842図 V地区SK2124遺構・遺物実測図

第841図 V地区SK2122遺構・遺物実測図



第843図 V地区SK2134  
遺構・遺物実測図

第844図 V地区SK2144  
遺構・遺物実測図

第845図 V地区SK2153  
遺構・遺物実測図

#### 土坑153号（V地区 SK2153）（第845図）

V-4区東端部、M8グリッドに位置する、長軸71cm短軸53cm深度13cmを測る楕円形土坑。主軸はN73°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層である。出土遺物は1点のみで、1490は土師質土器杯の底部。磨耗により切り離し痕不明。

#### 土壙墓223号（V地区 ST2223）（第846図）

V-3区東部中央、B12グリッドに位置する、長軸133cm短軸85cm深度42cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN71°Wを向く。断面は方形で、埋土は2層に分層できる。最下層は有機物を多く含むとみられる暗色土層である。

出土遺物は1点のみで、1491は須恵器杯身の上半部。概ね7世紀代とみられる。

#### 土壙墓234号（V地区 ST2234）（第847図）

V-3区中央部南端、T・A16グリッドに位置する、長軸160cm短軸95cm深度32cmを測る隅丸長方形土壙墓。主軸はN18°Eを向く。断面は逆台形状または方形で、埋土は3層。最下層は有機物を多く含むとみられる暗色土層である。出土遺物は1点のみで、1492は弥生上器高杯の杯部。二重口縁をもち、外外面にヘラミガキを施す。胎土に結晶片岩と韋雲母を含む。弥生時代後期末頃と考えられる。

#### 土壙墓247号（V地区 ST2247）（第848図）

V-4区西部、Q13グリッドに位置する、長軸178cm短軸83cm深度46cmを測る隅丸長方形の土壙墓。主軸はN57°Wを向く。断面は逆台形状または方形で、埋土は7層に分層できる。最下層は有機物を多く含むとみられる暗色土層である。出土遺物は1点のみで、1493は高台付須恵器杯の底部。高台は剥離。焼成不良で、外外面に炭素付着。8世紀代か。

#### 溝7号（V地区 SD2007）（第849図）

V-3区東部南端、R3・4グリッドに位置する、全長3.4m幅40cm深度6cmを測る。主軸はN76°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層である。遺物は土師器片、土師質土器片・杯・煮炊具、須恵質土器碗が出土。1494は西村系須恵質土器碗の下半部。内外面に板ナデを施す。焼成不良により、軟質・酸化炎焼成気味。佐藤編年の4期新相～5期、概ね12世紀末～13世紀代とみられる。

#### 小穴512号（V地区 SP2512）（第850図）

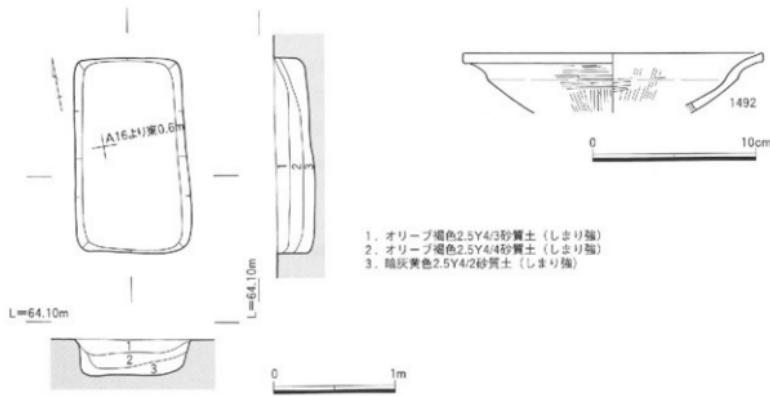
V-4区西端部、R8グリッドに位置する、径37cm深度18cmを測る円形の小穴。遺物は黒色土器碗A類、須恵器甕が出土。1495は黒色土器碗A類の上半部。外外面に密なヘラミガキを施す。口縁～内外面に炭素吸着良好。概ね10～11世紀前後とみられる。

#### 小穴533号（V地区 SP2533）（第851図）

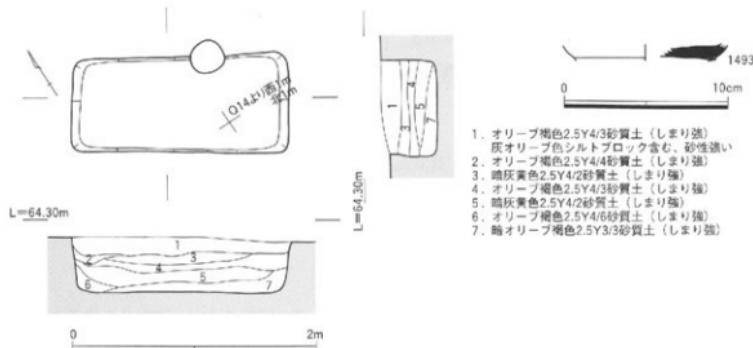
V-4区中央部、O18グリッドに位置する、径28cm深度27cmを測る円形の小穴。遺物は土師器片、須恵器甕、須恵質土器碗が出土。1496は西村系の須恵質土器碗の底部。外外面に板目痕を残す。内面板ナデのち部分的にヘラミガキを施す。軟質焼成である。佐藤編年の4期新相～5期、概ね12世紀末～13世紀



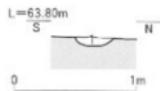
第846図 V地区ST2223遺構・遺物実測図



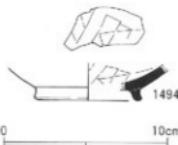
第847図 V地区ST2234遺構・遺物実測図



第848図 V地区ST2247遺構・遺物実測図



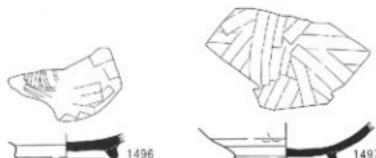
1. 灰オリーブ色5Y5/3砂質土（しまり弱）  
砂性強い



第849図 V地区SD2007遺構・遺物実測図



第850図 V地区SP2512遺物実測図



第851図 V地区SP2533遺物実測図

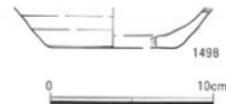


1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり弱）  
砂性強い

第852図 V地区SR2001遺構断面図



1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり弱）



第853図 V地区SR2002遺構・遺物実測図

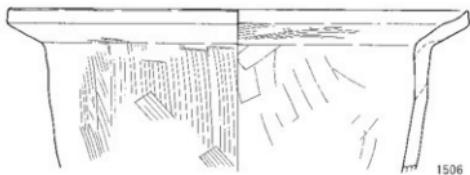
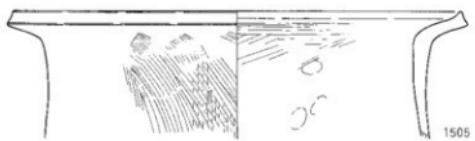
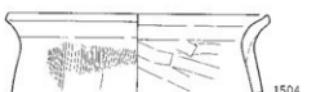
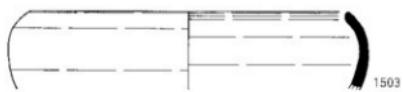
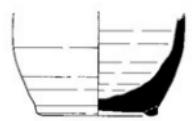
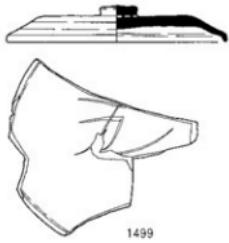
代とみられる。1497は高台付須恵器椀の下半部。底径が大きく、器壁薄い。体部外面に指頭圧痕あり。  
11~12世紀頃か。

#### 自然流路1号（V地区 SR2001）（第852図）

V-4区東部、P+Q14・15グリッドに位置し、南北は調査区外に延びるが、北に位置するV-3区では検出されない。検出長9.3m幅225cm深度12cmを測る。断面は浅いレンズ状で、埋土は1層である。出土遺物は皆無。

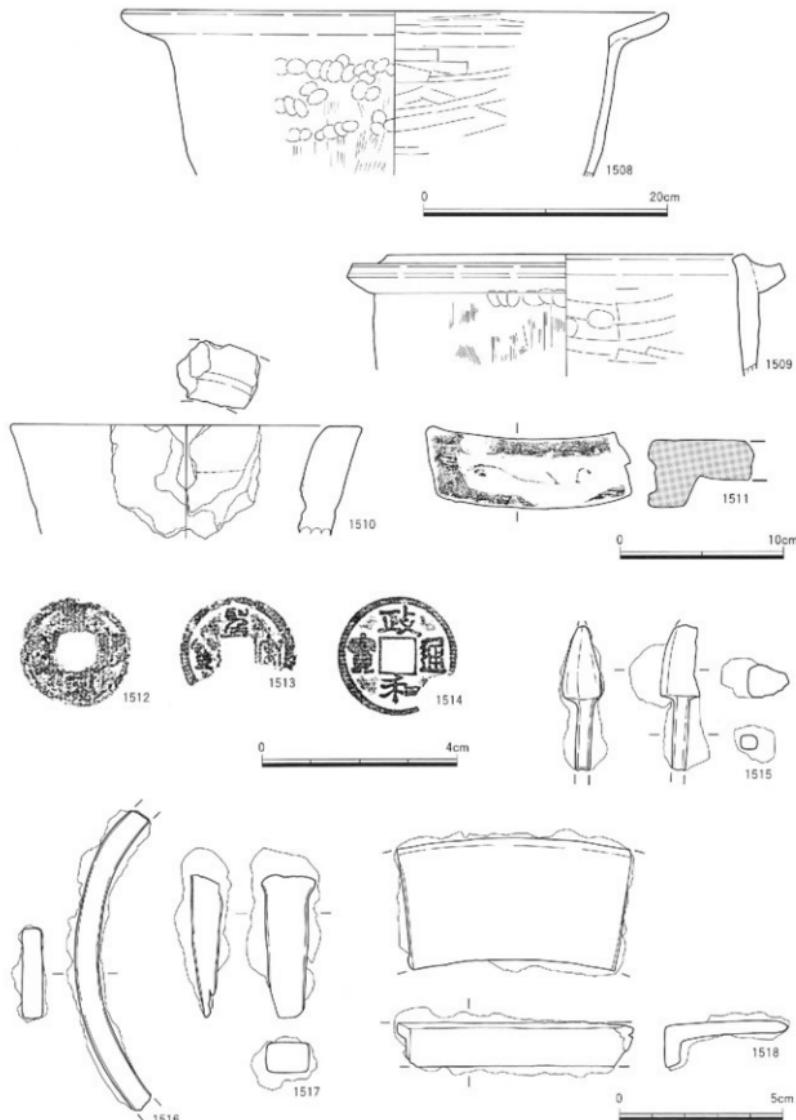
#### 自然流路2号（V地区 SR2002）（第853図）

V-4区、L~O5~7グリッドに位置し、南北は調査区外に延びる。検出長14.5m幅445cm深度10cmを測る。断面は浅いレンズ状で、埋土は1層である。遺物は土師器片、土師質土器杯（回転糸切り・回転ヘラ切りほか）・煮炊具、瓦質土器煮炊具、須恵質土器碗が出上。1498は土師質土器杯。回転台成形で、底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。胎土に結晶片岩と粗雲母を含む。遺構の年代は、出土遺物から13世紀代と考えられる。



0 10cm

第854図 V地区第2包含層遺物実測図(1)



第855図 V地区第2包含層遺物実測図(2)

## 〈V地区 第2包含層出土遺物〉(第854・855図)

1499は須恵器蓋。擬宝珠摘みをもつ。天井部内面中央に「五」字状のヘラ記号を描く。8世紀中葉～後半頃とみられる。1500は黒色土器碗A類。体部外面に横位のヘラミガキ、内面に斜位のヘラミガキを比較的密に施す。内面炭素吸着良好。概ね10～11世紀前後とみられる。

1501は須恵器短頭壺。7世紀後半～8世紀初頭とみられる。1502は須恵器壺の下半部。底部外面に「#」形のヘラ記号を描く。底部内面中央に自然釉付着。8世紀後葉～9世紀前半頃とみられる。1503は須恵器鉢の上半部。

1504～1506は土師器甕の上半部。口縁端部をわずかに上方につまみ上げる。いずれも休部外面に継位または斜位のハケを施し、1505・1506は口縁内面にヨコハケを施す。1507は土師器鍔付甕。休部外面上位に鍔部貼り付け。口縁端部と鍔端部を上方に拡張する。内面横位の板ナデまたはヨコハケ。香川県下川津遺跡に類例があり、10～11世紀代とみられる。

1508は土師質七器錫の上半部。体部外面ユビオサエのちタテハケ、内面横位の板ナデを施す。

1509は撰済C型の土師器羽釜の上半部。口縁に近接して鍔部貼り付け。体部外面タテハケ、内面横位の板ナデを施す。胎土に砂岩を含む。11世紀代前後とみられる。

1510は土製鋳型。挽き回しにより内径15cm程度に作る。器種不明。図の一点破線以下は被熱変色部。胎土に懸を多く含み、軽い。

1511は瓦質軒平瓦。外縁幅がやや広く、唐草文が簡略化する。15世紀代前後とみられる。

1512～1514は銅鏡で、北宋鏡。1512は皇宋通寶の篆書体で、1039年初鑄。肉薄。1513は聖宋元寶の篆書体で、1101年初鑄。1514は政和通寶で、1111年初鑄。

1515は鉄鍤。1516は円弧状を呈する板状鉄製品で、用途不明。1517は鉄楔で、両端部を欠損。1518は不明鉄製品。平面は円弧状で、断面はL字に屈曲する。鉄製煮炊具の口縁か。

## 〈V地区 第1遺構面〉

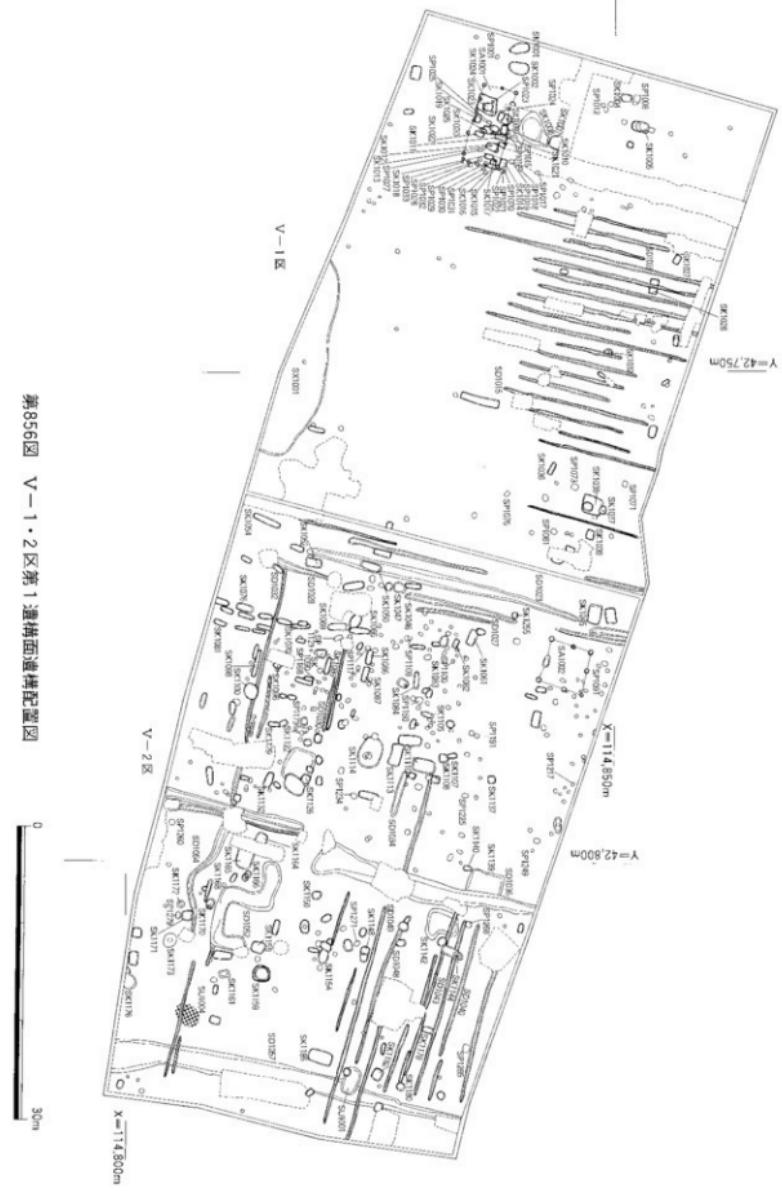
### V-1・2区 (第856図)

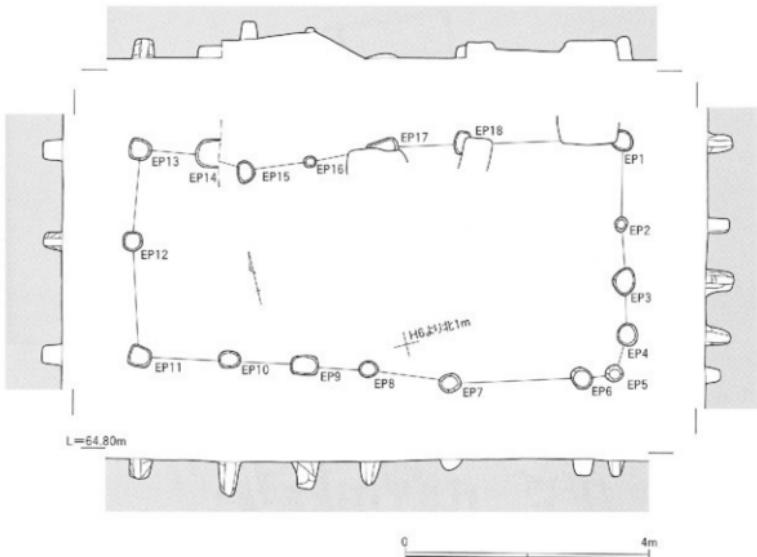
V-1区第1遺構面は、南西隅で検出した掘立柱建物SA1001を中心に、鍛冶関連遺構が検出された。調査区北側では耕作に伴うとみられる南北方向の溝群を検出している。南東部は遺構密度がきわめて低い空闊地である。V-2区は比較的遺構密度が高く、掘立柱建物は1棟のみの復元にとどまったが、ピット・土坑等の数が多い。北東部で耕作に伴うとみられる東西方向の溝群を検出している。両調査区あわせてSA2棟、SK188基、SU2基、SD57条、SX1基、SP294基を検出。

### 掘立柱建物1号 (V地区 SA1001) (第857図)

V-1区西部南側、G-15・6グリッドに位置する。東西6間(8.0m)南北4間(3.9m)床面積31.2m<sup>2</sup>、18基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N75°Wを向く。柱穴の通りは非直線的である。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、一辺22～51cm深度6～55cmを測る。断面は逆台形状またはU字形で、EP1～5・8～13で柱痕とみられる土層を確認。

本建物は、鉄滓を充填した土坑群をほぼカバーする位置にあり、土坑群とあわせて鍛冶関連遺構を構成するものと考えられる。これら土坑群と本建物の前後関係は、土坑群が建物柱穴を切っているものに





第857図 V地区SA1001遺構実測図

関しては土坑群が後出である。

遺物はEP1～3・5～12・14・15・18で鐵滓が出土し、EP14では4.83kgと多い。このほかEP1・8・10から、土師質土器片・煮炊具・羽口・鉄製品片・凝灰岩砾が出土。

#### 掘立柱建物2号（V地区 SA1002）（第858図）

V-2区中央部北端、I・J16・17グリッドに位置する、東西2間（4.5m）南北2間（4.6m）床面積20.7m<sup>2</sup>、8基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N19°Eを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、一辺36～119cm深度23～41cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP2～4・6～8で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP2・4から土師器片・土師質土器片が出土

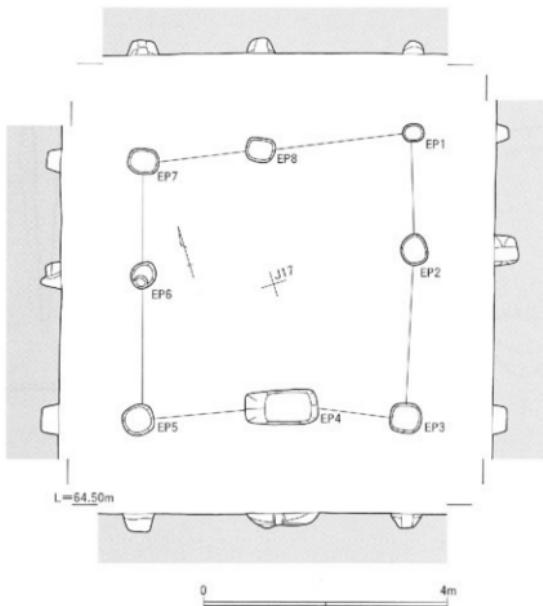
#### 土坑1号（V地区 SK1001）（第859図）

V-1区西端部南側、H・I4グリッドに位置する、長軸204cm短軸100cm深度16cmを測る不整な梢円形土坑。主軸はN8°Wを向く。断面逆台形状で、埋土は1層。遺物は鉄釘、鐵滓が出土。1519は鉄釘。

#### 土坑2号（V地区 SK1002）（第860図）

V-1区西部南側、H・I4グリッドに位置する、長軸200cm短軸120cm深度28cmを測る不整な梢円形土坑。主軸はN13°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。

遺物は須恵器片・土師質土器片・煮炊具・管状土錘・陶器碗・羽口・鉄製品片・鐵滓が出土。1520は



第858図 V地区SA1002遺構実測図

肥前系陶器碗の底部。泥釉を施釉。近世であるが詳細時期不明。1521は土師質管状土錘。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。

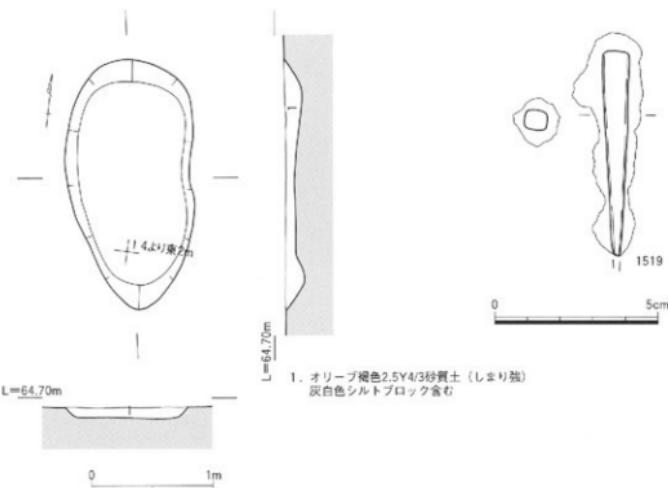
#### 土坑4号（V地区 SK1004）（第861図）

V-1区西端部北寄り、K5グリッドに位置する、長軸110cm短軸76cm深度38cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN5°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層。遺物は須恵器片、土師質土器杯・皿・煮炊具、羽口・鉄製品片・鉄滓が出土。1522・1523は土師質土器皿。回転台成形で、1523は底部外面に静止糸切りのち板目痕を残す。ともに胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。16世紀代と考えられる。

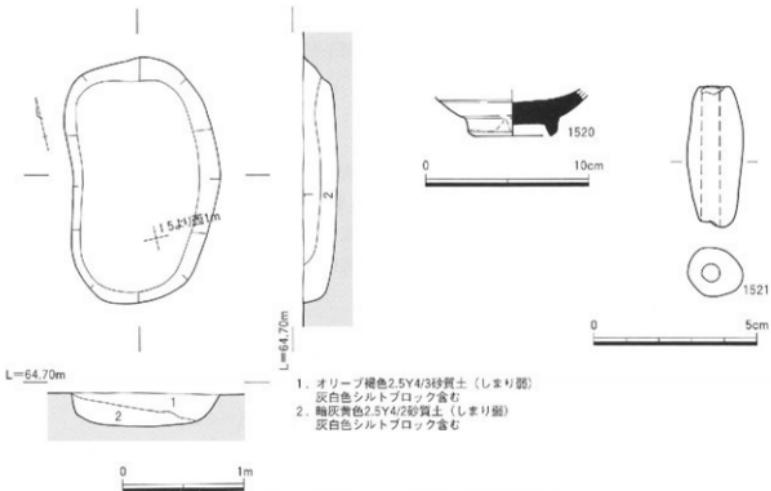
#### 土坑5号（V地区 SK1005）（第862・863図）

V-1区西端部北側、K5・6グリッドに位置する、長軸175cm短軸106cm深度65cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN13°Eを向く。断面は逆台形状で、北側底面は深く落ち込む。埋土は5層に分層。北側落ち込み部の第4層に10~40cm大の礫が集中する。配置に規則性は見いだせない。

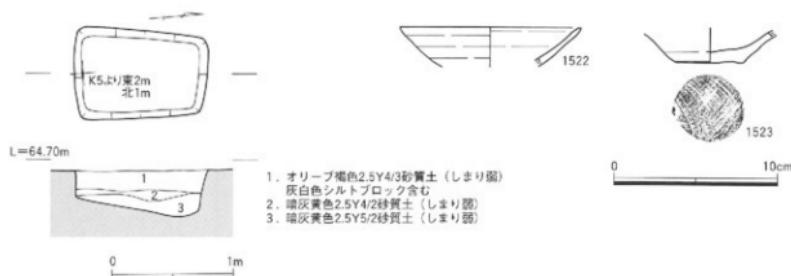
遺物は土師器煮炊具、土師質土器片・皿・鉄釘・鉄滓、角礫凝灰岩製石臼・砂岩製砥石が出土。1524は砂岩製砥石。全長41.6cmの大型品で、側面の5面を使用する。1525は豊島産の角礫凝灰岩製石臼（上臼）。穿孔部は確認できない。下面是凹面状で、磨耗著しく溝目は確認できない。鉄滓と大型砥石の出



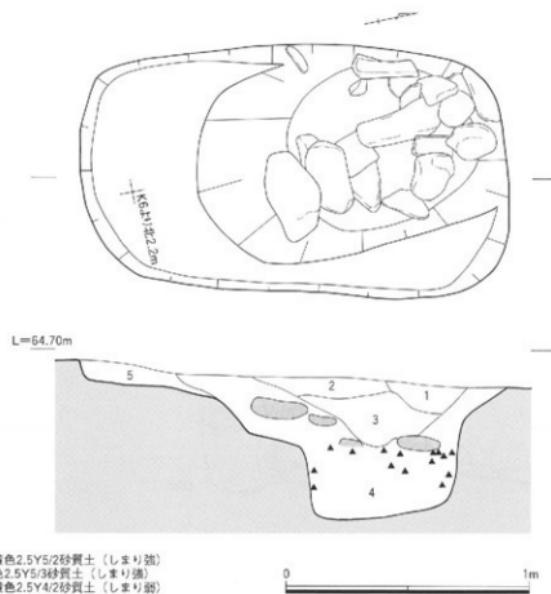
第859図 V地区SK1001遺構・遺物実測図



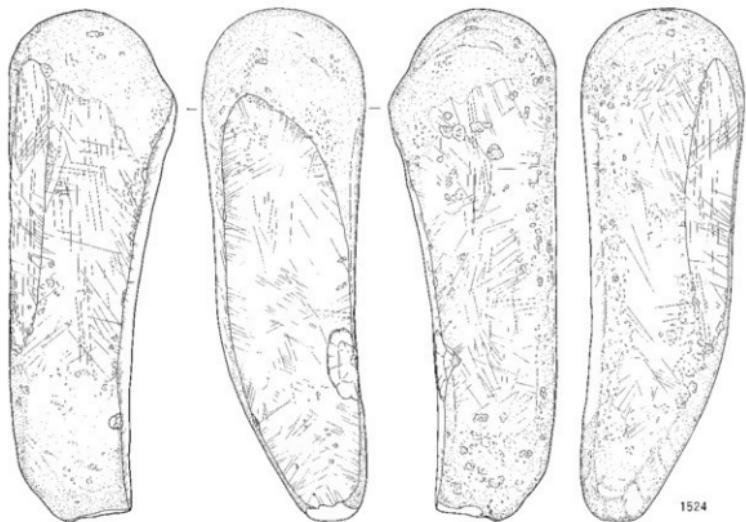
第860図 V地区SK1002遺構・遺物実測図



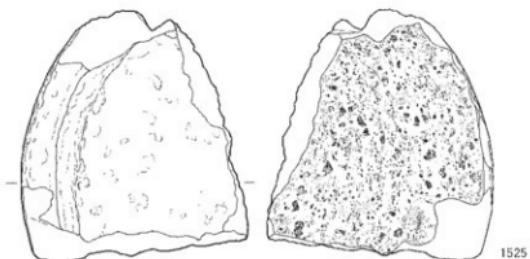
第861図 V地区SK1004遺構・遺物実測図



第862図 V地区SK1005遺構実測図



0 20cm



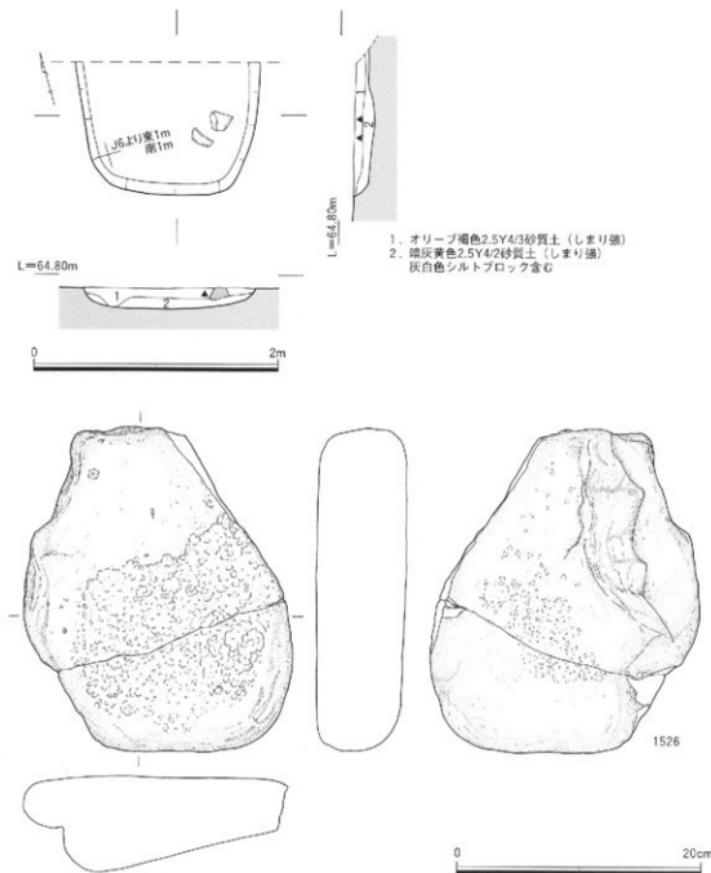
0 10cm

第863図 V地区SK1005遺物実測図

土から、鍛冶関連遺構の可能性がある。

#### 土坑7号（V地区 SK1007）（第864図）

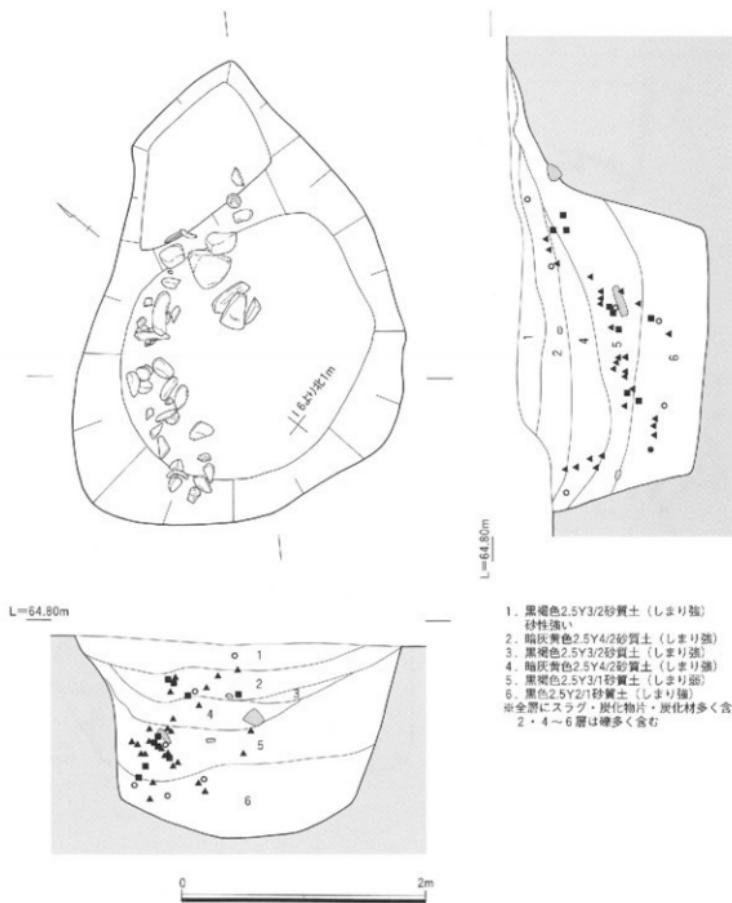
V-1西部中央区、I6グリッドに位置し、北は擾乱に切られる。東西150cm南北残存長107cm深度17cmを測る隅丸方形土坑。断面は浅い皿状で、埋土は2層に分層。遺物は羽口、鉄滓、砂岩製台石が出上。1526は砂岩製台石。表裏2面に敲打痕を残す。



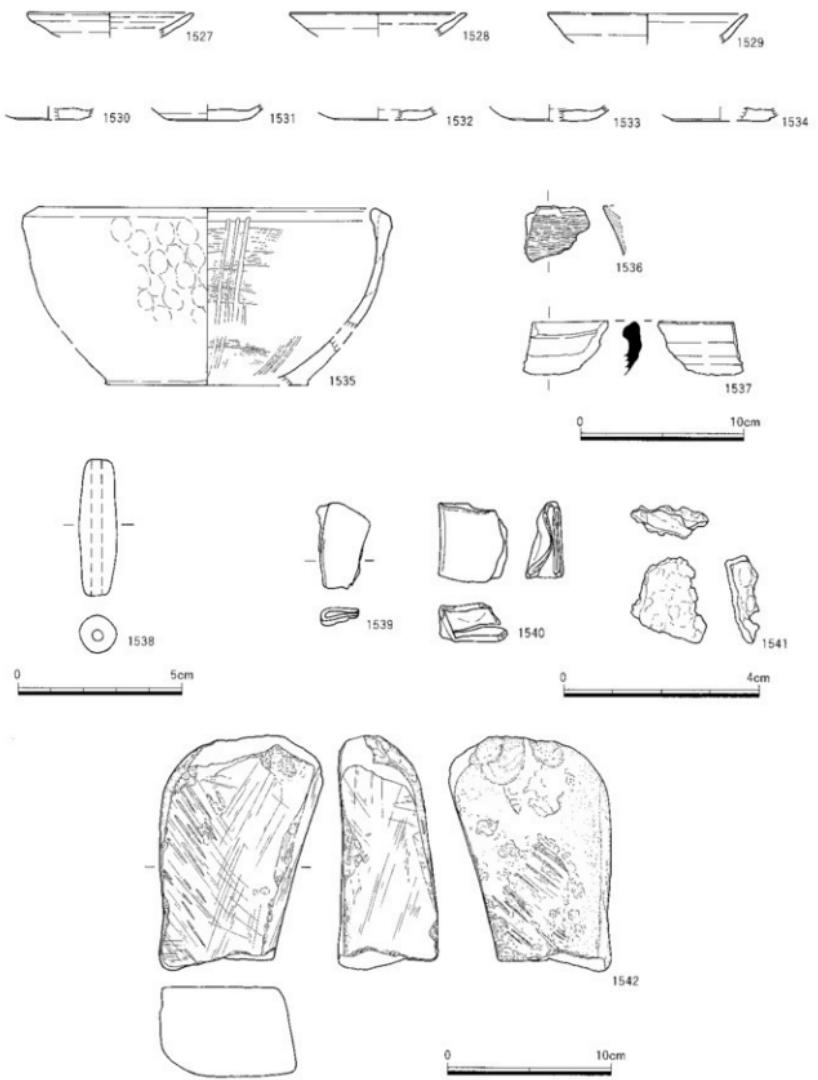
第864図 V地区SK1007遺構・遺物実測図

土坑8号（V地区 SK1008）（第865・866図）

V-1区西部中央、15・6グリッドに位置する、長軸384cm短軸257cm深度160cmを測る不整形の大型の鍛冶関連土坑。断面は逆台形状で、北東側に浅い段をもつ。埋土は6層に分層でき、レンズ状に堆積する。全層とも炭化物を多量に含む黒色～暗灰黄色土層で、多量のスラグが出土した。鍛冶に伴うスラグの廃棄土坑と考えられる。本遺構は大型であるため、梵鐘などの大型品鑄造に関わる土坑を排溝土坑に転用した可能性も考えたが、それを積極的に裏付ける痕跡は見いだせない。



第865図 V地区SK1008遺構実測図



第866図 V地区SK1008遺物実測図

遺物は土師質土器杯（回転糸切り・静止糸切り）、皿（静止糸切りほか）・擂鉢、瓦質火鉢か、陶器擂鉢（備前焼）、土師質管状土錘、羽口・青銅製品片、鉄滓（鍛造剥片・粒状滓を含む）、砂岩製砥石が出土。鉄滓の出土量は1418.18kgを測り、径10cm以上を測る椀形滓は337点に上る。羽口の出土量は46.83kgで、50%以上の残存率をもつものは14点が出土する。以降、椀形滓と羽口の数量を計上する際に、同じ基準を適用する。鉄滓・羽口とも8割強が埋土下半の5・6層からの出土である。

1527～1533は土師質土器皿。いずれも回転台成形で、底部が残存する1530～1533は、静止糸切り痕を残す。1527・1531は胎土に結晶片岩を含み、1529・1533は砂岩を含むとみられる。1534は土師質土器杯の底部で、外面に回転糸切り痕を残す。

1535は土師質土器擂鉢。口縁端部を維ぎ足して内上方に拡張する。外面に指頭圧痕を残し、内面ヨコハケのち瘤目を施す。1536は瓦質上器口縁部内面が剥離したもので、火鉢とみられる。緻密な横位のヘラミガキを施す。胎土に砂岩を含み、炭素吸着良好。1537は備前焼陶器擂鉢の口縁端部。重根編年VA期とみられ、16世紀前半の年代が考えられる。

1538は土師質管状土錘。胎土がきわめて精良で、丁寧な調整。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。

1539～1541は青銅製品片。0.5～1mm程度の薄板を折りたたみ、扁平に押しつぶして切断する。鋳造用の素材にしたものか。

1542は砂岩製砥石。3面を使用し、深い沈線状の擦痕も確認できる。部分的に敲打痕を残す。

遺構の年代は、出土遺物から16世紀代と考えられる。

#### 土坑9号（V地区 SK1009）（第867図）

V-1区西部南側、H5グリッドに位置する、長軸149cm短軸106cm深度53cmを測る不整な隅丸長方形の鍛冶関連土坑。主軸はN22°Eを向く。断面は逆台形状で、南側底面は上からの掘り込みにより落ち込む。埋土は5層で、全層で多量の鉄滓と炭化物片が出土する。鉄滓は50.46kg出土し、椀形滓5点を含む。このほか遺物は土師器片・須恵器片・壺、土師質土器片・杯・擂鉢・煮炊具・近世磁器片・羽口が出土。

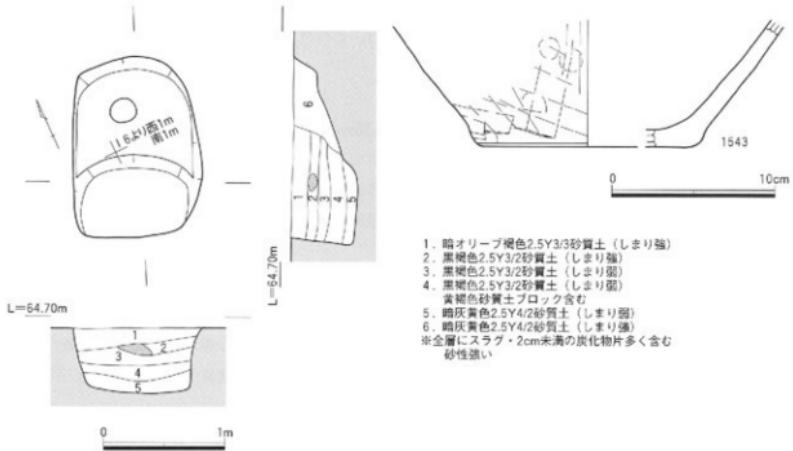
1543は土師質土器擂鉢の体部下半。内面磨耗著しく、擂鉢の可能性もある。16世紀代とみられる。

#### 土坑10号（V地区 SK1010）（第868図）

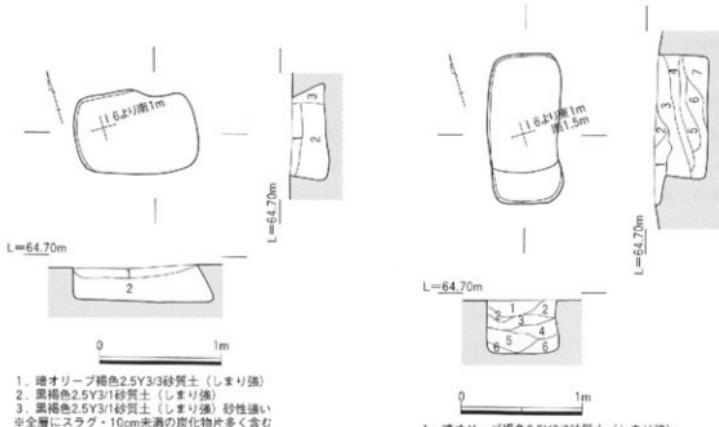
V-1区西部中央、H5・6グリッドに位置する、長軸102cm短軸70cm深度30cmを測る隅丸方形の鍛冶関連土坑。主軸はN72°Wを向く。断面は袋状で、埋土は3層に分層でき、全層で多量の鉄滓と炭化物片が出土。鉄滓は60.89kgが出土し、13点の椀形滓が出土。このほか遺物は土師質土器杯・羽口が出土。

#### 土坑11号（V地区 SK1011）（第869図）

V-1区西部南側、H6グリッドに位置する、長軸123cm短軸59cm深度43cmを測る隅丸方形の鍛冶関連土坑。主軸はN19°Eを向く。断面は方形で、一部袋状を呈する。埋土は7層に分層でき、第1～5層で多量の鉄滓と炭化物片が出土。鉄滓は18.96kgが出土し、4点の椀形滓を含む。このほかに須恵器杯・貯蔵具・土師質土器皿・羽口が出土。16世紀代とみられる。



第867図 V地区SK1009遺構・遺物実測図



第868図 V地区SK1010遺構実測図

- 暗オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土（しまり強）
  - 暗灰褐色2.5Y4/2砂質土（しまり強）  
黄褐色砂質土ブロック含むG
  - 暗オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土（しまり強）  
黄褐色砂質土ブロック含むG
  - 黒褐色2.5Y3/2砂質土（しまり弱）
  - 暗オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土（しまり強）
  - オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
  - 黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり強）
- \*1～5層にスラグ・5cm未満の炭化物片多く含む

第869図 V地区SK1011遺構実測図

#### 土坑12号（V地区 SK1012）（第870図）

V-1区西部南側、H6グリッドに位置する、長軸73cm短軸46cm深度28cmを測る隅丸長方形の鍛治関連土坑。主軸はN30°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は5層で、全層で多量の鉄滓と炭化物片が出土する。鉄滓の出土量は10.8kgで、5点の楕形滓を含む。このほかに土師質土器杯、羽口が出土。

#### 土坑13号（V地区 SK1013）（第871図）

V-1区西部南側、H6グリッドに位置する。長軸138cm短軸86cm深度40cmを測る、不整な楕円形の鍛治関連土坑で、北側に浅い突出部をもつ。断面は方形で、埋土は4層に分層できる。搅乱と重なっていたため、埋土の大部分を失っている。第3・4層で多量の鉄滓と炭化物片が出土する。鉄滓は16.0kgが出土し、7点の楕形滓を含む。このほかに土師質土器片、羽口が出土。

#### 土坑14号（V地区 SK1014）（第872図）

V-1区西部南側、H6グリッドに位置する、長軸110cm短軸61cm深度34cmを測る隅丸長方形の鍛治関連土坑。主軸はN75°Wを向く。断面は逆台形状または袋状で、埋土は7層。全層で多量の鉄滓と炭化物片が出土。鉄滓は29.07kgが出土し、3点の楕形滓を含む。このほか土師質土器供膳具、羽口が出土。

#### 土坑15号（V地区 SK1015）（第873図）

V-1区西部南側、H6グリッドに位置し、北は遺構に切られる。長軸残存長40cm短軸35cm深度41cmを測る隅丸長方形の鍛治関連土坑。断面は方形で、埋土は3層に分層。第2・3層に多量の鉄滓と炭化物片を含む。鉄滓は3.02kg出土。このほかに羽口、凝灰岩製礫（割石）が出土。

#### 土坑16号（V地区 SK1016）（第874図）

V-1区西部南側、H6グリッドに位置する、長軸102cm短軸47cm深度44cmを測る隅丸長方形の鍛治関連土坑。主軸はN16°Eを向く。断面は袋状で、埋土は4層に分層でき、全層で多量の鉄滓と炭化物片が出土する。鉄滓は39.85kgが出土し、2点の楕形滓を含む。

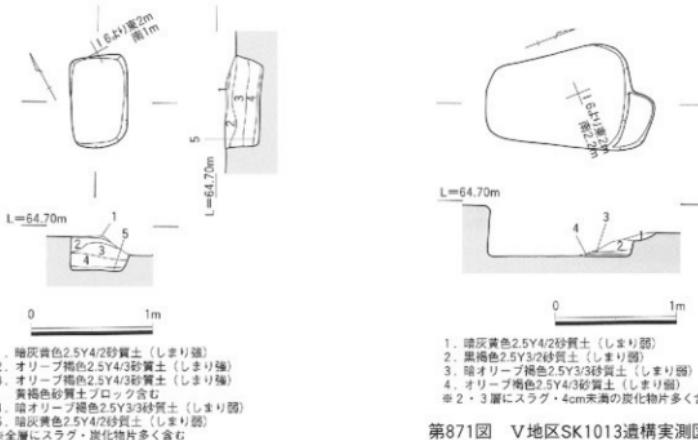
このほかの遺物は土師質土器片・供膳具・皿（静止糸切り）・煮炊具・羽口・錢貨が出土。1544は銅錢で、天聖元寶の真書体。北宋錢で1023年初鑄。遺構の年代は、出土遺物から16世紀代とみられる。

#### 土坑17号（V地区 SK1017）（第875図）

V-1区西部南側、H6グリッドに位置し、東は遺構に切られる。東西残存長59cm南北60cm深度44cmを測る隅丸方形の鍛治関連土坑。断面は逆台形状で、西端底面にピット状の掘り込みを伴う。埋土は2層に分層でき、全層で鉄滓0.85kgと炭化物片が出土。このほか遺物は須恵器片・土師質土器皿（静止糸切り）、羽口・砂岩製礫石が出土。遺構の年代は、出土遺物から16世紀代と考えられる。

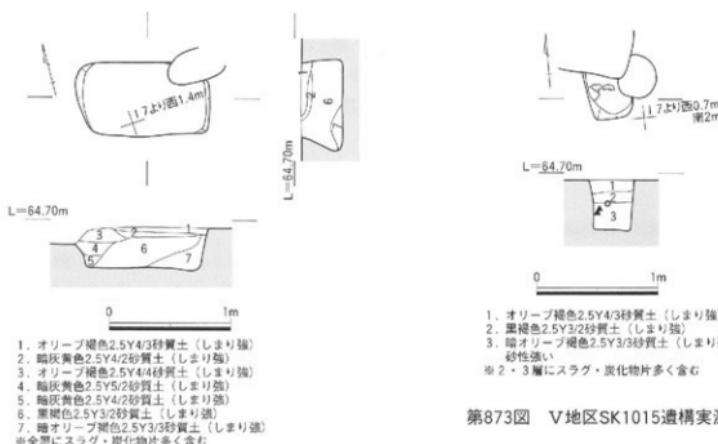
#### 土坑18号（V地区 SK1018）（第876・877図）

V-1区西部南側、H6グリッドに位置する、長軸92cm短軸53cm深度62cmを測る隅丸長方形の鍛治関連土坑。主軸はN15°Wを向く。断面は方形または袋状で、埋土は6層。全層で鉄滓8.08kgと炭化物片が出土。



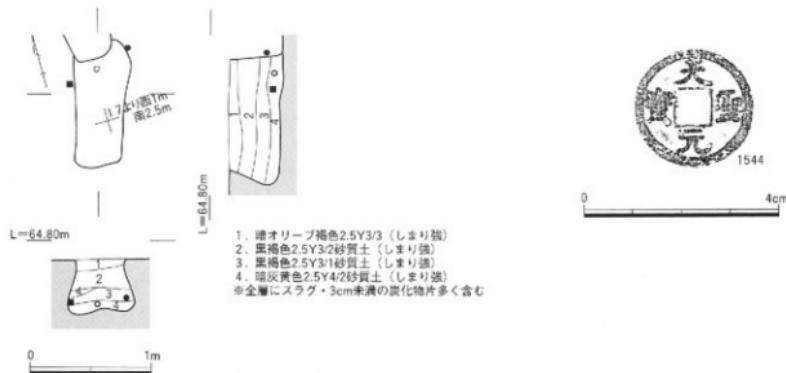
第871図 V地区SK1013遺構実測図

第870図 V地区SK1012遺構実測図



第873図 V地区SK1015遺構実測図

第872図 V地区SK1014遺構実測図



第874図 V地区SK1016遺構・遺物実測図

このほか遺物は土師質土器杯・皿（静止糸切り）、羽口、砂岩製台石、が出土。1545は砂岩製台石。上面に敲打痕を残し、側面の1ヶ所を底面として使用する。大きく4片に割れる。遺構の年代は、出土遺物から16世紀代と考えられる。

#### 土坑19号（V地区 SK1019）（第878図）

V-1区西部南側、H5・6グリッドに位置する、長軸100cm短軸65cm深度46cmを測る梢円形の鍛冶関連土坑。主軸はN16°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。全層で多量の鉄滓と炭化物片が出土。鉄滓は81.48kg出土し、14点の椀形滓を含む。

このほか遺物は土師質土器片・煮炊具、羽口、角礫凝灰岩製石臼が出土。1546は天霧産の角礫凝灰岩製石臼（上臼）。穿孔は確認できない。下面是凹面状で、磨耗著しく溝目確認できない。遺構の年代は、出土遺物から概ね16世紀代と考えられる。

#### 土坑20号（V地区 SK1020）（第879図）

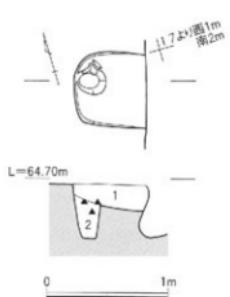
V-1区西部南側、H6グリッドに位置する、長軸80cm短軸34cm深度6cmを測る不整形の鍛冶関連土坑。主軸はN42°Eを向く。断面は浅い皿状で、埋土は1層である。鉄滓（0.3kg）・炭化物片を含む。

#### 土坑21号（V地区 SK1021）（第880図）

V-1区西部南側、H5・6グリッドに位置する、長軸124cm短軸75cm深度28cmを測る隅丸長方形の鍛冶関連土坑。主軸はN23°Eを向く。断面は方形またはわずかな袋状で、埋土は5層に分層。第1～3層で鉄滓（2.0kg）と炭化物片が出土する。

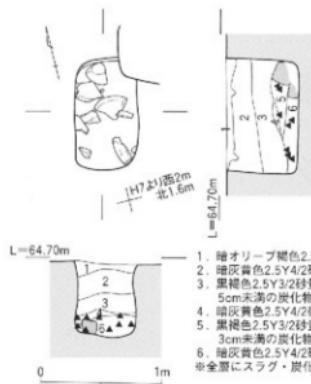
#### 土坑22号（V地区 SK1022）（第881図）

V-1区西部南側、H6グリッドに位置する、長軸98cm短軸54cm深度31cmを測る隅丸長方形の鍛冶関



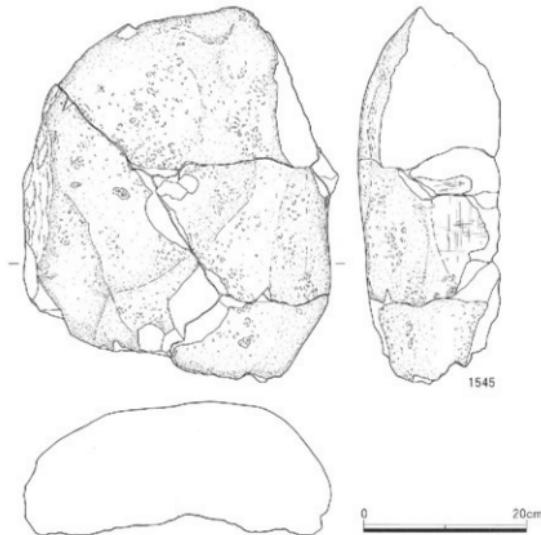
1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）  
2. 脳灰青色2.5Y4/2砂質土（しまり弱）  
※全層にスラグ・炭化物片含む

第875図 V地区SK1017遺構実測図

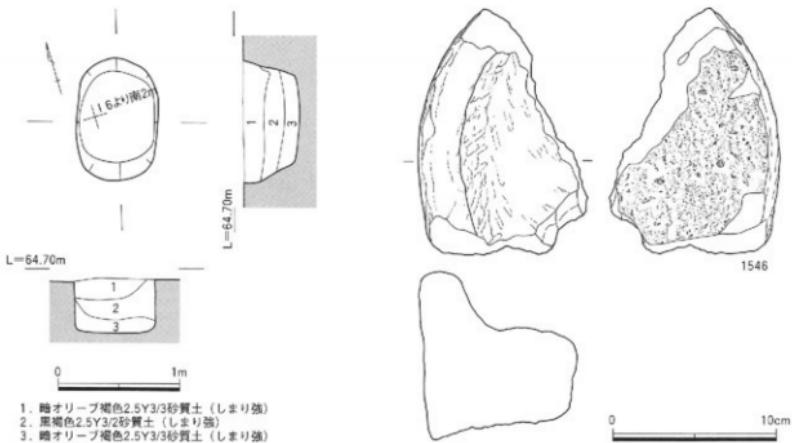


1. 緑オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土（しまり強）
2. 緑灰青色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
3. 黒褐色2.5Y3/2砂質土（しまり弱）  
5cm未満の炭化物片非常に多く含む
4. 緑灰青色2.5Y4/2砂質土（しまり弱）
5. 緑褐色2.5Y3/2砂質土（しまり強）  
3cm未満の炭化物片多く含む、砂性強い
6. 緑灰青色2.5Y4/2砂質土（しまり弱）  
※全層にスラグ・炭化物片多く含む

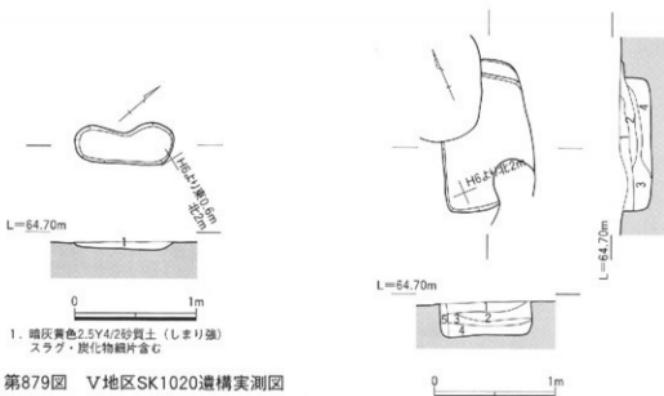
第876図 V地区SK1018遺構実測図



第877図 V地区SK1018遺物実測図



第878図 V地区SK1019遺構・遺物実測図



第879図 V地区SK1020遺構実測図

1. 噴灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）  
灰白色シルトブロック含む
2. 脱オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土（しまり強）
3. 脱オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土（しまり強）
4. 噴灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）  
灰白色シルトブロック含む
5. 噴灰黄色2.5Y5/2砂質土（しまり強）  
※1～3層にスラグ・2cm未満の炭化物片多く含む

第880図 V地区SK1021遺構実測図

連土坑。上軸はN22°Eを向く。断面は方形で、埋土は6層に分層。第1～3層で鉄滓と炭化物片が出土。鉄滓は5.11kgが出土し、1点の楕形滓を含む。このほか土師質上器杯、羽口が出土。

#### 土坑23号（V地区 SK1023）（第882図）

V-1区西部南側、H5グリッドに位置する、長軸110cm短軸81cm深度37cmを測る隅丸長方形の鍛冶関連土坑。主軸はN5°Eを向く。断面は方形または袋状で、埋土は5層。第2～4層で鉄滓と炭化物片が出土。鉄滓は27.24kg出土し、3点の楕形滓を含む。このほか上師器壺、土師質土器片・供膳具、羽口が出土。

#### 土坑24号（V地区 SK1024）（第883図）

V-1区西部南側、H5グリッドに位置する、長軸198cm短軸173cm深度8cmを測る不整な方形の鍛冶関連土坑。断面は浅い皿状で、埋土は3層に分層できる。遺物は須恵器片、鉄滓0.53kgが出土。

#### 土坑25号（V地区 SK1025）（第884図）

V-1区西部南側、H5グリッドに位置する、長軸88cm短軸64cm深度30cmを測る楕円形の鍛冶関連土坑。主軸はN76°Wを向く。断面は袋状で、埋土は5層。全層で鉄滓10.44kgと炭化物片、羽口が出土。

#### 土坑27号（V地区 SK1027）（第885図）

V-1区西部北端、L8グリッドに位置する、長軸96cm短軸66cm深度36cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN54°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は4層。遺物は土師器片、土師質土器煮炊具、羽口、鉄製品片、鉄滓、結晶片岩製加工円礫・叩石が出土。1547は結晶片岩製叩石。片面中央にのみ敲打痕を残す。1548は結晶片岩製加工円礫。扁平な円礫の側面を研削整形する。用途不明。羽口・鉄滓の出土から鍛冶関連造構の可能性がある。

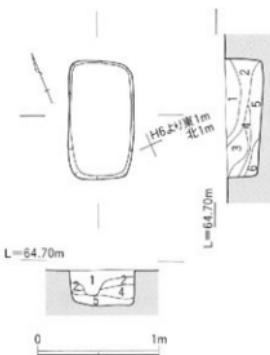
#### 土坑28号（V地区 SK1028）（第886図）

V-1区中央部北側、K9グリッドに位置する、長軸150cm短軸84cm深度22cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN79°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層である。

遺物は須恵器壺、土師質上器供膳具、鉄滓、頁岩製有孔礫が出土。1549は須恵器壺の下半部。無高台で細身の体部をもつ。8世紀後半～9世紀頃とみられる。1550は頁岩とみられる円形の礫で、中央に円孔を有する自然礫。外周は風化により白色化。用途の一例として、三好郡の民俗例に吉野川で採取した穴あき石を病除けとして庚申塔に掛ける事例がある。本遺物も何らかの目的で持ち込まれ、埋納あるいは混入した可能性がある。

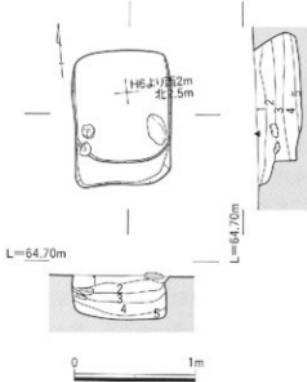
#### 土坑32号（V地区 SK1032）（第887図）

V-1区中央部北側、J10グリッドに位置し、東は造構に切られる。南北85cm東西残存長46cm深度37cmを測る楕円形の土坑。断面はU字状で、埋土は3層。遺物は土師器煮炊具、須恵器片、鉄製品片、鉄滓が出土。



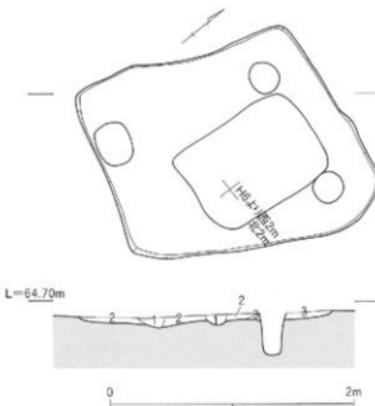
1. 褐灰色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
  2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
  3. 褐灰色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
  4. 灰白色シルトブロック含む・砂性強い
  5. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）
  - 黄褐色シルトブロック含む
  6. 褐灰色2.5Y4/2砂質土（しまり弱）
  - 黄褐色シルトブロック含む
- ※ 1～3層にスラグ・炭化物片含む

第881図 V地区SK1022遺構実測図



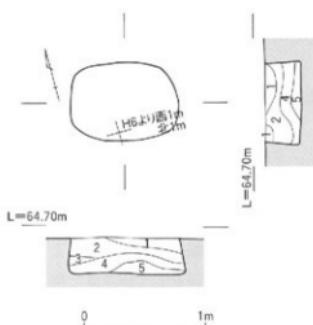
1. 黒褐色2.5Y3/2砂質土（しまり強）
  2. 黒褐色2.5Y3/1砂質土（しまり強）
  3. 脊オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土（しまり強）
  4. 黒褐色2.5Y3/1砂質土（しまり強）
  - 黄褐色砂質ブロック含む・砂性強い
  5. 褐灰色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
  - 灰白色シルトブロック含む・砂性強い
- ※ 2～4層にスラグ・炭化物片含む

第882図 V地区SK1023遺構実測図



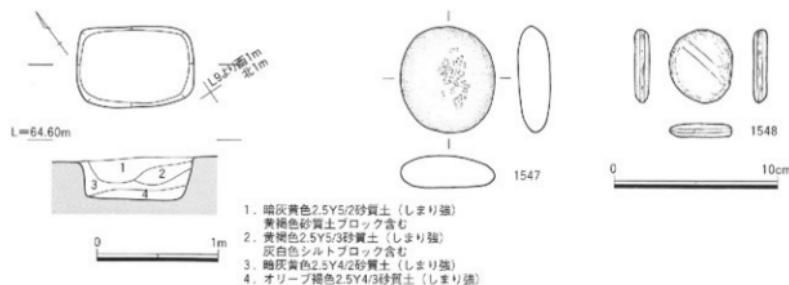
1. 褐灰色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
- 灰白色シルトブロック含む
2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
3. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）
- 砂性強い

第883図 V地区SK1024遺構実測図

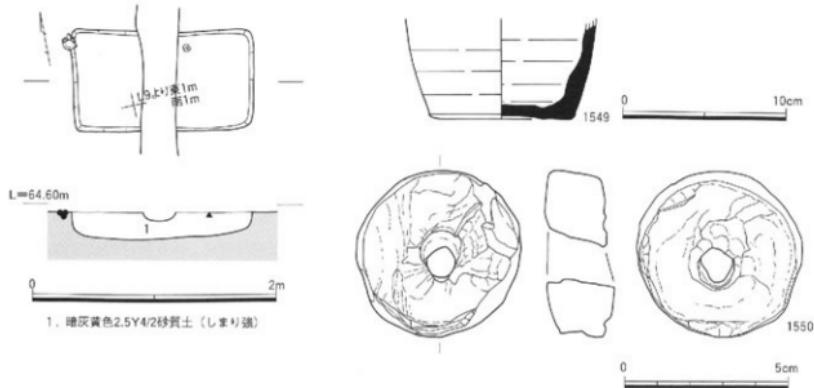


1. 脊オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土（しまり強）
  - 砂性強い
  2. 黒褐色2.5Y3/2砂質土（しまり強）
  - 砂性強い
  3. 褐灰色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
  4. 黑褐色2.5Y3/2砂質土（しまり強）
  5. 脊オリーブ褐色2.5Y3/3砂質土（しまり弱）
  - 砂性弱い
- ※全層にスラグ・2cm未満の炭化物片多く含む

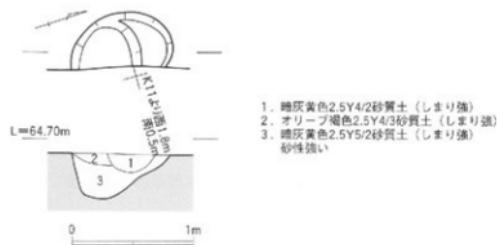
第884図 V地区SK1025遺構実測図



第885図 V地区SK1027遺構・遺物実測図



第886図 V地区SK1028遺構・遺物実測図



第887図 V地区SK1032遺構実測図

#### 土坑36号（V地区 SK1036）（第888図）

V－1区東部北側、II2・13グリッドに位置する、長軸137cm短軸52cm深度27cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN63°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。遺物は土師器煮炊具・壺、須恵器片が出土している。1551は土師器壺の上半部。口縁端部を上方に拡張。体部外面にタテハケ、口縁内面にヨコハケを施す。

#### 土坑37号（V地区 SK1037）（第889図）

V－1区東部北側、J13グリッドに位置する、長軸96cm短軸65cm深度43cmを測る不整な梢円形の土坑。主軸はN73°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層である。埋土に10～30cmの碟を多量に含む。碟の配置に規則性は見いだせない。

遺物は須恵器壺、土師質土器杯（静止糸切り）・煮炊具（格子タタキ）・羽釜（内耳）が出土。1552は無高台の須恵器壺の下半部。1553は土師質土器羽釜。鈎部は退化し、わずかに凸帯状に残る。折り曲げ技法の一種か。口縁に内耳部を有し、鈎部を拡張して把手を作る。内外面は板ナアを施す。遺構の年代は、出土遺物から16世紀代と考えられる。

#### 土坑38号（V地区 SK1038）（第890・891図）

V－1区東部北側、J13グリッドに位置する、長軸206cm短軸180cm深度76cmを測る隅丸方形の土坑。主軸はN17°Eを向く。断面は逆台形状で、南東側底面が深く落ち込む。埋土は8層に分層。遺構東半部の第1～4層に10～40cm大の碟が集中する。

遺物は土師器煮炊具・壺、須恵器片、土師質土器杯（静止糸切り）・擂鉢・羽釜、羽口、鉄滓が出土。1554・1555は土師器壺の上半部。口縁端部をぐるわざかに上方につまみ上げる。体部外面にタテハケ、口縁内面にヨコハケを施す。1556・1557は土師質土器羽釜の上半部。鈎部は短く、折り曲げ技法で作る。1558は土師質土器擂鉢の上半部。口縁端部を内上方に拡張する。片口を設ける。体部外面に横位に連続する指頭圧痕を残し、内面横位の板ナデのち捲口を施す。

羽口・鉄滓の出土から、鍛冶関連遺構の可能性がある。

遺構の年代は、出土遺物から16世紀代と考えられる。

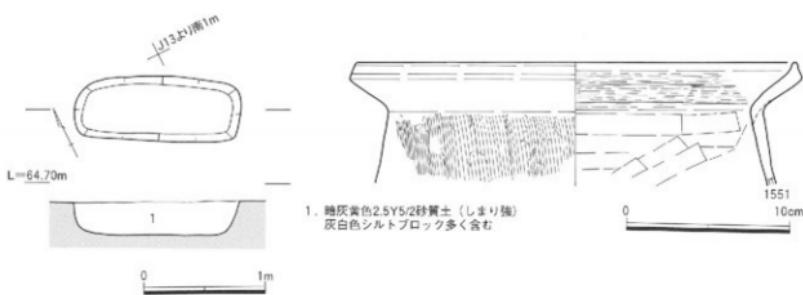
#### 土坑39号（V地区 SK1039）（第892図）

V－1区東端部北側、J14グリッドに位置する、長軸100cm短軸81cm深度39cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN75°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。第1～2層に10～35cm大の碟が集中。配置に規則性は見いだせない。遺物は土師質土器煮炊具・羽釜（内耳）、鉄製品片、鉄滓が出土。

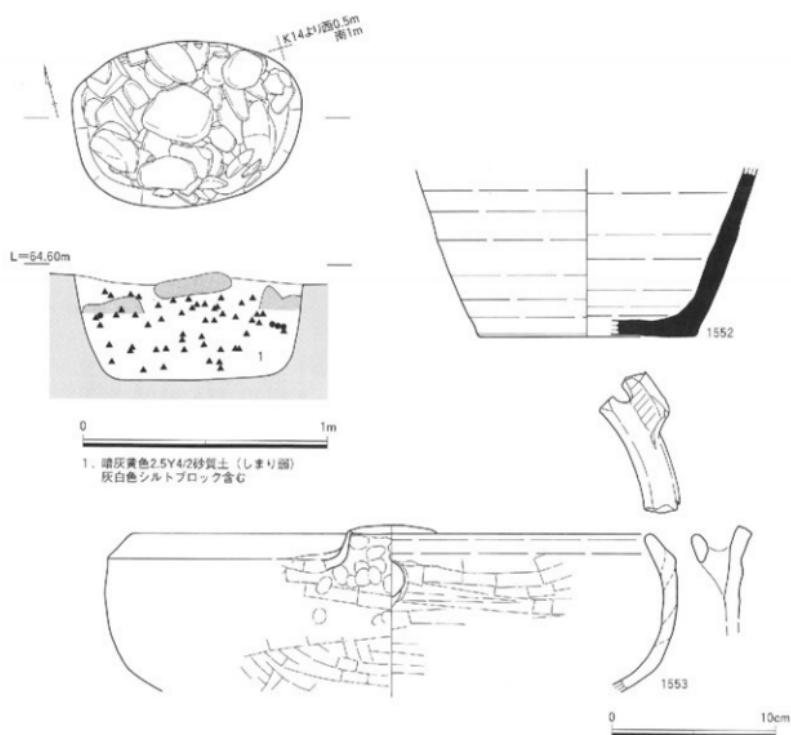
#### 土坑45号（V地区 SK1045）（第893・894図）

V－2区西端部北端、J15・16グリッドに位置する、長軸204cm短軸138cm深度64cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN80°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は5層に分層。南西隅部の第1層で10～20cm大の碟3点が出土する。

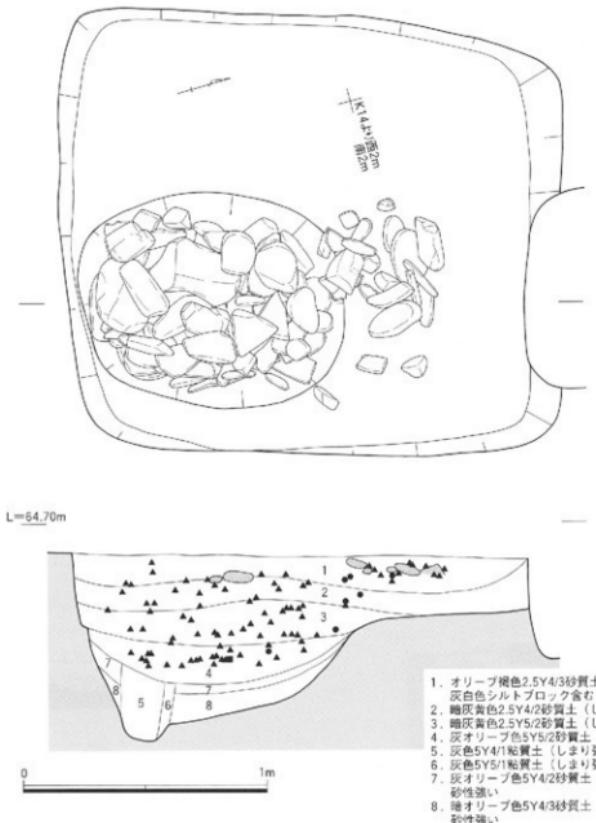
遺物は土師器壺、砂岩製砥石（台石）が出土。1559は土師器壺の上部。体部にタテハケの痕跡を残し、外縁内面にヨコハケを施す。1560は砂岩製砥石。4面を使用する。網掛け部は被熱による赤変部である。



第888図 V地区SK1036遺構・遺物実測図



第889図 V地区SK1037遺構・遺物実測図

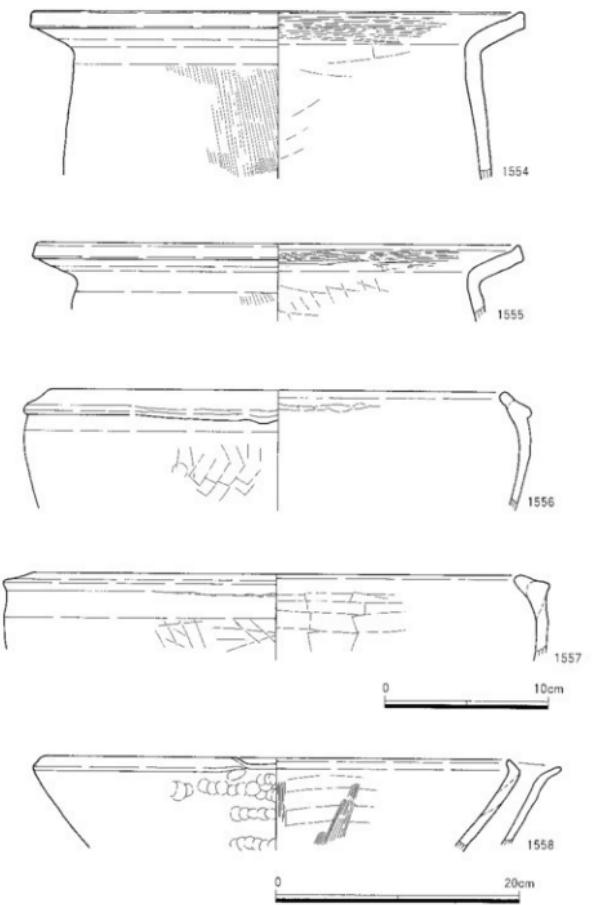


第890図 V地区SK1038遺構実測図

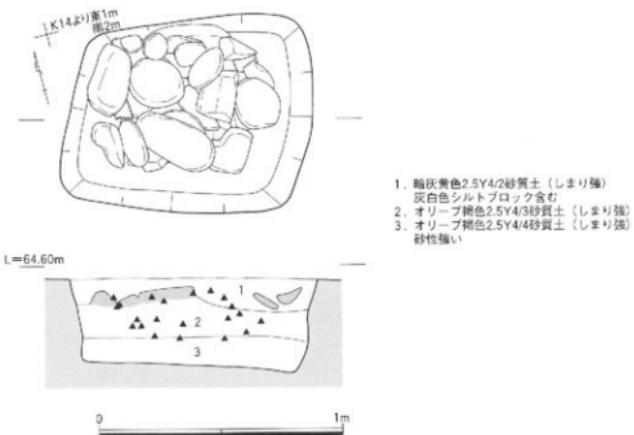
1561は砂岩製台石。上面中央に敲打痕が集中する。網掛け部は被熱による赤変部である。

#### 土坑46号 (V地区 SK1046) (第895図)

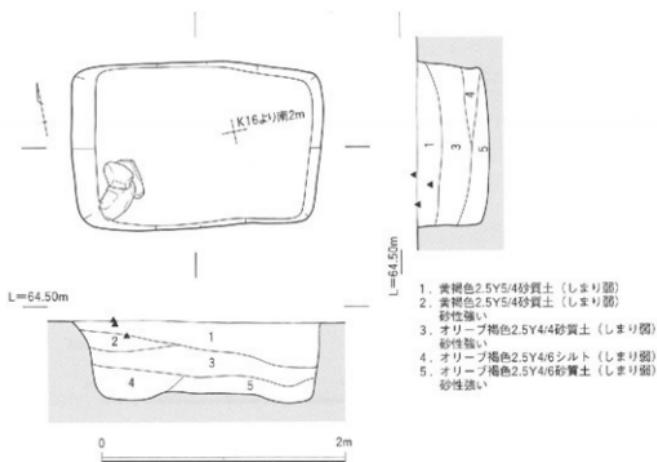
V-2区西部中央、F・G15グリッドに位置する、長軸162cm短軸52cm深度60cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN9°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層でき、焼土をわずかに含む。遺物は土師器片、土師質土器片・杯が出土。1562は土師質土器杯の底部。回転台成形であるが、底部外面は磨耗により切り離し技法不明。



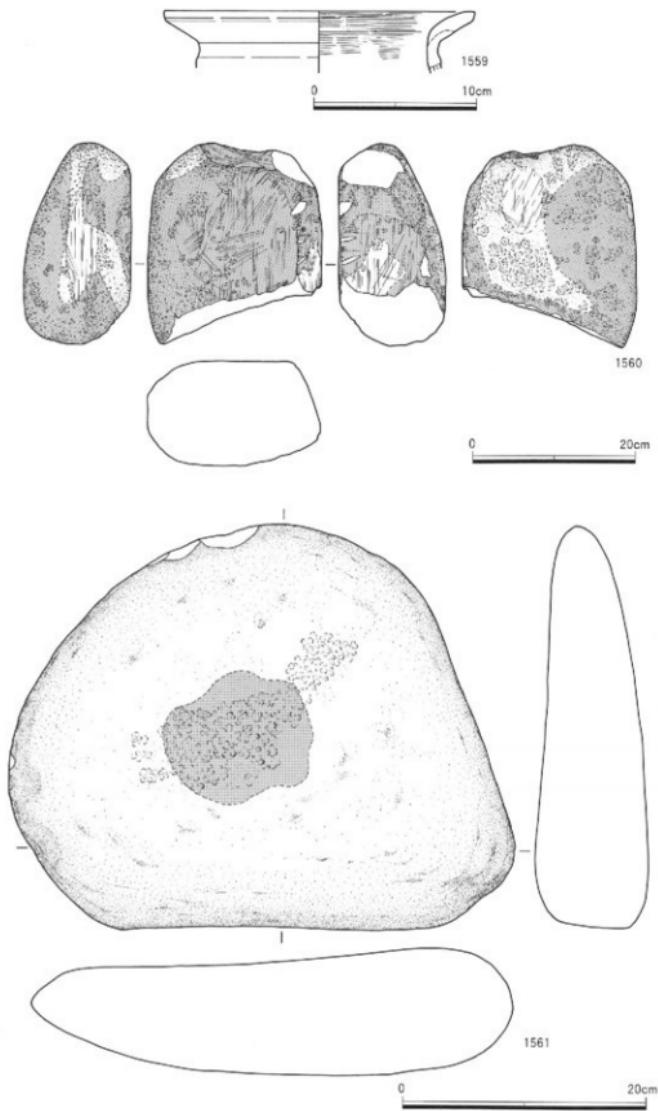
第891図 V地区SK1038遺物実測図



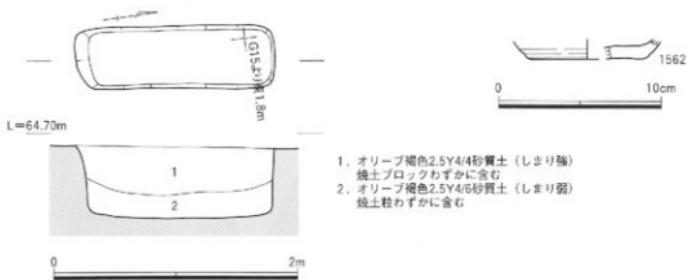
第892図 V地区SK1039遺構実測図



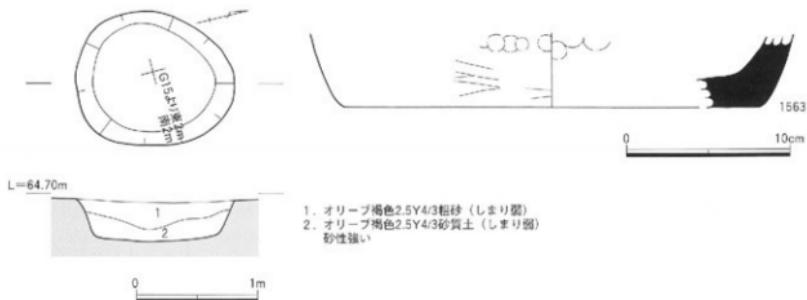
第893図 V地区SK1045遺構実測図



第894図 V地区SK1045遺物実測図



第895図 V地区SK1046遺構・遺物実測図



第896図 V地区SK1047遺構・遺物実測図

#### 土坑47号（V地区 SK1047）（第896図）

V-2区西部南寄り、F15グリッドに位置する、長軸130cm短軸111cm深度32cmを測る楕円形の土坑。主軸はN14°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は土師器片、土師質土器片、煮炊具脚部、備前焼陶器甕が出土。1563は備前焼陶器甕の下部。概ね中世後半期とみられる。

#### 土坑50号（V地区 SK1050）（第897図）

V-2区西部南寄り、E・F14・15グリッドに位置する、長軸233cm短軸79cm深度28cmを測る長楕円形の土坑。主軸はN20°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。10~50cm大の甕が出土し、遺構北寄りに大型甕が集中。

遺物は土師器煮炊具、製塩土器、須恵器片、土師質土器羽釜・擂鉢、備前陶器片、青磁碗が出土。1564は青磁碗の底部。内面にヘラ描きの陰刻文を施す。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗I-4類の可能性が高く、12世紀中頃～後半の年代が与えられる。1565は土師質土器羽釜。鈴部は退化し、口縁と近接し、間に浅い凹線状の段が廻る。体部内外面は板ナデを施し、底部外面に格子タタキを施す。

遺構の年代は、出土遺物に時期幅があるが、16世紀代と考えられる。

#### 土坑52号（V地区 SK1052）（第898図）

V-2区西部南側、D・E14グリッドに位置する、長軸165cm短軸90cm深度69cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN9°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。土壤幕の可能性あり。遺物は土師器片、製塙土器、須恵器片・壺、土師質土器脚部、陶器片が出土。1566は製塙土器の上半部。体部外面に指頭圧痕を残し、内面ナデ。1567・1568は須恵器壺の底部。8世紀後半～9世紀頃とみられる。

#### 土坑54号（V地区 SK1054）（第899図）

V-2区西端部南端、C・D13・14グリッドに位置する、長軸294cm短軸64cm深度35cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN25°Eを向く。断面は逆台形状で、底面は起伏がある。埋土は2層に分層。北半部の埋土下位および南端部の埋土上位で、10~40cm大の礫が出土。

遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片、土師質土器片・皿が出土。1569は土師質土器皿の底部。底部外面上に静止糸切り痕を残す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。16世紀代と考えられる。

#### 土坑61号（V地区 SK1061）（第900図）

V-2区西部北寄り、G・H16グリッドに位置する、長軸164cm短軸88cm深度14cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN64°Wを向く。断面は浅い皿状で、埋土は1層である。遺物は須恵器杯、土師質土器片が出土。1570は無高台の須恵器杯。

#### 土坑62号（V地区 SK1062）（第901図）

V-2区西部北寄り、G16グリッドに位置する、長軸98cm短軸51cm深度56cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN64°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。遺物は須恵器片、土師質土器片、粘板岩製鏡が出土。1571は粘板岩製鏡で上半を欠くとみられる。陸部から海部に向けて落ち込み、底部は薄い。使用によって磨耗・研削され、徐々に深く掘り込まれていったものと考えられる。

#### 土坑66号（V地区 SK1066）（第902図）

SK1066・1068～1081は、南北主軸をもつ長楕円形または隅丸長方形の土坑で、直線状に列ぶ。配置や方位から土壤幕の可能性が考えられるが、土層には明瞭な痕跡はみられない。

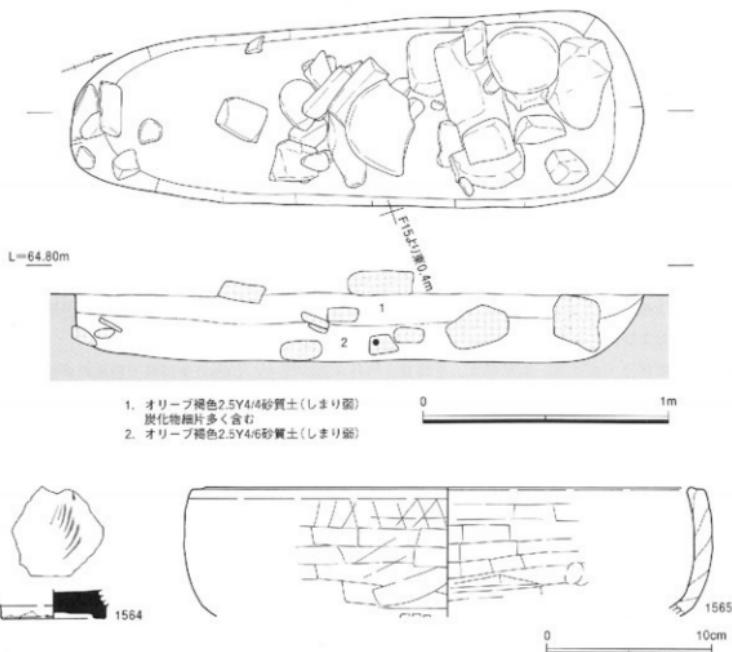
SK1066はV-2区西部南寄り、E・F16グリッドに位置する、長軸215cm短軸70cm深度43cmを測る長楕円形の土坑。主軸はN5°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。

遺物は須恵器片・杯、土師質土器片・羽釜が出土。1572は土師質土器羽釜の上半部。鋲部は折り曲げ技法で作り、体部内外面に指頭圧痕のち板ナデを施す。概ね15世紀代と考えられる。

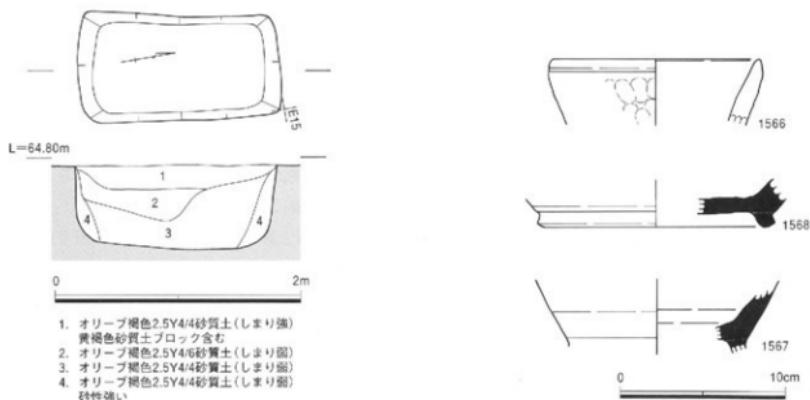
#### 土坑68号（V地区 SK1068）（第903図）

V-2区西部南側、E16グリッドに位置する、長軸216cm短軸70cm深度78cmを測る長楕円形の土坑。主軸はN1°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。

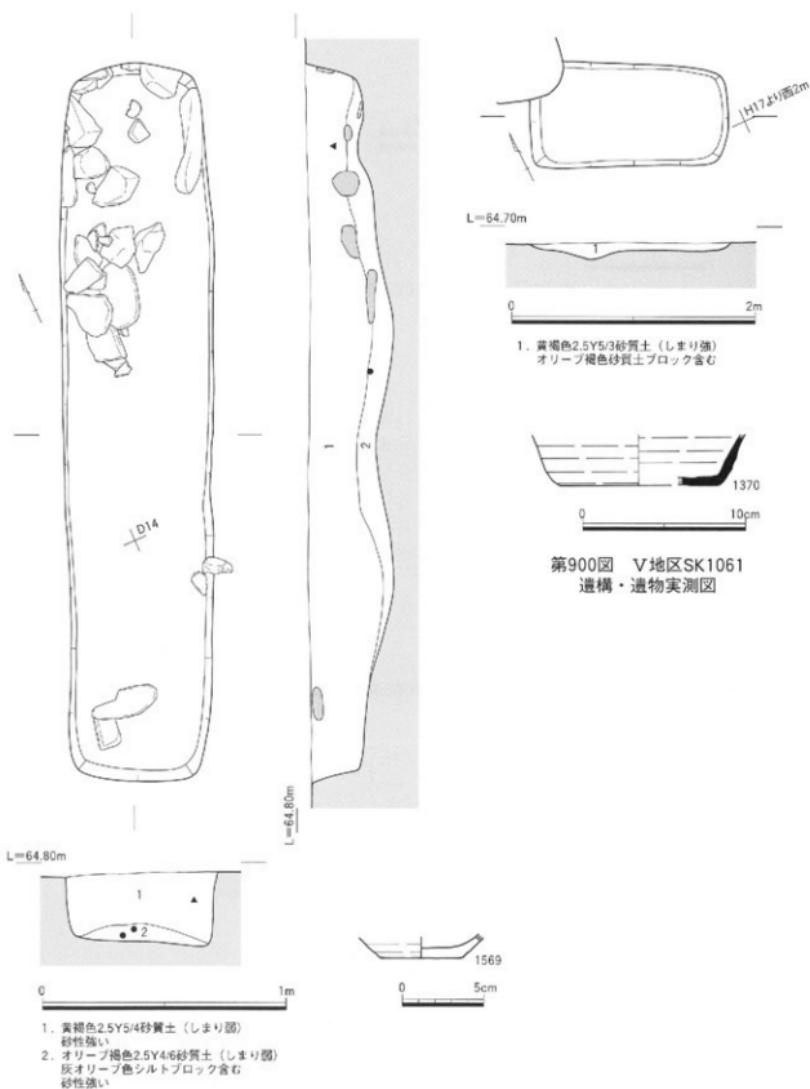
遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片、土師質土器片・皿（静止糸切りほか）が出土。1573は土師質土



第897図 V地区SK1050遺構・遺物実測図



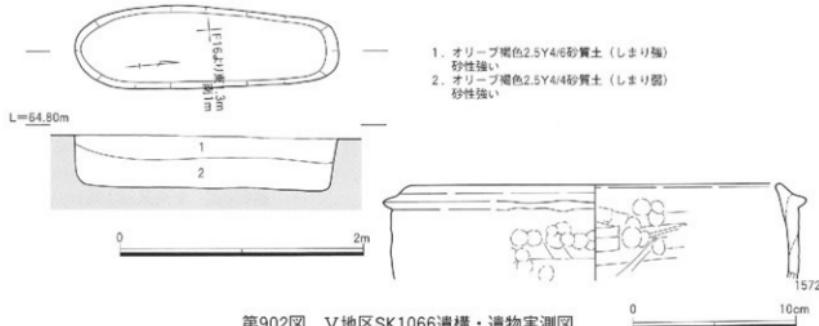
第898図 V地区SK1052遺構・遺物実測図



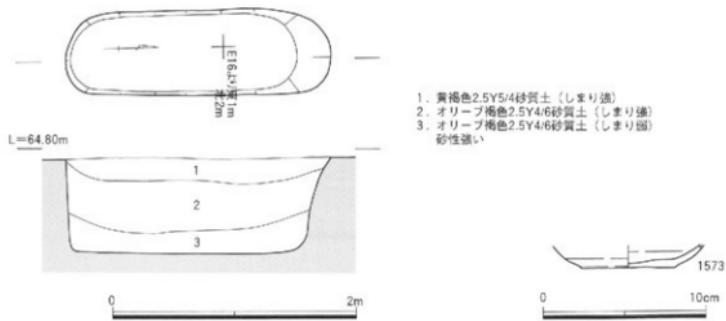
第899図 V地区SK1054遺構・遺物実測図



第901図 V地区SK1062遺構・遺物実測図



第902図 V地区SK1066遺構・遺物実測図



第903図 V地区SK1068遺構・遺物実測図

器皿の下半部。底部外面に静止糸切り痕を残す。胎土に結晶片岩を含むとみられる。遺構の年代は、出土遺物に時期幅があるが、一連の土坑群は古代が主体であることから、概ね8～9世紀と考えられる。

#### 土坑70号（V地区 SK1070）（第904図）

V-2区西部南側、D16グリッドに位置する、長軸197cm短軸50cm深度26cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN0°WEを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。遺物は須恵器杯・土師質土器片・煮炊具が出土。1574は須恵器杯の底部。8世紀代とみられる。

#### 土坑76号（V地区 SK1076）（第905図）

V-2区西部南端、C15グリッドに位置する、長軸180cm短軸74cm深度56cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN14°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層できる。遺物は土師器煮炊具・須恵器片・杯・土師質土器片が出土。1575は須恵器杯の底部。8世紀代とみられる。

#### 土坑81号（V地区 SK1081）（第906図）

V-2区西部南端、B・C16グリッドに位置する、長軸134cm短軸54cm深度45cmを測る不整な隅丸長方形土坑。主軸はN22°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。第2層上位を中心に10～40cm大の礫が多く出土する。出土遺物は1点のみで、1576は須恵器蓋で天井部中央を欠く。8～9世紀頃とみられる。

#### 土坑83号（V地区 SK1083）（第907図）

V-2区西部北寄り、G17グリッドに位置する、長軸90cm短軸49cm深度20cmを測る不整形土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層。埋土上位から10～30cm大の礫が出土。配置に規則性は見いだせない。

遺物は土師質土器杯（静止糸切り）・皿・擂鉢・煮炊具・羽釜が出土。1577は土師質土器皿の底部。静止糸切り痕を残す。胎土に結晶片岩を含むとみられる。1578は土師質土器羽釜の上半部。鶴部を折り曲げ技法で作る。1579は土師質土器擂鉢の上部。口縁端部を内上方に拡張する。1580は土師質土器擂鉢で、底部を欠く。口縁はやや肥厚するが、鶴部の拡張はみられない。体部外面に指頭圧痕を残し、内面横位の板ナデのち擣目を施す。遺構の年代は、出土遺物から15～16世紀代と考えられる。

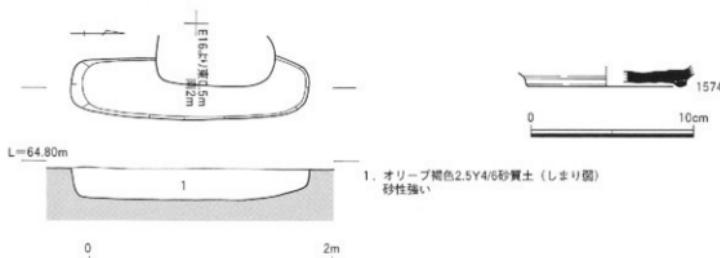
#### 土坑84号（V地区 SK1084）（第908図）

V-2区西部中央、F・G17グリッドに位置する、長軸184cm短軸48cm深度54cmを測る長楕円形の土坑。主軸はN89°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。遺構西端部の第2層下位で10～30cm大の礫が集中。遺構東側でも30cm大の礫が1点出土。

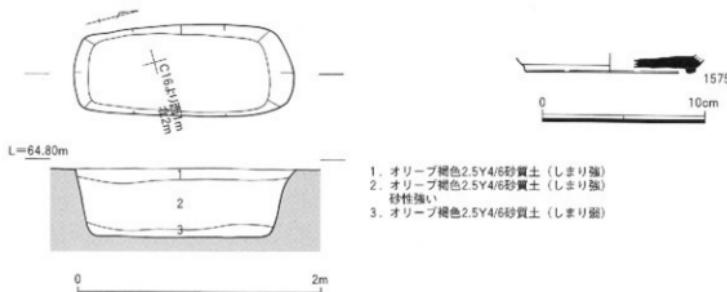
遺物は土師質土器片・煮炊具（格子タタキ・脚部ほか）、結晶片岩製砥石が出土。1581・1582は結晶片岩製砥石。1581は3面使用し、うち1面に沈線状の研痕多数を残す。1582は2面使用。

#### 土坑86号（V地区 SK1086）（第909図）

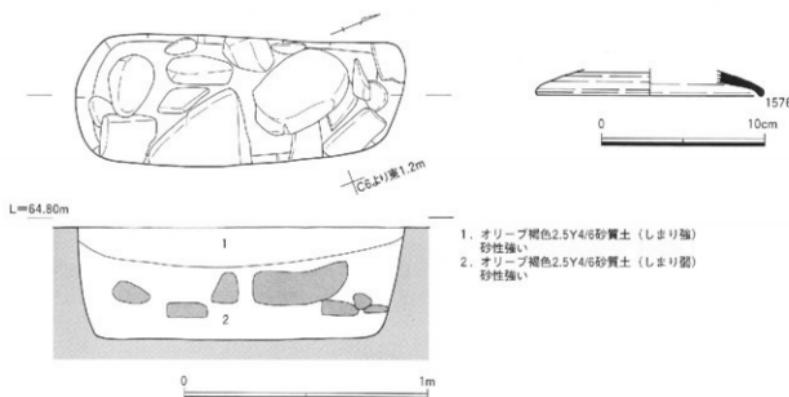
V-2区西部南寄り、E・F16グリッドに位置する、長軸160cm短軸60cm深度53cmを測る不整な隅丸長方形の土坑。主軸はN77°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。第1層上位で、10～20cm



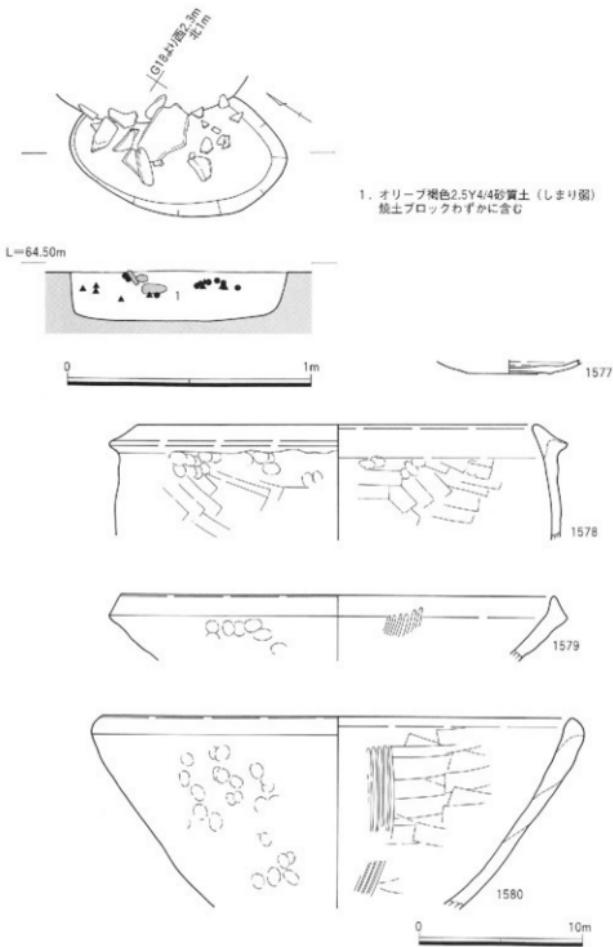
第904図 V地区SK1070遺構・遺物実測図



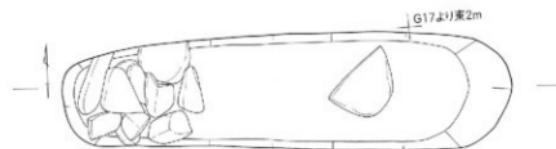
第905図 V地区SK1076遺構・遺物実測図



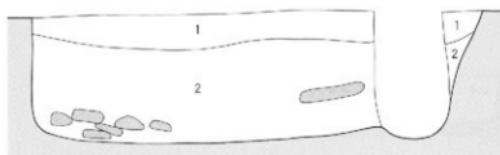
第906図 V地区SK1081遺構・遺物実測図



第907図 V地区SK1083遺構・遺物実測図

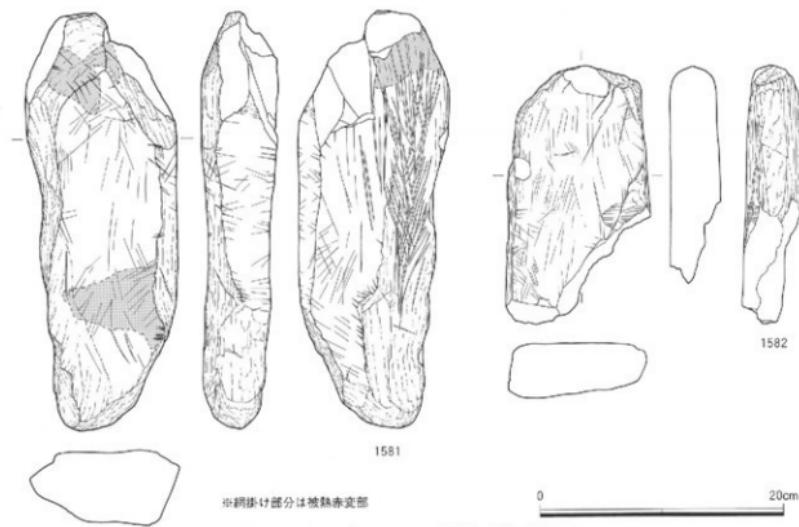


L=64.60m



0 1m

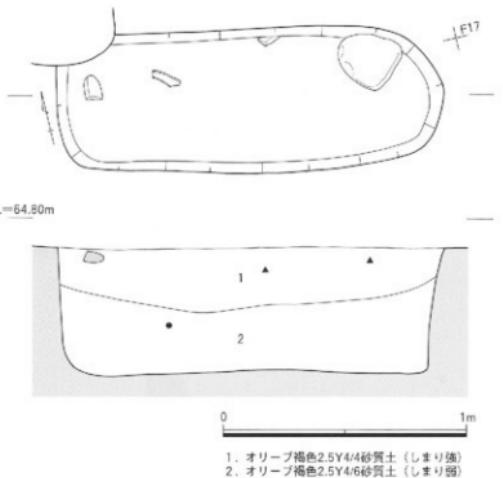
1. オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土（しまり強）  
付性強  
2. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）



\*網掛け部分は被熱赤鉄部

0 20cm

第908図 V地区SK1084遺構・遺物実測図



第909図 V地区SK1086遺構・遺物実測図

大の疊4点が出土。遺物は土師質土器杯（回転糸切り）・煮炊具・羽釜が出土。1583は土師質土器羽釜の上半部。鉢部を折り曲げ技法で作る。14~15世紀頃か。

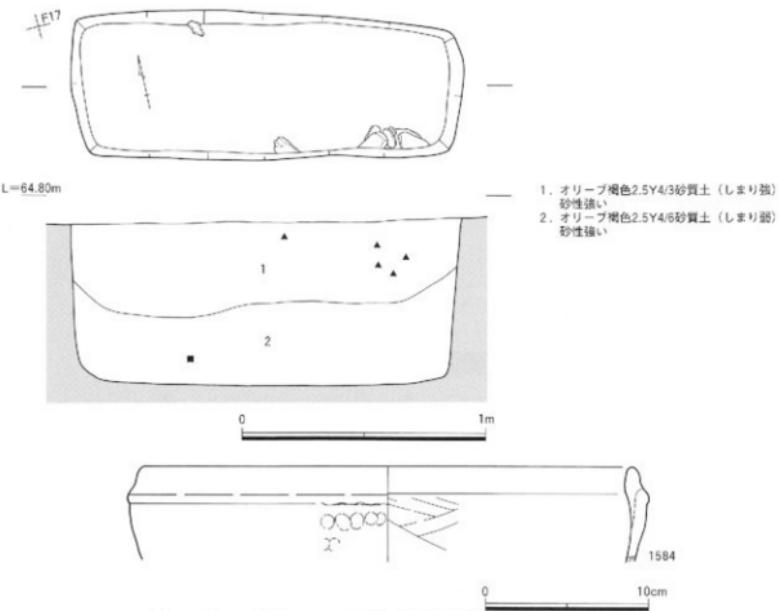
#### 土坑87号（V地区 SK1087）（第910図）

V-2区西部南寄り、E17グリッドに位置する、長軸160cm短軸60cm深度67cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN78°Wを向く。断面は方形で、埋土は2層。10cm前後の疊が第1層から少量出土。

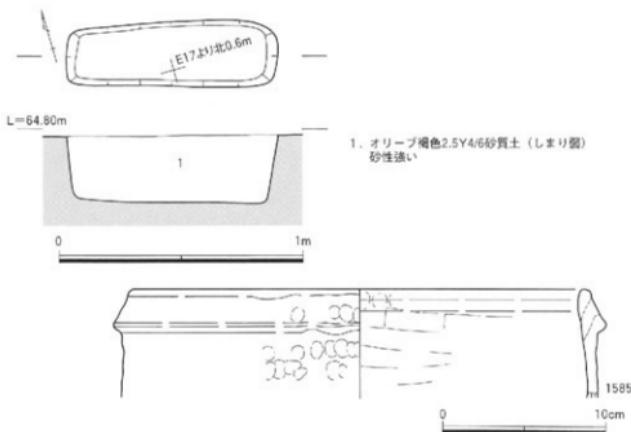
遺物は須恵器片、土師質土器片・羽釜、鉄製品片、鉄滓が出土。1584は土師質土器羽釜の上半部。鉢部は低い凸帯状で、折り曲げ技法で作る。外面に指頭圧痕を残し、内面板ナデを施す。形状から東予型羽釜の一種とみられる。15~16世紀代とみられる。

#### 土坑89号（V地区 SK1089）（第911図）

V-2区西部南寄り、E16・17グリッドに位置する、長軸86cm短軸27cm深度27cmを測る隅丸長方形土



第910図 V地区SK1087遺構・遺物実測図



第911図 V地区SK1089遺構・遺物実測図

坑。主軸はN74°Wを向く。断面逆台形状で、埋土は1層。遺物は土師質土器杯・煮炊具（脚部ほか）、羽釜が出土。1585は東予型の土師質土器羽釜。鉢部は低い凸帯状で、折り曲げ技法で作る。外面の整形は雑である。体部外面に指痕圧痕を残し、内面横位の板ナデを施す。15~16世紀代とみられる。

#### 土坑90号（V地区 SK1090）（第912図）

V-2区西部南寄り、D-E16グリッドに位置する、長軸120cm短軸90cm深度29cmを測る不整形土坑。断面は逆台形状で、埋土は2層。埋土上位を中心に10~30cm大の礫が出土するが、配置に規則性は見いだせない。遺物は土師質土器杯・煮炊具、凝灰岩製砥石が出土。1586は凝灰岩製砥石。6面使用し、部分的に鑿痕を残す。

#### 土坑96号（V地区 SK1096）（第913図）

V-2区西部南側、D16・17グリッドに位置し、西は搅乱に切られる。長軸84cm短軸残存長42cm深度23cmを測る楕円形土坑。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は上師器片（赤彩ほか）、角礫凝灰岩製石臼が出土。1587は天霧産の角礫凝灰岩製石臼。供給孔が貫通するが、径が大きい。下面是凹面状で、磨耗著しく溝目確認できない。概ね15~16世紀代と考えられる。

#### 土坑98号（V地区 SK1098）（第914図）

V-2区西部南端、C16・17グリッドに位置する、長軸284cm短軸46cm深度31cmを測る長楕円形の土坑。主軸はN76°Wを向く。断面は逆台形状で、底面は東に向けて下がる。埋土は1層である。遺物は土師器煮炊具、須恵器杯が出土。1588は高台付の須恵器杯で、口縁を欠く。8世紀後半頃か。

#### 土坑100号（V地区 SK1100）（第915図）

V-2区西部南側、C17グリッドに位置する、長軸174cm短軸144cm深度34cmを測る不整形の土坑。主軸はN74°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。埋土上位を中心に10~40大の礫が出土するが、配置に規則性は見いだせない。

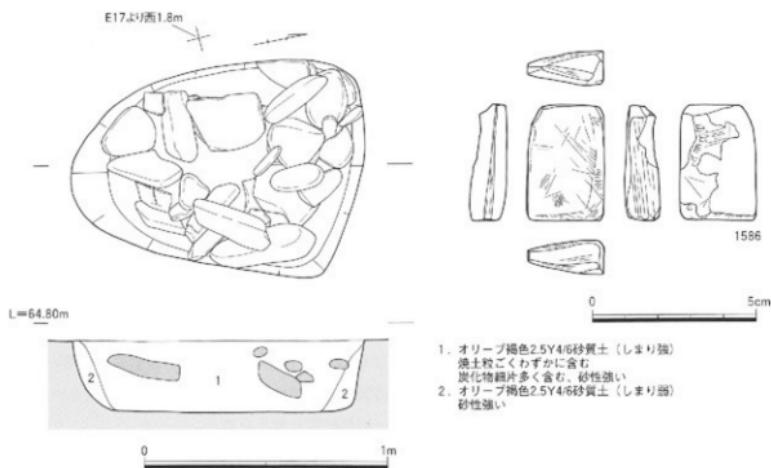
遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片、瓦質土器擂鉢、砂岩製砥石（台石）が出土。1589は瓦質土器擂鉢。口縁端部を上方に拡張。体部外面に横位に連続してユビオサエを施し、下位にヘラケズリを施す。内面ヨコナデのち描目を施す。胎上に砂岩を含む。炭素吸着はやや不良。1590は砂岩製砥石（台石）。2面を使用し、部分的に敲打痕を残す。

#### 土坑105号（V地区 SK1105）（第916図）

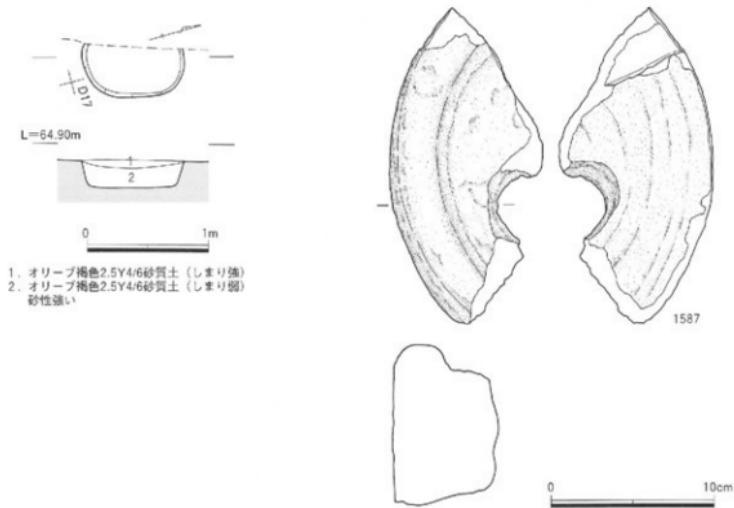
V-2区西部北寄り、G17・18グリッドに位置する、長軸138cm短軸50cm深度24cmを測る楕円形の土坑。主軸はN19°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は土師質土器杯・煮炊具・羽釜が出土。1591は土師質土器羽釜の上半部。鉢部を折り曲げ技法で作る。体部外面ユビオサエのち板ナデ、内面横位の板ナデを施す。14~15世紀代と考えられる。

#### 土坑107号（V地区 SK1107）（第917図）

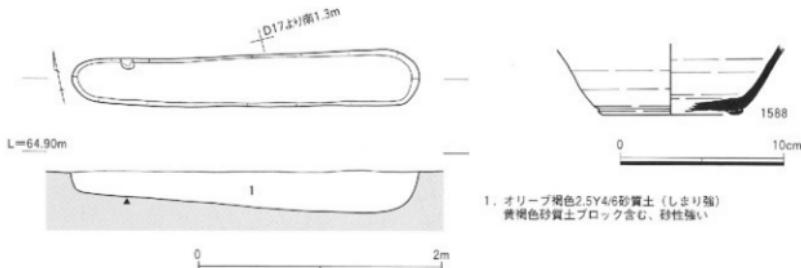
V-2区中央部北寄り、G18グリッドに位置する、長軸108cm短軸55cm深度30cmを測る不整な隅丸長



第912図 V地区SK1090遺構・遺物実測図



第913図 V地区SK1096遺構・遺物実測図



第914図 V地区SK1098遺構・遺物実測図

方形の土坑。主軸はN10°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層である。遺物は土師質土器片・煮炊具・羽釜・鉄滓が出土。1592・1593は土師質土器羽釜の上部。鈎部は折り曲げ技法で作る。1592は胎土に砂岩を含む。15世紀前後とみられる。

#### 土坑108号（V地区 SK1108）（第918図）

V-2区中央部北寄り、G18グリッドに位置する、長軸94cm短軸87cm深度30cmを測る不整な隅丸方形の土坑。主軸はN4°Wを向く。断面逆台形状で、埋土は1層。

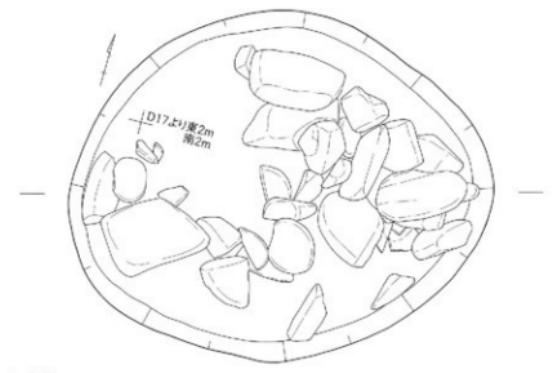
遺物は土師器片・須恵器片・土師質土器片・羽釜が出土。1594は土師質土器羽釜。鈎部は退化して、口縁と体部との間にわずかな稜をつくるのみである。口縁端部は尖る。体部外面にユビオサエのち縦・横位の板ナデ、底部外面は横位の板ナデ、体部内面はヨコハケ、底部内面は横位の板ナデを施す。タタキは確認できない。16世紀代とみられる。

#### 土坑110号（V地区 SK1110）（第919・920図）

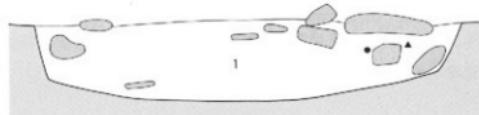
V-2区中央部北寄り、F・G18・19グリッドに位置する、長軸235cm短軸136cm深度38cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN16°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は5層に分層。埋土中位に10~30cm大的な礫が出土する。外側に大型礫を配し、内側は小型の礫を主体とする。

遺物は土師器煮炊具・須恵器片・土師質土器皿・擂鉢・煮炊具・羽釜・青磁碗が出土。1595・1596は土師質土器皿。底部外面に静止糸切り痕を残す。16世紀代とみられる。1597は青磁碗の下半部。底部内面に花文または銘の陰刻文を施す。底部外面の釉を輪状に搔き取る。上田分類のE類に相当し、14世紀末~15世紀前半の年代が与えられる。1598は土師質土器羽釜の上部。鈎部を折り曲げ技法で作る。体部外面板ナデ、内面ヨコハケを施す。15世紀前後とみられる。1599は土師質土器羽釜。鈎部は退化し、口縁と近接して間に段を廻らす。体部外面ユビオサエのち不明瞭な板ナデ、底部外面格子タタキ、内面横位の板ナデを施す。16世紀後半とみられる。1600は土師質土器擂鉢。口縁端部を内上方に拡張する。外側に連続した指頭圧痕を残し、のち板ナデ、内面横位の板ナデのち擂目を施す。

遺構の年代は、出土遺物から概ね16世紀代と考えられる。

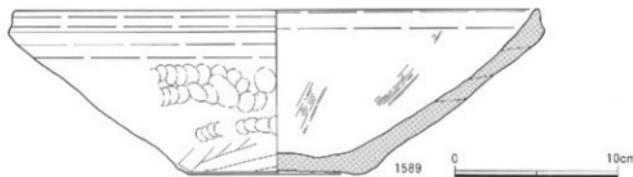


L=64.90m



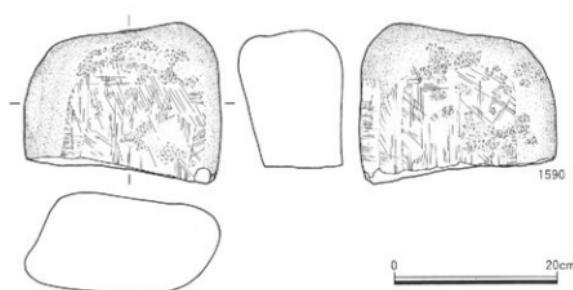
1. オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土（しまり強）  
黄褐色砂質土ブロック含む、硬性強い

0 1m

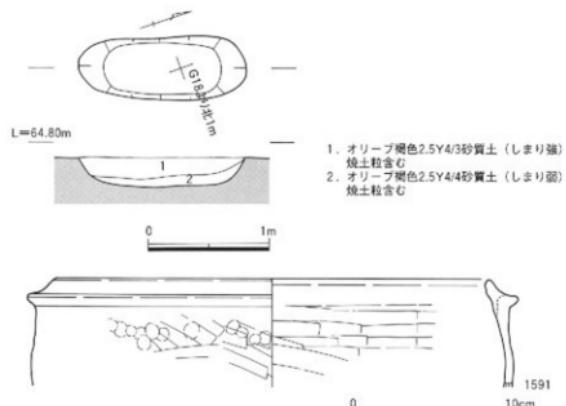


1589

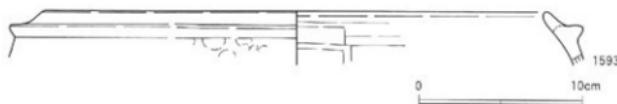
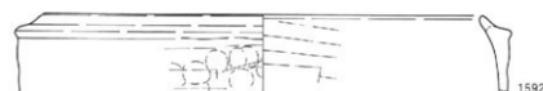
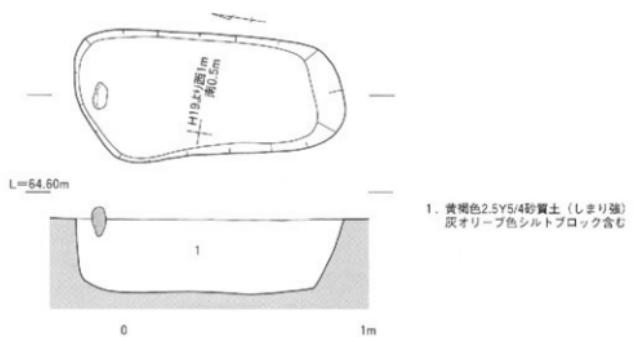
10cm



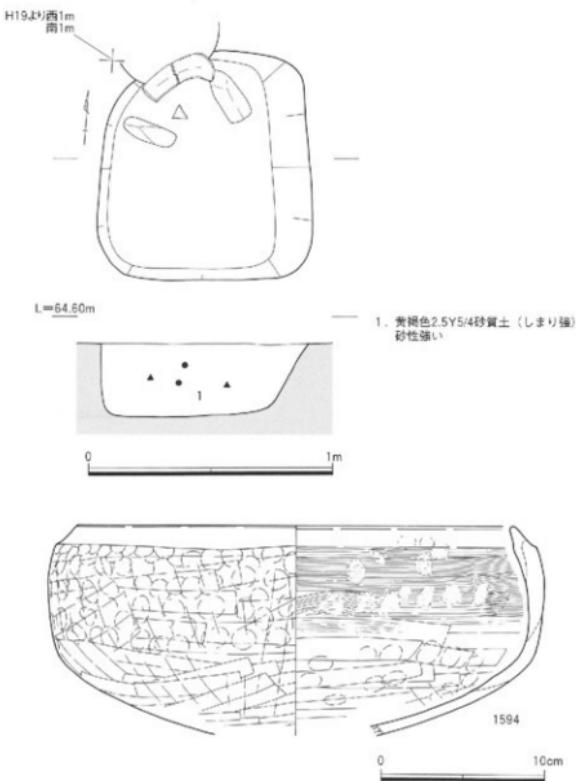
第915図 V地区SK1100遺構・遺物実測図



第916図 V地区SK1105遺構・遺物実測図



第917図 V地区SK1107遺構・遺物実測図



第918図 V地区SK1108遺構・遺物実測図

#### 土坑113号（V地区 SK1113）（第921図）

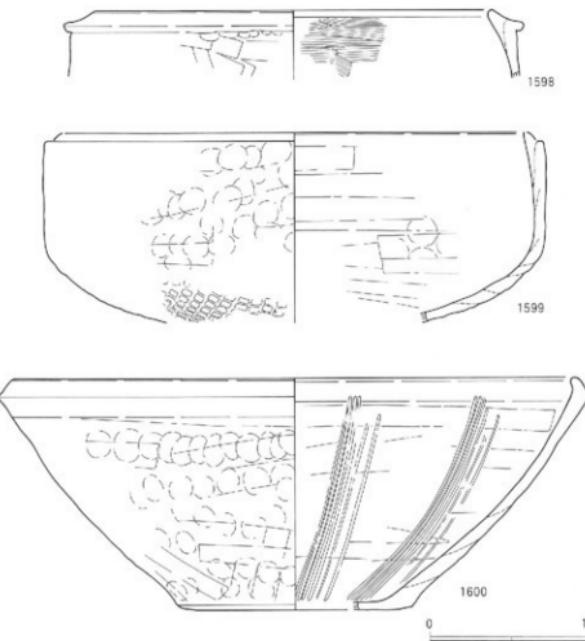
V-2区中央部、F18・19グリッドに位置する、長軸230cm短軸120cm深度36cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN77°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層。遺物は土師器煮炊具、土師質土器煮炊具、土師質管状土錘が出土。1601は土師質管状土錘。胎土に結晶片岩と網雲母を含む。

#### 土坑114号（V地区 SK1114）（第922図）

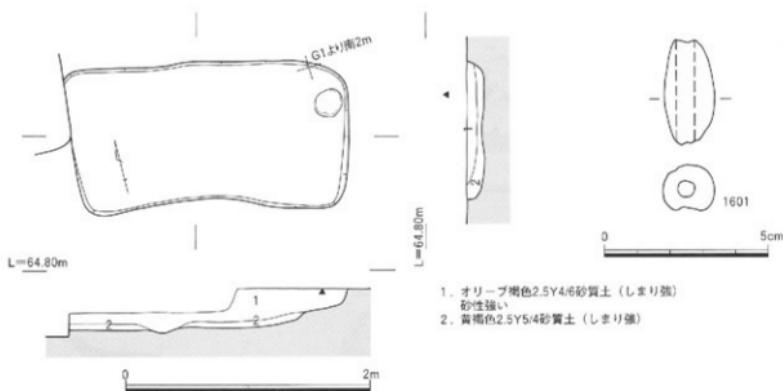
V-2区中央部南寄り、E・F18・19グリッドに位置する、長軸316cm短軸234cm深度53cmを測る不整な梢円形の土坑。主軸はN70°Wを向く。断面は逆台形状で、底面にピット状の掘り込みをもつ。埋土は6層に分層できる。10~40cm大の砾が少量出土するが、配置に規則性はない。



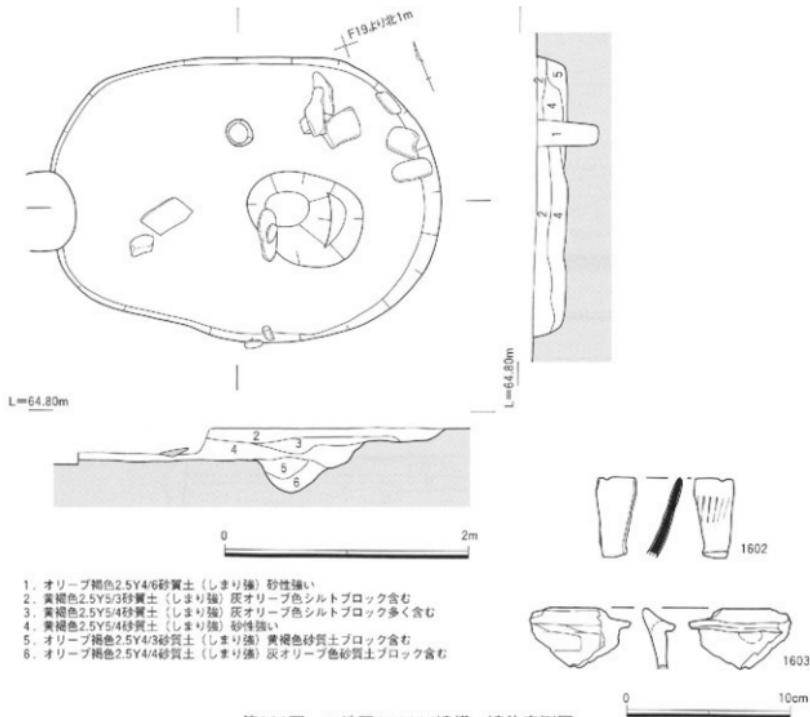
第919図 V地区SK1110遺構・遺物実測図(1)



第920図 V地区SK1110遺物実測図(2)



第921図 V地区SK1113遺構・遺物実測図



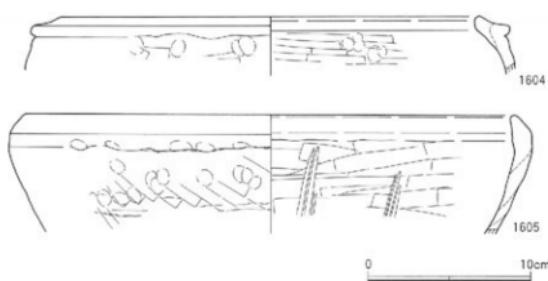
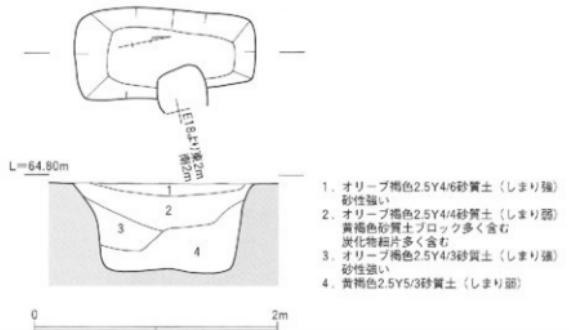
第922図 V地区SK1114遺構・遺物実測図

遺物は須恵器片、土師質土器羽釜、須恵質土器片、青磁碗、白磁片が出土。1602は青磁碗の上部片。外面に劍頭を省略した細運弁文をヘラ描き。上田分類のB-IV'類に相当し、16世紀代の年代が与えられる。1603は土師質土器羽釜の上部片。鈴部は折り曲げ技法で作る。15世紀前後とみられる。

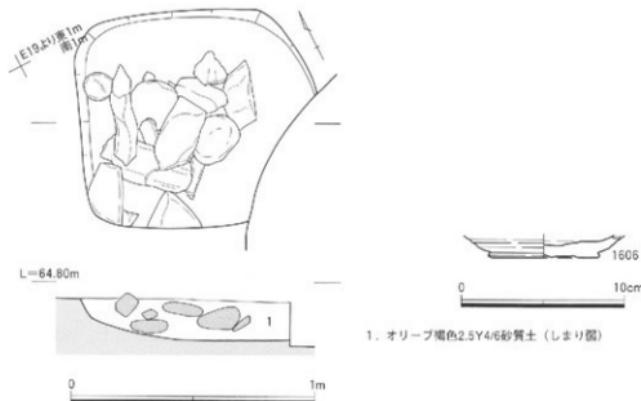
#### 土坑122号（V地区 SK1122）（第923図）

V-2区中央部南側、D18グリッドに位置する、長軸148cm短軸76cm深度73cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN12°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は4層。

遺物は須恵器片、土師質土器杯・鉢・擂鉢・煮炊具・羽釜・鉄釘・鉄滓が出土。1604は土師質土器羽釜の上部。鈴部は折り曲げ技法で作る。1605は土師質土器擂鉢の上部。口縁端部を内上方に拡張する。外面に接合痕が顕著。内面横位の板ナデのち描目を施す。遺構の年代は、出土遺物から概ね15~16世紀頃と考えられる。



第923図 V地区SK1122構造・遺物実測図



第924図 V地区SK1126構造・遺物実測図

#### 土坑126号（V地区 SK1126）（第924図）

V-2区中央部南側、D19グリッドに位置する、長軸98cm短軸88cm深度16cmを測る不整な隅丸方形の土坑。断面は皿状で、埋土は1層である。遺構東寄りに30cm前後の礫が集中して出土する。遺物は土師質土器片・杯が出土。1606は土師質土器杯の底部。外面に回転ヘラ切り痕を残す。

#### 土坑129号（V地区 SK1129）（第925図）

V-2区中央部南側、C-D18グリッドに位置し、北は遺構に切られる。長軸残存長118cm短軸53cm深度62cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN7°Eを向く。断面は方形で、埋土は3層に分層。

遺物は土師質土器片・播鉢・陶器皿が出土。1607は肥前系とみられる陶器皿の底部。白色の釉を掛けた。16世紀末か。1608は土師質土器播鉢の上半部。口縁端部を内上方に拡張する。外面に指頭圧痕を残し、内面横位の板ナデのち描目を施す。概ね15~16世紀代とみられる。

#### 土坑132号（V地区 SK1132）（第926図）

V-2区中央部南側、C-D19グリッドに位置する、長軸172cm短軸80cm深度54cmを測る楕円形の土坑。主軸はN60°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層。遺物は土師器片・煮炊具・須恵器片・土師質土器羽釜が出土。1609は土師質土器羽釜の上半部。鋸部は折り曲げ技法で作る。体部内面にヨコハケを施す。15~16世紀代とみられる。

#### 土坑137号（V地区 SK1137）（第927図）

V-2区中央部北側、H19グリッドに位置する、長軸82cm短軸76cm深度10cmを測る隅丸方形の土坑。断面は浅い逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、1610は土師質土器播鉢の上半部。口縁端部を内上方に拡張する。内面横位の板ナデのち描目を施す。15~16世紀代とみられる。

#### 土坑139号（V地区 SK1139）（第928図）

V-2区中央部北側、G-H1グリッドに位置し、東は遺構に切られる。南北358cm東西残存長232cm深度16cmを測る隅丸方形の土坑。断面は皿状で、埋土は2層。遺物は土師器煮炊具・須恵器片・杯・蓋、土師質土器片が出土。1611は須恵器杯の上半部。

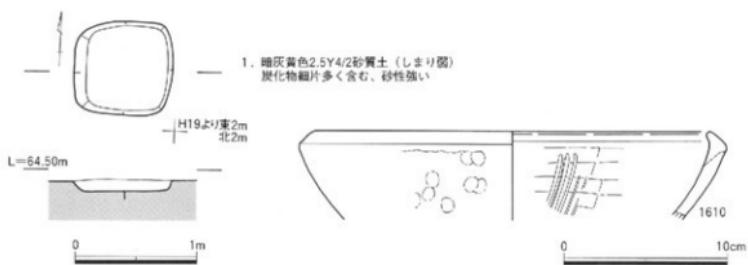
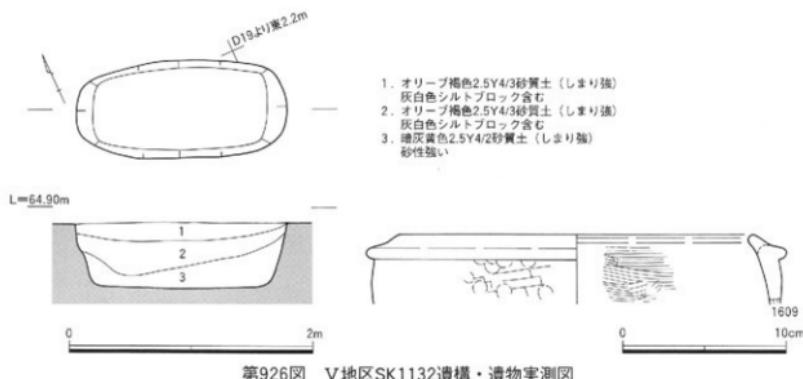
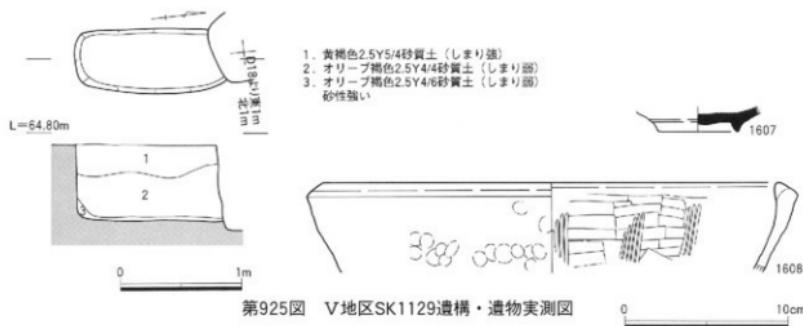
#### 土坑140号（V地区 SK1140）（第929図）

V-2区中央部北側、G-H1グリッドに位置する、長軸91cm短軸56cm深度18cmを測る楕円形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層である。遺物は土師器片・須恵器片が出土。1612は高台付須恵器杯の下半部。胎土に砂岩を含む。8世紀後半頃か。

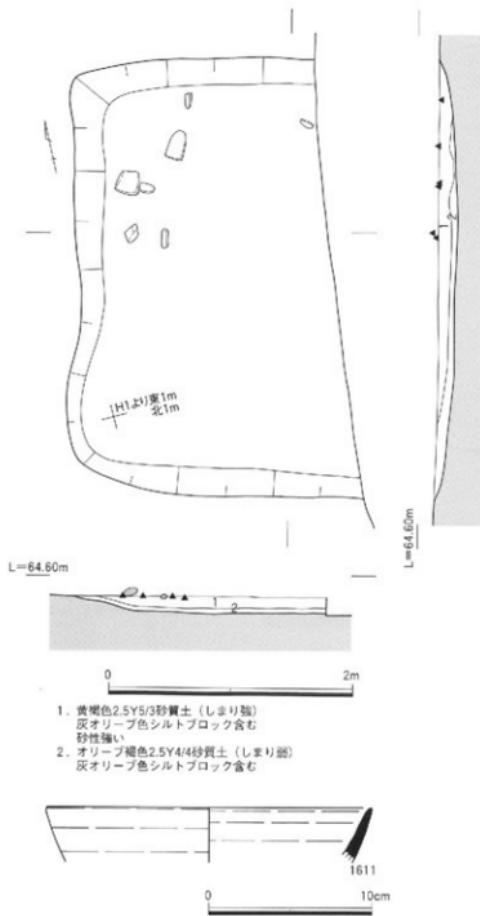
#### 土坑142号（V地区 SK1142）（第930図）

V-2区中央部北側、G1・2グリッドに位置する、長軸336cm短軸328cm深度42cmを測る不整形の土坑。断面は皿状で、埋土は3層に分層できる。

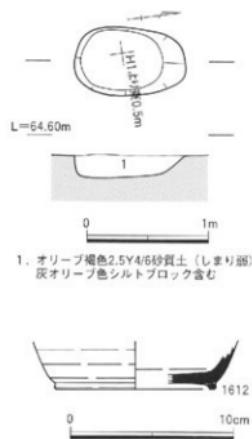
遺物は土師器煮炊具・須恵器片・杯・蓋、土師質土器播鉢・煮炊具・錢貨が出土。1613は須恵器蓋。口縁端部を強いナデによって屈曲させる。1614は高台付須恵器杯の下半部。底部内面に自然釉付着。8



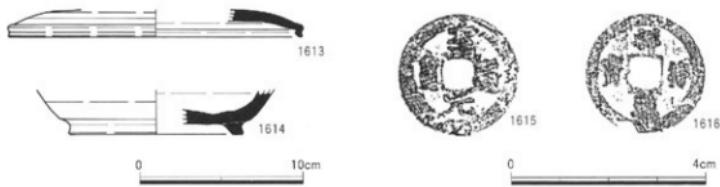
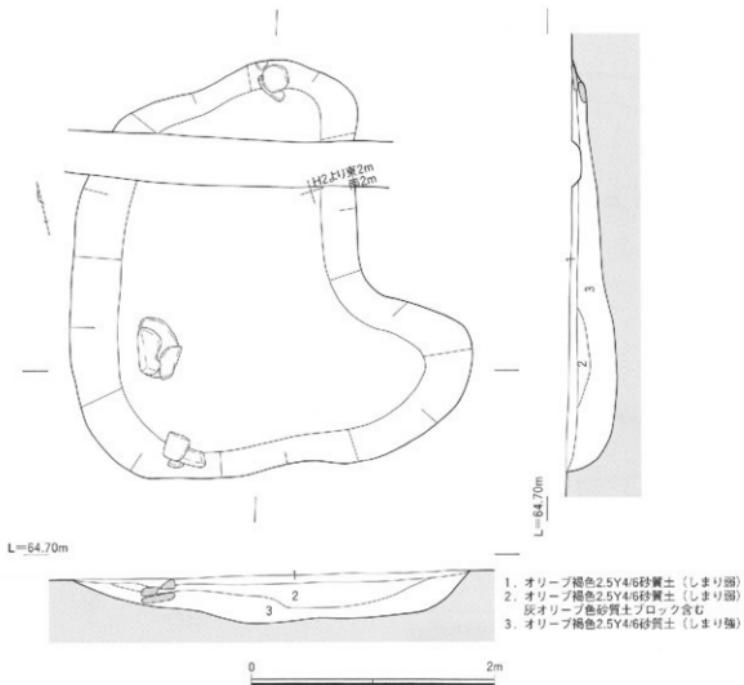
第927図 V地区SK1137遺構・遺物実測図



第928図 V地区SK1139遺構・遺物実測図



第929図 V地区SK1140  
遺構・遺物実測図

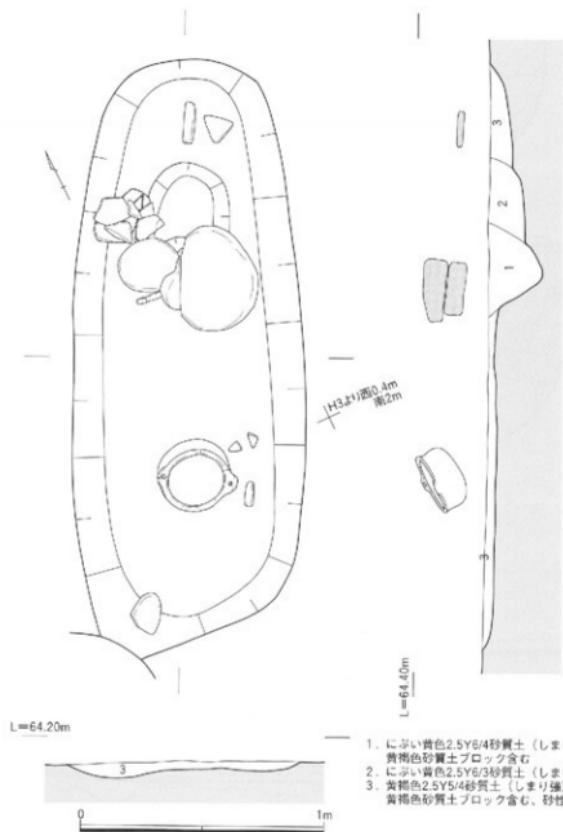


第930図 V地区SK1142遺構・遺物実測図

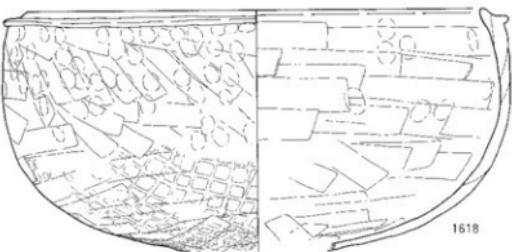
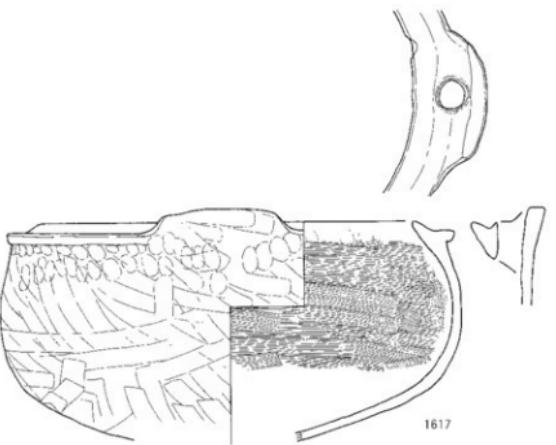
世紀前葉～中葉頃とみられる。1615・1616は銅錢で、北宋錢。1615は至道元寶で、995年初鑄。1616は祥符元寶で、1009年初鑄。ともに背に密着痕あり。

#### 土坑144号（V地区 SK1144）（第931・932図）

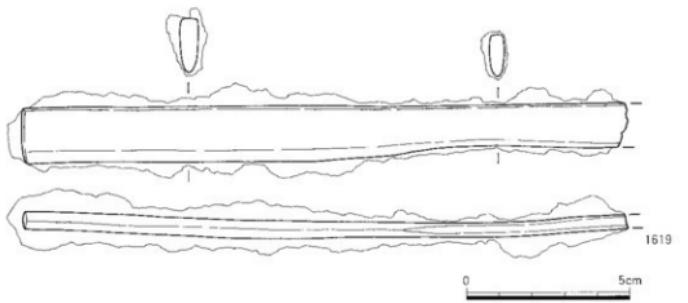
V-2区東部北側、G2グリッドに位置する、長軸236cm短軸95cm深度22cmを測る長椭円形土坑。主軸はN28°Eを向く。断面は皿状で、埋土は3層。遺構北側の検出面上10~20cmに10~40cm大の礫が集中して出土する。遺構南側でも検出面上8cmに羽釜1617が出土す。



第931図 V地区SK1144遺構実測図



0 10cm



0 5cm

第932図 V地区SK1144遺物実測図

遺物は土師器片（赤彩ほか）、土師質土器片・煮炊具・鍋・羽釜（内耳ほか）、陶器壺、陶器天目碗、鉄刀子、鉄釘が出土。1617は内耳付きの土師質土器羽釜。内耳部を焼成前穿孔し、外側に鋒部を拡張した把手部を作る。外面上位に指頭圧痕を残し、以下板ナデを施す。内面はヨコハケで調整する。タタキの痕跡はみられない。1618は土師質土器羽釜、鋒部は折り曲げ技法で作る。外面上位にユビオサエのち板ナデ、下位に目の粗い格子タタキのち横位の板ナデを施す。内面は横位の板ナデ。1619は鉄製の刀子。

遺構の年代は、出土遺物から概ね15~16世紀代と考えられる。

#### 土坑148号（V地区 SK1148）（第933図）

V-2区東部北寄り、E・F2・3グリッドに位置する、長軸160cm短軸88cm深度50cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN78°Wを向く。断面は逆台形状で、西側が一段下がる。埋土は3層。遺物は弥生土器壺、土師器片・須恵器片・壺、土師質土器片・煮炊具・羽釜が出土。1620は須恵器壺の体部上半。1621は土師質土器羽釜の上部。鋒部は折り曲げ技法で作る。

#### 土坑150号（V地区 SK1150）（第934図）

V-2区中央部南寄り、D・E1グリッドに位置する、長軸100cm短軸84cm深度14cmを測る不整な隅丸長方形の土坑。断面は皿状で、埋土は1層。遺物は土師器片・煮炊具・須恵器壺、銭貨、泥岩製黒碁石が出土。1622は銅錢で、元豐通寶の篆書体。北宋錢で1078年初鑄。背に銘文。1623は泥岩製の黒碁石。扁平な円盤で、加工痕は確認できない。

#### 土坑154号（V地区 SK1154）（第935図）

V-2区東部中央、D・E2・3グリッドに位置し、西は遺構に切られる。長軸残存長130cm短軸95cm深度24cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN74°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。遺物は土師器煮炊具・須恵器片・杯、土師質土器煮炊具が出土。1624は須恵器杯で、底部を欠く。

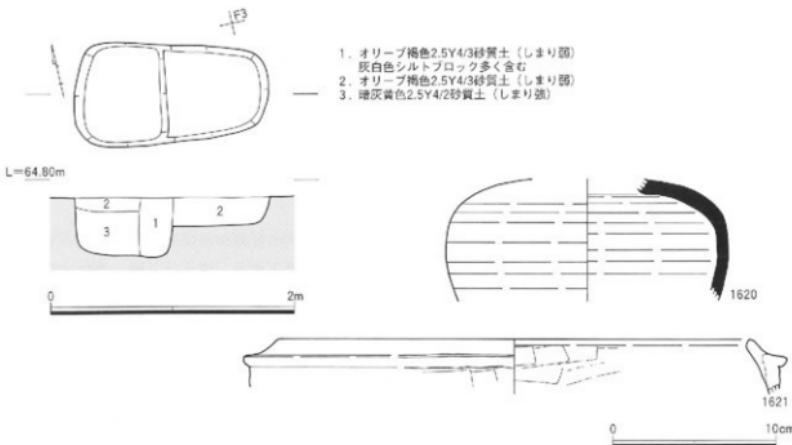
#### 土坑158号（V地区 SK1158）（第936図）

V-2区東部南側、C2グリッドに位置する、長軸140cm短軸120cm深度20cmを測る不整な隅丸長方形土坑。主軸はN16°Eを向く。断面逆台形状で、埋土は1層。遺物は須恵器片、土師質土器片・皿、瓦器片が出土。1625は土師質土器皿。底部外間に回転糸切り痕を残す。遺構の年代は、出土遺物から概ね13世紀頃と考えられる。

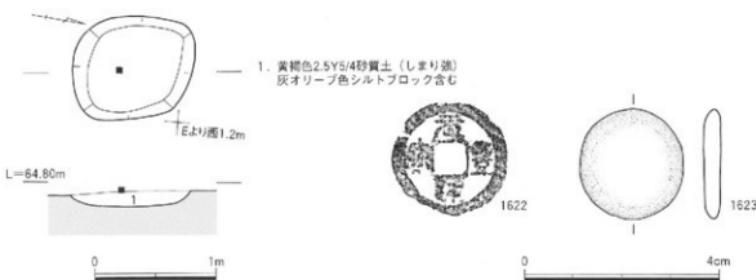
#### 土坑159号（V地区 SK1159）（第937図）

V-2区東部南側、C3グリッドに位置する、長軸188cm短軸170cm深度50cmを測る不整円形土坑。主軸はN21°Eを向く。断面は逆台形状で、テラス状の段が巡る。埋土は3層。埋土上位を中心に5~25cm大の礫が出土。配置に規則性は見いだせない。

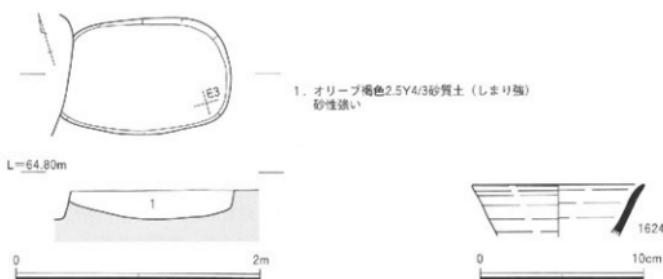
遺物は土師質土器片・杯（回転糸切り）、煮炊具脚部・火鉢か・焙烙か、近世陶器・染付片が出土。1626は土師質土器の口縁部片で、火鉢であろうか。内面に斜位の瘤目状の粗い櫛描文またはハケを施し、外面板ナデ。角部は丁寧に面取りする。外面と口縁に煤付着。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。1627は扁平な皿状の器形で、直立する短い体部をもった土師質土器。外面の底部～体部境は面取りする。底部



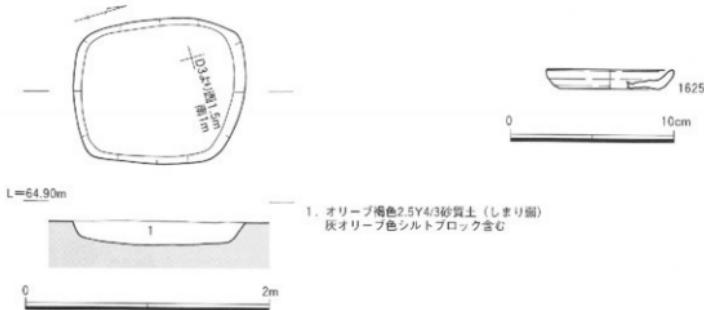
第933図 V地区SK1148遺構・遺物実測図



第934図 V地区SK1150遺構・遺物実測図



第935図 V地区SK1154遺構・遺物実測図



第936図 V地区SK1158遺構・遺物実測図

外面に離れ砂付着。胎土に砂岩と絹雲母を含む。培塿としたが火消し壺蓋の可能性あり。

遺構の年代は、出土遺物から近世と考えられる。

#### 土坑161号（V地区 SK1161）（第938図）

V-2区東部南側、B・C3グリッドに位置する、長軸107cm短軸72cm深度55cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN13°Wを向く。断面逆台形状で、埋土は2層。遺物は土師器煮炊具、須恵器杯、土師質土器片が出土。1628は須恵器杯で、底部を欠く。

#### 土坑164号（V地区 SK1164）（第939図）

V-2区中央部南側、C20・1グリッドに位置し、東側は搅乱に切られる。東西残存長106cm南北120cm深度20cmを測る隅丸方形土坑。断面は逆台形状で、埋土は2層。遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片・杯が出土。1629は無高台の須恵器杯。1630は高台付の須恵器杯。胎土に砂岩を含む。遺構の年代は、出土遺物から8世紀後半～9世紀頃と考えられる。

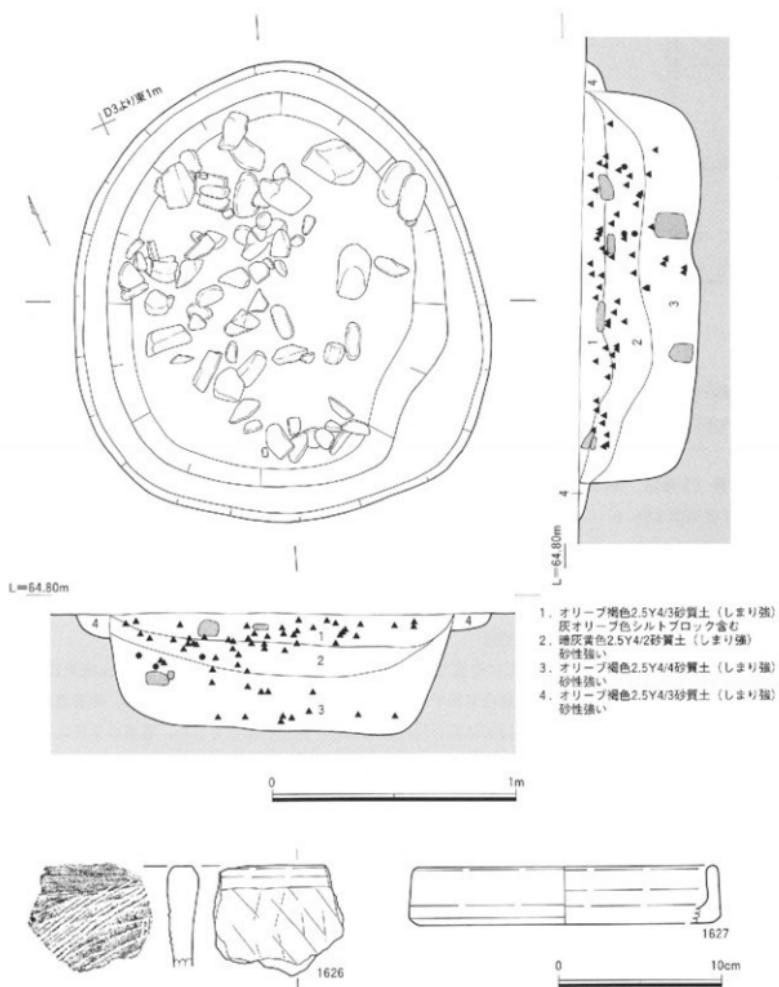
#### 土坑165号（V地区 SK1165）（第940図）

V-2区中央部南側、C20・1グリッドに位置し、西は搅乱に切られる。長軸残存長184cm短軸168cm深度49cmを測る隅丸長方形土坑。断面は逆台形状で、埋土は4層。

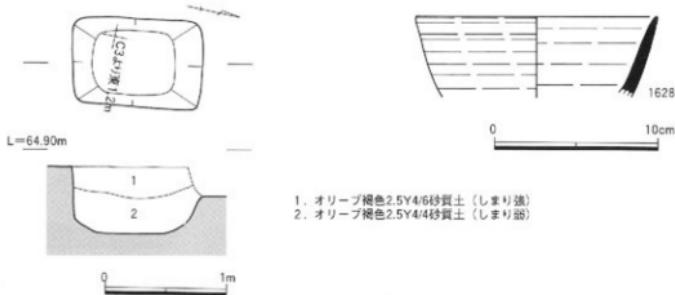
遺物は土師器煮炊具、土師質土器片・杯（回転糸切り）、鍋、陶器片が出土。1631は土師質土器鍋。口縁内面に凸帯状の受け部を貼り付け、受口状に作る。体部外面にタテハケ、内面にヨコハケを施す。胎土に結晶片岩・砂岩・絹雲母を含む。胎土から在地産と考えられるが、類例をみない。回転糸切りの杯と共に共伴することから、13世紀前後とみられる。

#### 土坑166号（V地区 SK1166）（第941図）

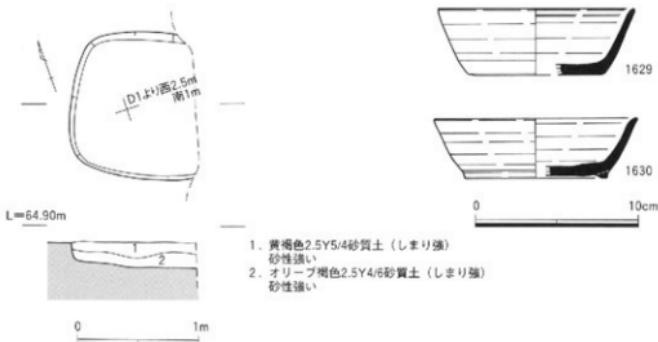
V-2区中央部、C1グリッドに位置する、長軸122cm短軸62cm深度34cmを測る隅丸長方形土坑。主



第937図 V地区SK1159遺構・遺物実測図



第938図 V地区SK1161遺構・遺物実測図



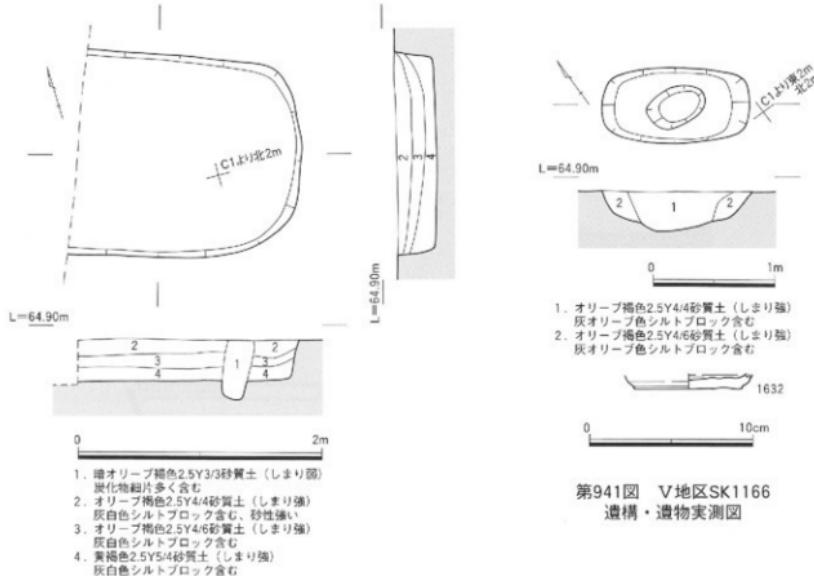
第939図 V地区SK1164遺構・遺物実測図

軸はN54°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は土師器煮炊具、土師質土器片・杯が出上。1632は土師質土器杯の底部。底部外面に回転糸切り痕を残す。13世紀前後か。

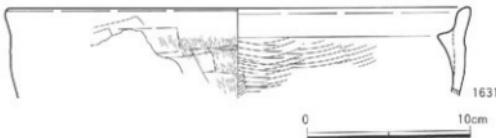
#### 土坑168号（V地区 SK1168）（第942図）

V-2区東部南側、B1グリッドに位置する、長軸238cm短軸44cm深度20cmを測る長楕円形の土坑。主軸はN76°Wを向く。断面は逆台形状で、底面はわずかに起伏がある。埋土は1層。

遺物は土師器煮炊具・壺、須恵器杯、土師質土器杯（回転糸切り）、煮炊具、須恵質土器片が出上。1633は高台付の須恵器杯で、口縁部を欠く。8世紀代か。1634は土師器壺の上半部。口縁端部～内面にヨコハケを施す。外面横位の板ナデを施す。胎土は粗く結晶片岩・砂岩・絹雲母を含む。



第941図 V地区SK1166  
遺構・遺物実測図



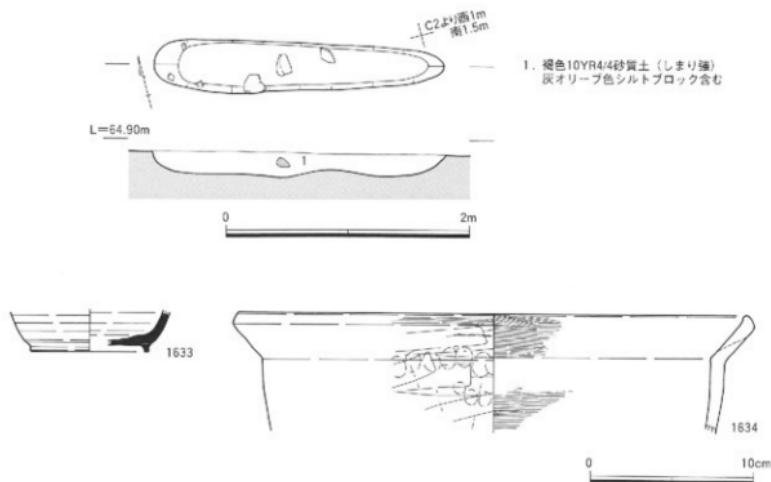
第940図 V地区SK1165遺構・遺物実測図

#### 土坑170号（V地区 SK1170）（第943図）

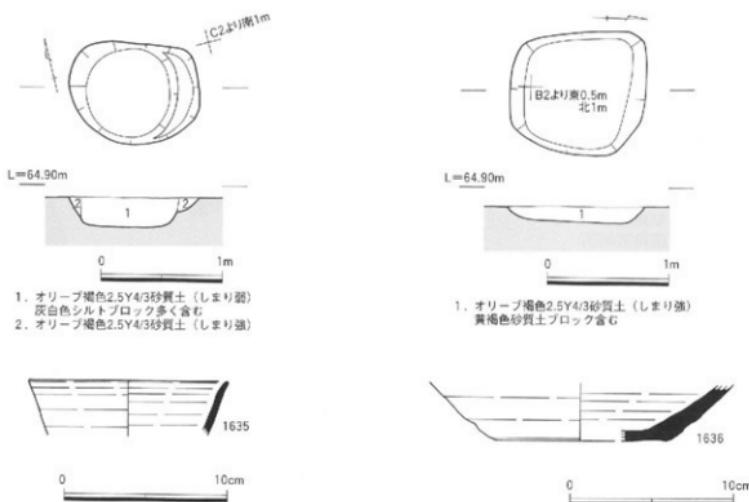
V-2区東部南側、B1グリッドに位置する、長軸107cm短軸82cm深度24cmを測る不整円形土坑。断面逆台形状で、埋土は2層。遺物は須恵器杯、土師質器片、煮炊具が出土。1635は須恵器杯の上半部。

#### 土坑171号（V地区 SK1171）（第944図）

V-2区東部南側、B2グリッドに位置する、長軸112cm短軸102cm深度12cmを測る不整な隅丸方形土坑。断面逆台形状で、埋土は1層。遺物は土師器煮炊具、須恵器鉢、須恵質器片、陶器片が出土。1636は須恵器鉢の下半部。底部外面はナデを施し、切り離し痕は確認できない。胎土は粗く、結晶片岩・砂岩を含む。焼成不良で、酸化炎焼成氣味。東播系須恵質器捏鉢の可能性もある。



第942図 V地区SK1168遺構・遺物実測図



第943図 V地区SK1170  
遺構・遺物実測図

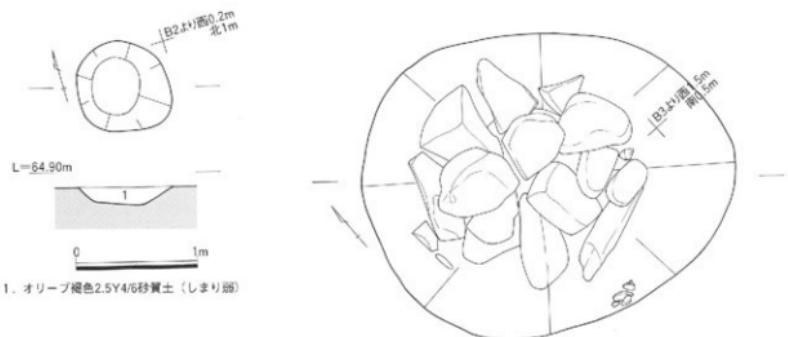
第944図 V地区SK1171  
遺構・遺物実測図

土坑172号 (V地区 SK1172) (第945図)

V-2区東部南端、B1グリッドに位置する、長軸82cm短軸76cm深度15cmを測る不整円形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片・杯(回転糸切り・回転ヘラ切り)・煮炊具、青磁片が出土。1637は土師質土器杯の底部。外面に回転糸切り痕を残す。13世紀前後とみられる。

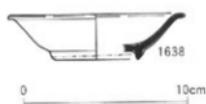
土坑173号 (V地区 SK1173) (第946図)

V-2区東部南端、A・B2グリッドに位置する、長軸154cm短軸126cm深度136cmを測る不整円形土坑。主軸はN53°Wを向く。断面はU字状で、埋土は4層。遺構中央部の埋土上位に10~50cm大の砾が集中。遺物は須恵器片、土師質土器片・皿・羽釜、白磁皿、備前灯明皿、近世陶磁器片、近世瓦片が出土。



第945図 V地区SK1172  
遺構・遺物実測図

1. オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土(しまり強)
2. 反オリーブ色7.5Y4/2砂質土(じまり強)
3. 暗赤褐色2.5Y4/2砂質土(じまり強)
4. にぶい黄褐色10YR4/3砂質土(じまり強)



第946図 V地区SK1173遺構・遺物実測図

1638は白磁皿。端反りの口縁をもち、疊付部露胎。森山分類の白磁E群皿2類に相当し、16世紀代の年代が与えられる。遺構の年代は、出土遺物から近世初頭頃と考えられる。

#### 土坑176号（V地区 SK1176）（第947図）

V-2区東部南端、T・A3グリッドに位置し、南は側溝に切られる。東西157cm南北残存長134cm深度42cmを測る円形土坑。断面は逆台形状で、埋土は3層。

遺物は土師器片・壺、須恵器片、黒色土器A類、須恵質土器碗が出土。1639は西村系の須恵質土器碗。小片のため径は不正確。内面に板ナデを施す。佐藤編年5期、13世紀後葉頃とみられる。1640は土師器壺の上部。口縁端部を上方に拡張。胎土は粗く砂岩を含む。

#### 土坑178号（V地区 SK1178）（第948図）

V-2区東部北側、G4グリッドに位置する、長軸124cm短軸64cm深度29cmを測る不整な隅丸長方形の土坑。主軸はN15°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層できる。遺物は土師器煮炊具、土師質土器煮炊具、近世陶器片、結晶片岩製砥石が出土。1641は結晶片岩製砥石。4面を使用する。

#### 土坑180号（V地区 SK1180）（第949図）

V-2区東部北側、F5グリッドに位置する、長軸86cm短軸84cm深度35cmを測る円形土坑。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層できる。遺物は近世磁器片、陶器鉢、ガラス片が出土。1642は陶器鉢。外面板ナデを施す。無釉。遺構の年代は、出土遺物から近世末以降と考えられる。

#### 土坑182号（V地区 SK1182）（第950図）

V-2区東部北側、F5グリッドに位置する、長軸121cm短軸104cm深度14cmを測る隅丸長方形土坑。上軸はN62°Wを向く。断面は皿状で、埋土は1層。遺物は土師器煮炊具・壺、須恵器杯・壺、土師質土器片が出土。1643は土師器壺の上半部。口縁端部を上方に拡張。外面タテハケ、口縁内面ヨコハケを施す。1644は高台付須恵器壺の下半部。高台は外方に張り出す。8世紀後半頃とみられる。

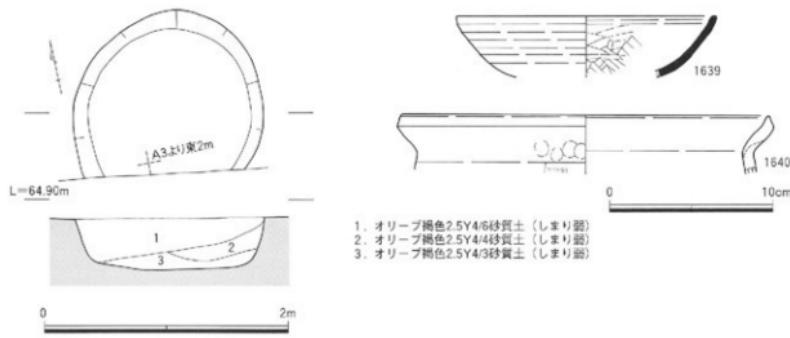
#### 土坑185号（V地区 SK1185）（第951図）

V-2区東部北寄り、D・E4・5グリッドに位置する、長軸250cm短軸136cm深度20cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN15°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層。

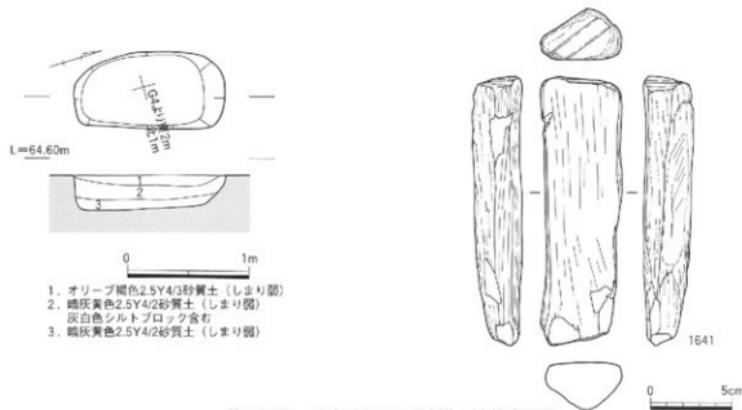
遺物は土師器片（赤彩ほか）・土師質土器杯・煮炊具・羽釜が出土。1645は土師質土器羽釜の上半部。鉗部は折り曲げ技法で作る。外面に横位の連続した指頭圧痕を残し、体部外面と内面板ナデを施す。鉗部内面側に連続した指爪痕を残す。14~15世紀頃とみられる。

#### 土坑255号（V地区 SK1255）（第952図）

V-2区西部北側、H・I15・16グリッドに位置する、長軸68cm短軸63cm深度18cmを測る不整円形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層である。大谷焼壺一個体の上に30cm大の角礫が乗った状態で出土している。壺は細かく破碎された状態であるが、底部が正位置を保っていないことから人為的な破碎の可能性が高い。近世墓とみられる。



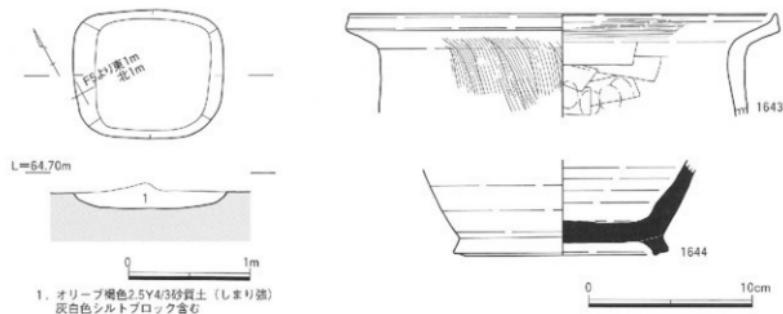
第947図 V地区SK1176遺構・遺物実測図



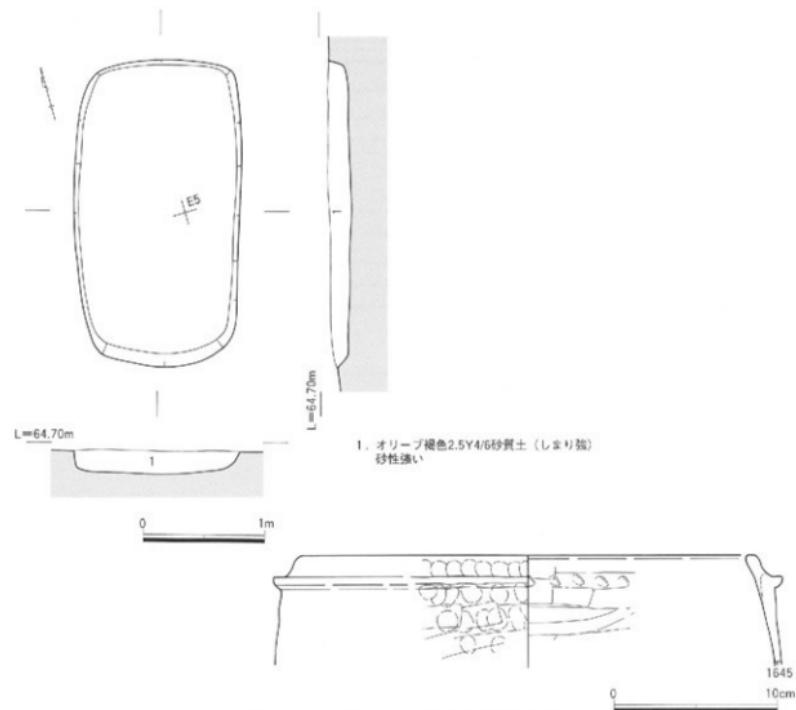
第948図 V地区SK1178遺構・遺物実測図



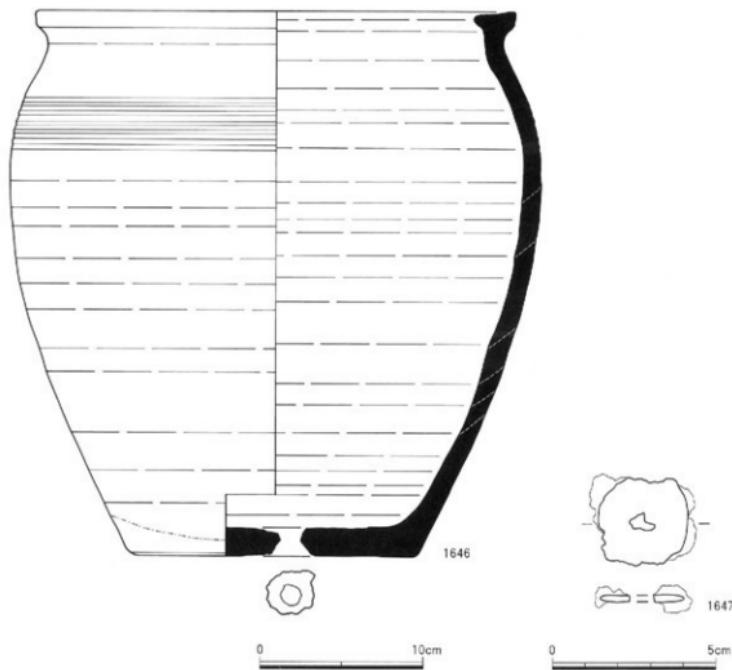
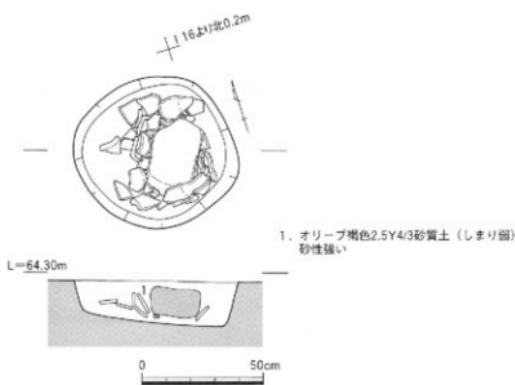
第949図 V地区SK1180遺構・遺物実測図



第950図 V地区SK1182遺構・遺物実測図



第951図 V地区SK1185遺構・遺物実測図



第952図 V地区SK1255遺構・遺物実測図

遺物は土師器片、煮炊具、近世陶器片、大谷焼陶器壺、不明鉄製品（円盤状）が出土。1646は大谷焼の陶器壺。外面に鉄釉を施し、底部外露胎。底部中央に焼成後穿孔を施す。1647は不明鉄製品。径約2.8cmの円盤状で、中央に不整形の孔をもつ。鉄鉢の可能性がある。

#### 集石遺構1号（V地区 SU1001）（第953図）

V-2区東部北寄り、E5グリッドに位置する。10~50cm大の礫が長軸284cm短軸166cmの範囲で出土する。礫の配置に規則性は見いだせない。集石下に深度32cmを測る楕円形の土坑を伴う。断面は皿状で、埋土は1層。

遺物は土師器煮炊具・壺・竈、須恵器壺、土師質土器片・煮炊具、須恵質土器壺、鉄滓が出土。1648は土師器壺の焚口上部。外面にハケ調整を施す。1649は土師器壺の口縁部。内面にヨコハケを施す。1650・1651は須恵器壺の下半部。ともに底部外表面回転ヘラ切りのち板目痕を残す。底部内面中央に自然釉付着。遺構の年代は、出土遺物から8~9世紀頃とみられる。

#### 集石遺構4号（V地区 SU1004）（第954図）

V-2区東部南側、A・B3・4グリッドに位置する。検出面付近で、長軸235cm短軸198cmの範囲に10~50cm大の礫が集中する。配置に規則性は見いだせない。遺物は土師器煮炊具、須恵器片・杯、土師質土器片、須恵質土器片、砂岩製砥石が出土。1652は高台付須恵器杯の底部。外面に十字状のヘラ記号をもつ。1653は砂岩製砥石。上面を砥面として使用し、下面を中心に敲打痕を残す。

#### 溝3号（V地区 SD1003）（第955図）

SD1001~1018はV-1区北半部で検出した南北方位の溝群で、1m前後の間隔で東西に並ぶ。いずれも幅40cm深度5cm前後の浅い溝。耕作に伴う溝と考えられる。SD1003はV-1区西部北側、I~K8グリッドに位置する、全長8.5m幅45cm深度6cmを測る。主軸は、N14°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は3層。遺物は土師器煮炊具、須恵器杯、羽口、鉄滓が出土。1654は高台付須恵器杯の底部。

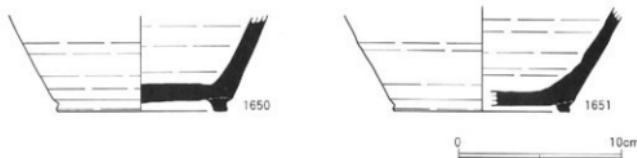
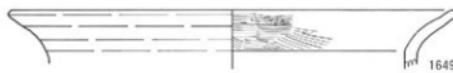
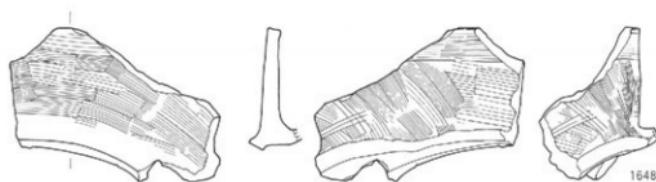
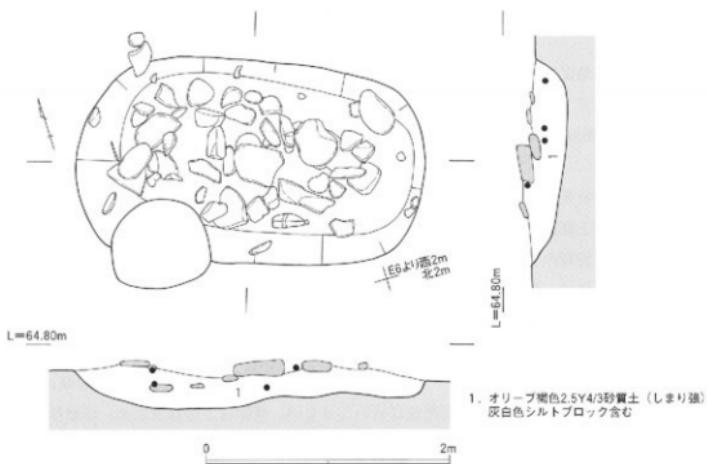
#### 溝15号（V地区 SD1015）（第956図）

V-1区東部北側、H~K11・12グリッドに位置する、全長15.2m幅40cm深度10cmを測る。主軸はN14°Eを向く。断面はレンズ状または逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は土師器煮炊具、須恵器片、黒色土器椀A類が出土。1655は黒色土器椀A類の底部。内面に密な平行状ヘラミガキを施す。内面炭素吸着良好。10~11世紀前後か。

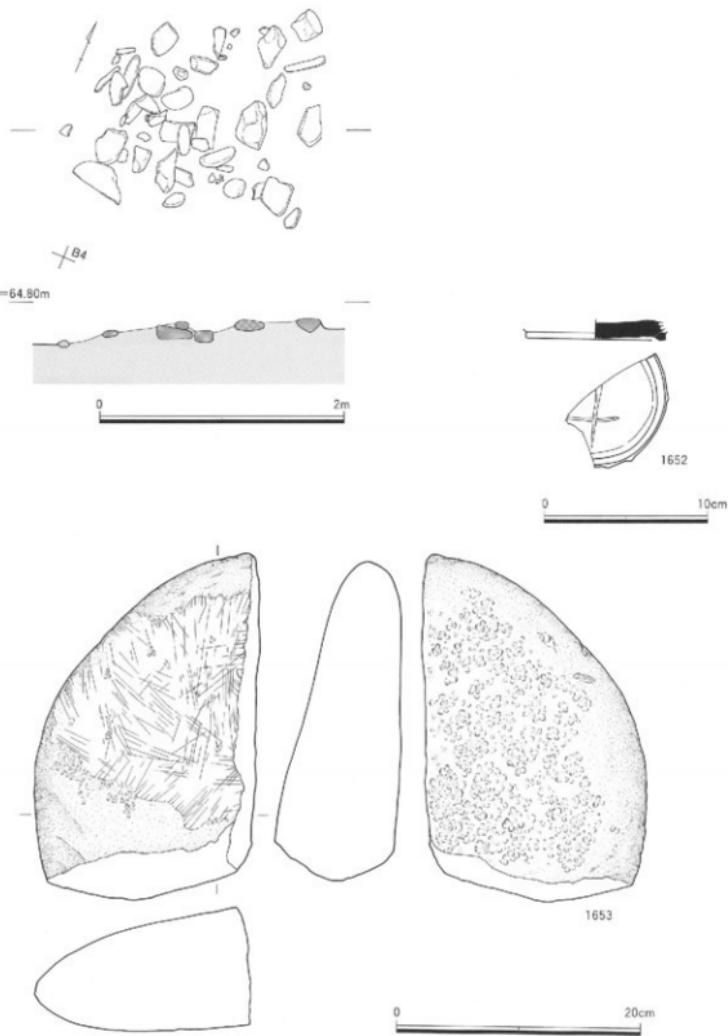
#### 溝23号（V地区 SD1023）（第957・958図）

V-2区西部、D~J14~16グリッドに位置する、全長28.6m幅140cm深度77cmを測る。主軸は、N12°Eを向く。断面は逆台形状またはU字状で、底面は南に下がる。埋土は5層。

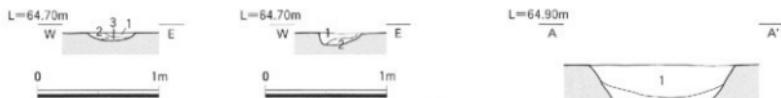
遺物は須恵器片、土師質土器杯・擂鉢・煮炊具（脚部はか）、羽釜、須恵質土器片、青磁碗、土師質土器片、羽口、鉄製品片、泥岩製砥石が出土。1656は土師質土器羽釜の上半部。脚部を折り曲げ技法で作る。1657は土師質土器擂鉢。口縁端部を内上方に拡張する。内面横位の板ナデのち捲目を施す。外面上に煤付着が顕著で、煮炊具として使用されたと考えられる。1658は青磁碗の下半部。底部内面に十字



第953図 V地区SU1001遺構・遺物実測図



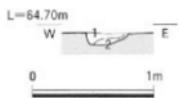
第954図 V地区SU1004遺構・遺物実測図



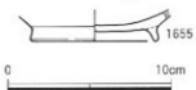
1. 地灰黄色2.5Y4/2細砂(しまり弱)  
2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土(しまり弱)  
3. 増灰黄色2.5Y5/2細砂(しまり弱)



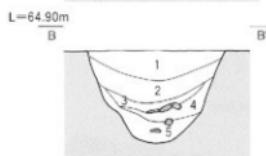
第955図 V地区SD1003  
遺構・遺物実測図



1. 脊灰黄色2.5Y4/2細砂(しまり弱)  
2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土(しまり弱)

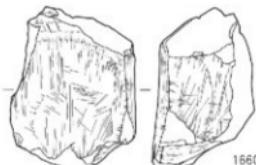
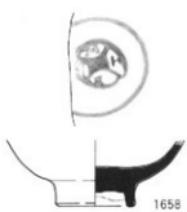


第956図 V地区SD1015  
遺構・遺物実測図



1. 黒褐色2.5Y5/6砂質土(しまり強)  
2. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土(しまり強)  
砂性強い  
3. オリーブ褐色2.5Y4/6細砂(しまり弱)  
砂性弱い  
4. オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土(しまり弱)  
砂性弱い  
5. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土(しまり弱)  
砂性弱い

第957図 V地区SD1023遺構実測図



第958図 V地区SD1023遺物実測図



花文を施す。釉は白濁し、粗い貫入を伴う。上田分類 D-II-a 類に相当し、14世紀後葉～15世紀前葉の年代が与えられる。1659は土師質管状土錐。1660は泥岩製砥石。3面を使用する。

遺構の年代は、出土遺物から15世紀頃と考えられる。

#### 溝27号（V地区 SD1027）（第959図）

V-2区西部中央、F~H15・16グリッドに位置する、全長7.6m幅40cm深度7cmを測る。主軸はN13°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層である。遺物は土師器片・煮炊具、土師質土器擂鉢・陶器擂鉢（備前焼）、青磁碗が出土。1661は青磁碗の上半部片。外面にヘラ描きの細蓮弁文を描く。釉に粗い貫入を伴う。上田分類 B-IV類に相当し、15世紀後葉～16世紀前葉の年代が与えられる。

#### 溝28号（V地区 SD1028）（第960図）

V-2区西部南側、D・E14・15グリッドに位置し、南北両端を攪乱に切られ以遠に延びない。検出長5.5m幅80cm深度18cmを測る。主軸はN18°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層である。SD1025・1026の延長線上に位置するため、本来は同一の遺構であった可能性もある。遺物は須恵器片・壺が出土。1662は須恵器壺の口縁部。

#### 溝30号（V地区 SD1030）（第961図）

V-2区西部南寄り、E17・18グリッドに位置する、全長5.8m幅40cm深度8cmを測る。主軸は、N79°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。

遺物は土師器片・須恵器片・土師質土器片・須恵質土器碗が出上。1663は西村系の須恵質土器碗。体部外面に指彫压痕を残し、内面板ナデのちヘラミガキを施す。外面に炭素付着し、外面に重焼痕を残す。胎土に砂岩を含むとみられる。佐藤編年5～6期に相当し、13世紀後半の年代が与えられる。

#### 溝32号（V地区 SD1032）（第962図）

V-2区西部南側、C・D15～18グリッドに位置し、西端を溝SD1028に切られ以西に延びない。検出長18.3m幅40cm深度8cmを測る。主軸はN75°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。遺物は土師器片（赤彩ほか）・煮炊具・須恵器杯・土師質管状土錐が出土。1664は土師質管状土錐。

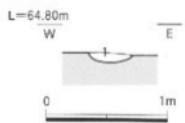
#### 溝34号（V地区 SD1034）（第963図）

V-2区中央部、F19・20グリッドに位置する、全長4.7m幅67cm深度7cmを測る。主軸はN74°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。遺物は土師器煮炊具・須恵器片・土師質土器煮炊具・土師質管状土錐・鉄滓が出土。1665は土師質管状土錐。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。

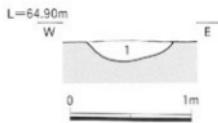
#### 溝36号（V地区 SD1036）（第964・965図）

V-2区中央部北側、D~I20～2グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。検出長23.4m幅300cm深度20cmを測る。主軸はN18°Eを向く。断面はレンズ状で、底面は北に向けて下がる。埋土は3層。

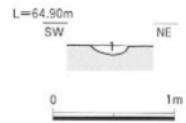
遺物は土師器片（赤彩ほか）・煮炊具・須恵器杯・壺・甕・土師質土器片・擂鉢・煮炊具・羽釜（内耳ほか）・備前焼陶器擂鉢・染付碗・青磁碗・鉄製品片・鉄滓が出土。1666は染付碗の底部。底部内面



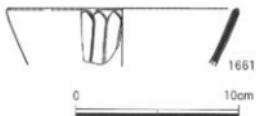
1. オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土(しまり強)



1. オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土(しまり強)  
灰オリーブ色シルトブロック含む



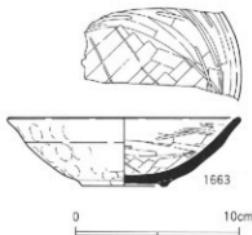
1. 黄褐色2.5Y5/6砂質土(しまり強)  
砂性強い



第959図 V地区SD1027  
造構・遺物実測図



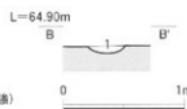
第960図 V地区SD1028  
造構・遺物実測図



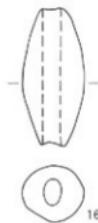
第961図 V地区SD1030  
造構・遺物実測図



1. オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土(しまり強)

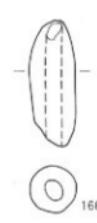


1. 黄褐色2.5Y5/6砂質土(しまり強)



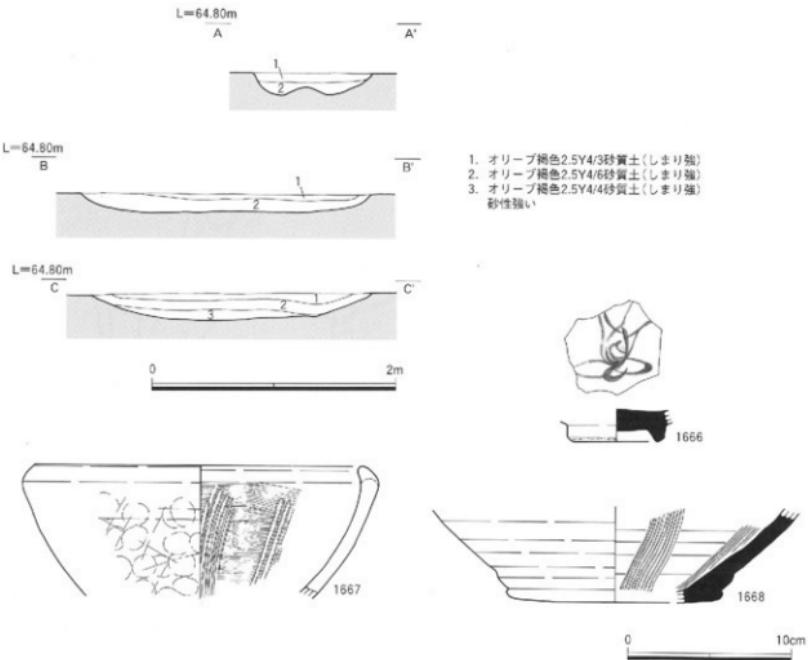
0 5cm

第962図 V地区SD1032造構・遺物実測図



0 5cm

第963図 V地区SD1034造構・遺物実測図



第964図 V地区SD1036遺構・遺物実測図(1)

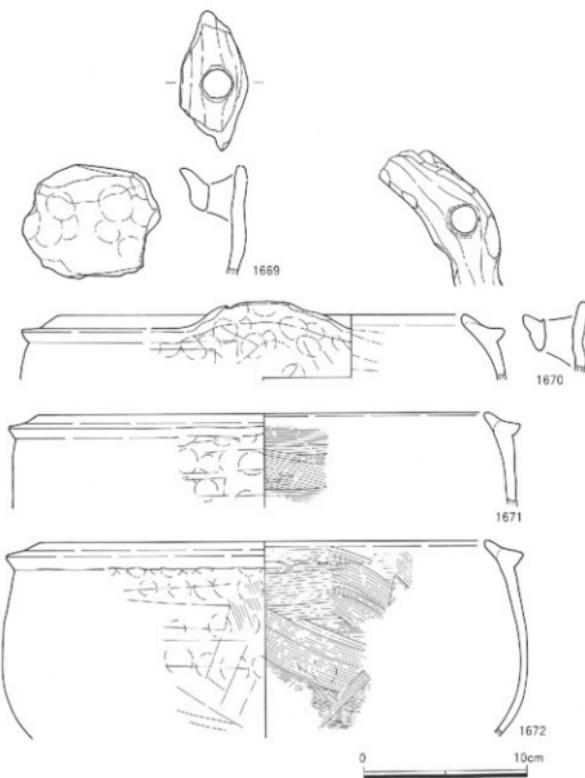
に捺花文を描く。豊付部以内露胎。粗製で、漳州窯系とみられる。小野分類の染付碗C群I類に相当し、15世紀後葉～16世紀前半の年代が与えられる。1667は土師質土器鉢。口縁端部を内上方に拡張する。内面ヨコハケのち描目を施す。1668は備前焼陶器鉢の下半部。概ね中世後半期と考えられる。1669～1672は土師質土器羽釜。1669・1670は内耳付き。1670は鉢部折り曲げ技法とみられる。1671・1672も鉢部は折り曲げ技法で作り、内面にヨコハケを施す。いずれもタタキは確認できない。

遺構の年代は、出土遺物から概ね15世紀後葉～16世紀代と考えられる。

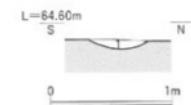
#### 溝40号（V地区 SD1040）（第966図）

SD1039～1051はV-2区北東部で検出した東西主軸の溝群で、1～2m前後の間隔で南北に並ぶ。いずれも幅40cm深度10cm前後の浅い溝である。耕作に伴う溝と考えられる。

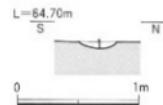
SD1040はV-2区東部北側、G・H 2～4グリッドに位置する、全長14.0m幅50cm深度8cmを測る。主軸は、N73°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。遺物は土師器片・須恵器片・杯が出土。1673は高台付須恵器杯の下半部。焼成不良で酸化炎焼成され、外面に炭素付着。概ね8世紀代とみられる。



第965図 V地区SD1036遺物実測図(2)



1. オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土(しまり強)



1. オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土(しまり強)



第966図 V地区SD1040構造・遺物実測図



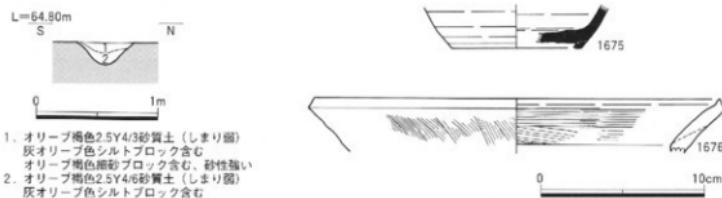
第967図 V地区SD1043構造・遺物実測図

溝43号（V地区 SD1043）（第967図）

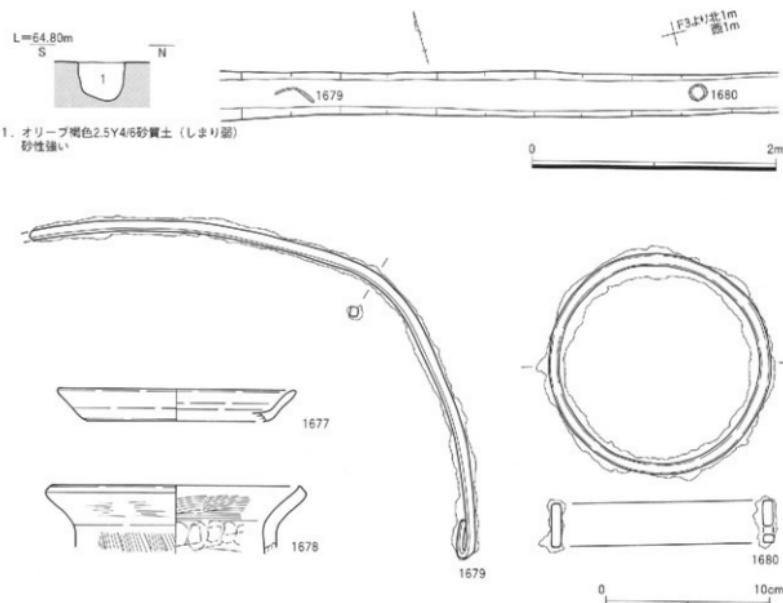
V-2区東部北側、F・G 2～5グリッドに位置し、西端を擾乱に切られ以西に延びない。検出長17.3m幅40cm深度6cmを測る。主軸は、N72°Wを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層。遺物は土師器煮炊具、須恵器杯、土師質土器片が出土。1674は須恵器杯の上半部。

溝48号（V地区 SD1048）（第968図）

V-2区東部北寄り、E・F 2～5グリッドに位置する、全長16.0m幅50cm深度18cmを測る。主軸は



第968図 V地区SD1048遺構・遺物実測図



第969図 V地区SD1049遺構・遺物実測図

N74°Wを向く。断面はレンズ状またはU字状で、埋土は2層に分層。

遺物は土師器片（赤彩はか）・杯・煮炊具・壺・須恵器片・杯が出土。1675は高台付須恵器杯の下半部。酸化炎焼成気味。8世紀後葉～9世紀頃とみられる。1676は土師器壺の口縁部。口縁端部をわずかに上方につまみ上げる。外面に斜位のハケ、内面にヨコハケを施す。胎土に結晶片岩を含むとみられる。

#### 溝49号（V地区 SD1049）（第969図）

V-2区東部北寄り、E・F1～6グリッドに位置する、全長22.9m幅40cm深度31cmを測る。上軸はN74°Wを向く。断面はU字状で、埋土は1層。

遺物は土師器皿・煮炊具・壺・須恵器片・蓋・壺・土師質土器・煮炊具・近世陶磁器・鉄釘・環状鉄製品片・鉄鍋把手が出土。1677は土師器皿。内外面に赤彩を施す。1678は土師器壺の上半部。口縁端部をわずかに上方につまみ上げる。口縁内外面ヨコハケ、体部外面にタテハケを施す。1679は弓なりに湾曲した鉄製品で、鉄鍋の把手か。端部を短くU字に折り返す。1680は環状の鉄製品で、用途不明。径13.5cm幅2.6cmを測り、側面に径5mmの穿孔1ヶ所をもつ。

#### 溝52号（V地区 SD1052）（第970図）

V-2区東部南側、B～D1・2グリッドに位置する、全長15.6m幅200cm深度50cmを測る。クランク状に屈曲し、東西主軸はN80°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は5層。SD1036とともに屋敷地区画を形成する事も考えたが、出土遺物から本遺構は中世前半期に属すると考えられることから、中世後半期とみられるSD1036とは時期的に懸隔がある。また木造構付近は遺構密度が低く、屋敷地区画としては不自然な位置にある。

遺物は土師器・煮炊具・須恵器片・杯・壺・壺・土師質土器杯（回転糸切り・回転ヘラ切りはか）・煮炊具・鍋・瓦器椀・瓦質土器・鍋・壺（亀山系）、青磁鉢・白磁片・鉄製品片・鉄釘・鉄滓が出土。

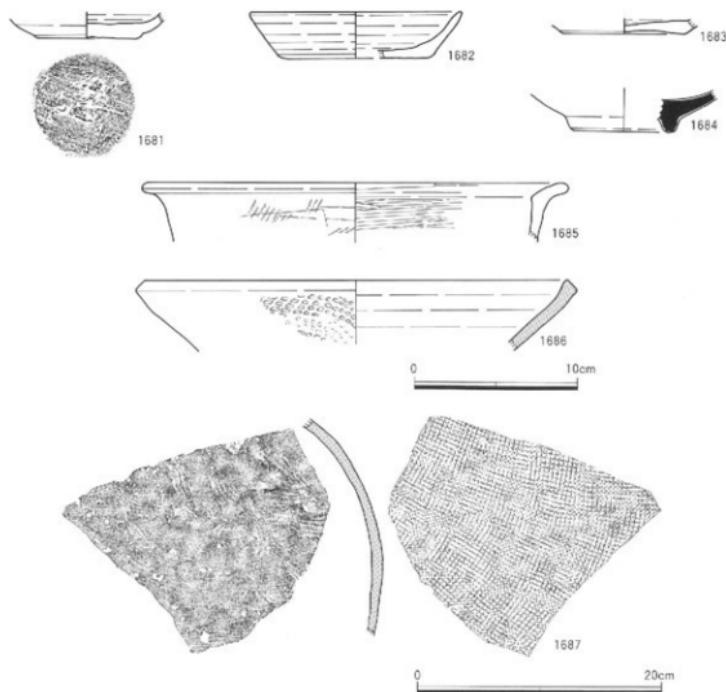
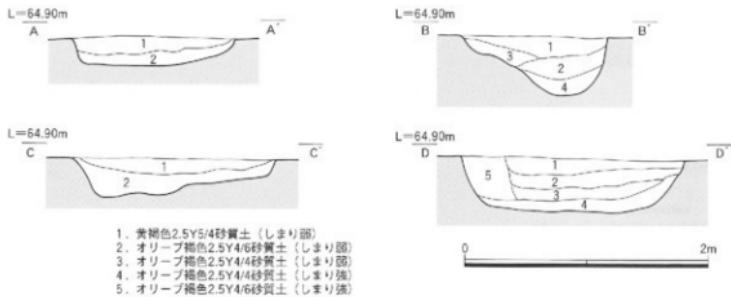
1681～1683は土師質土器杯。1681・1682は底部外面に回転ヘラ切りのち板目痕を残す。1683は回転糸切り痕を残す。1684は青磁鉢の底部。釉は厚くやや白濁し、粗い貫入を伴う。1685は土師質土器鍋の上部。体部外面に平行タタキのち横位の板ナデ、体部内面にヨコハケを施す。胎土は粗く、結晶片岩と絹雲母を含む。1686は瓦質土器鍋の上半部。口縁端部を方形に作り、わずかに内上方に拡張。体部外面に格子タタキを施す。胎土は粗い。炭素吸着はやや不良。鉢である可能性も考えられる。1687は亀山焼系瓦質土器壺の体部。外面に格子タタキ、内面に同心円状當て其痕を残し、のちヨコハケを施す。炭素吸着良好。遺構の年代は、出土遺物から概ね13世紀代と考えられる。

#### 溝54号（V地区 SD1054）（第971図）

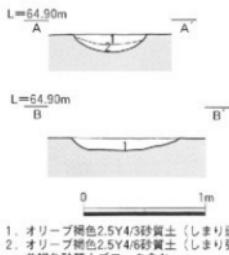
V-2区中央部南側、B・C20～2グリッドに位置し、東西南端は遺構に切られ以遠には延びない。検出長11.5m幅90cm深度14cmを測る。断面はレンズ状で、底面は西に下がる。埋土は2層。やや蛇行しており、SD1052の南への突出に呼応しているように見える。遺物は土師器・煮炊具・土師質土器片・皿・鍋・須恵質土器椀・羽口・鉄製品片・鉄滓が出土。1688は土師質土器皿の上半部。

#### 溝57号（V地区 SD1057）（第972～974図）

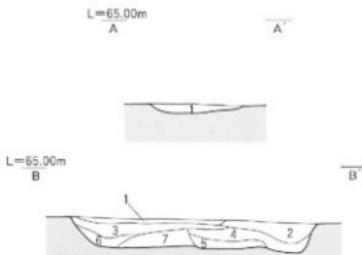
V-2区東端部、T～G4～6グリッドに位置し、南北は調査区外に延びる。検出長36.3m幅360cm深



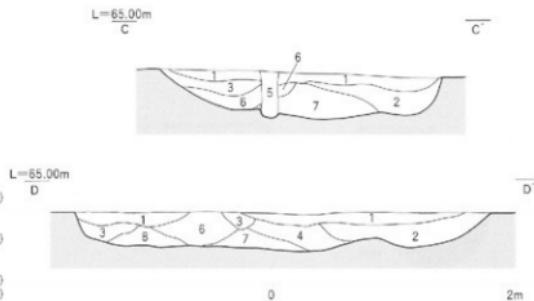
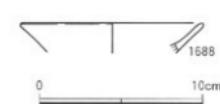
第970図 V地区SD1052遺構・遺物実測図



1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり弱）  
2. オリーブ褐色2.5Y4/6砂質土（しまり強）  
黄褐色砂質土ブロック含む



第971図 V地区SD1054  
遺構・遺物実測図



第972図 V地区SD1057遺構断面図

度40cmを測る。主軸はN14°Eを向く。断面はレンズ状または逆台形状で、埋土は8層に分層できる。南の土層は複雑で、2条の溝に分かれて並行していた時期があったと考えられる。底面は北に向かうにつれて下がり、幅も減少する。位置的にみて、南北方向の条里溝であると考えられる。

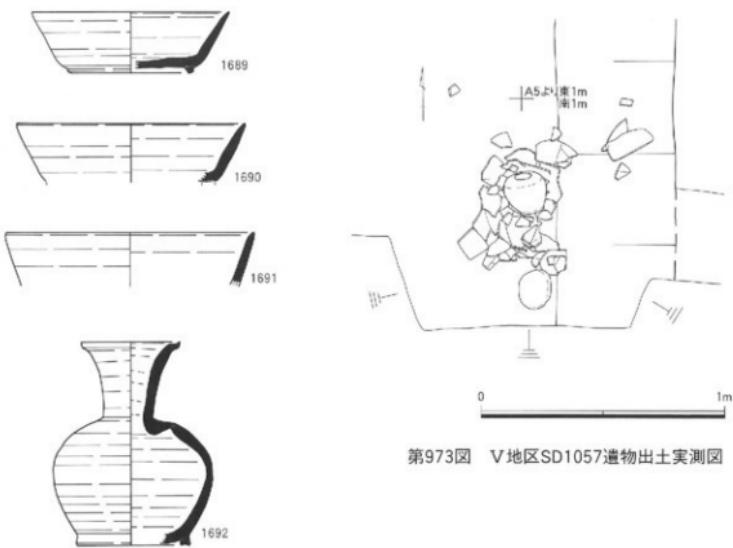
遺物は須恵器杯・壺・甕が出土。1689~1691は須恵器杯で、上半部のみ残存する1691を除き高台が付く。8世紀後半頃とみられる。1692~1694は須恵器壺。8世紀後半頃とみられる。1695は須恵器甕の下半部。外面格子タタキのちナデ、内面無文の當て具痕のち板ナデを施す。胎土に砂岩を含む。軽質焼成で、部分的に炭素付着。

遺構の年代は、出土遺物から概ね8世紀後半~9世紀頃と考えられる。

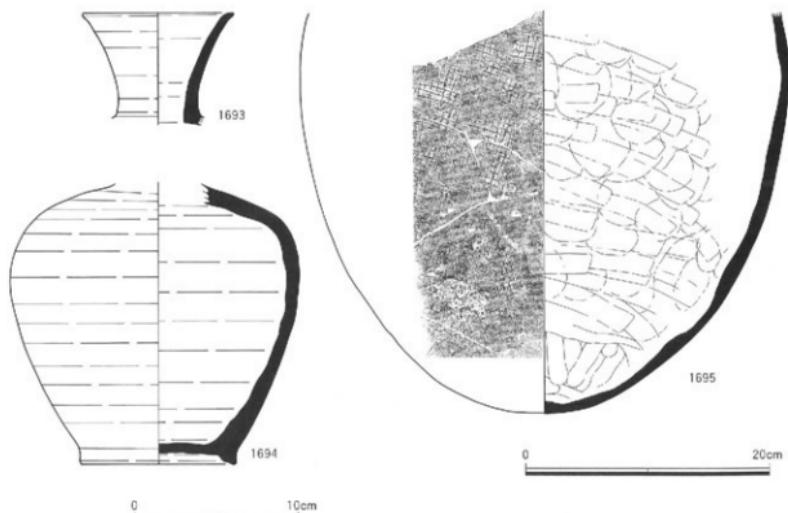
#### 不明遺構1号 (V地区 SX1001) (第975・976図)

V-1区東部南端、C-E8~12グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。東西20.9m南北検出長450cm深度30cmを測る。断面は浅い逆台形状または皿状で、埋土は4層。

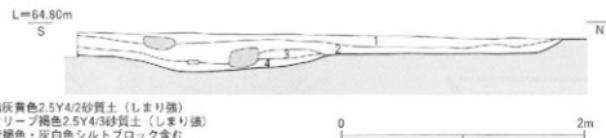
遺物は土師器皿・煮炊具・壺・甕、須恵器片・杯・壺・甕、土師質土器杯・煮炊具脚部、鉄滓が出土。1696は土師器皿。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。1697は須恵器杯。底部内面に3条、底部外面に1条の線刻を残すが、單なる傷かもしれない。1698は土師器甕の上半部。



第973図 V地区SD1057遺物出土実測図

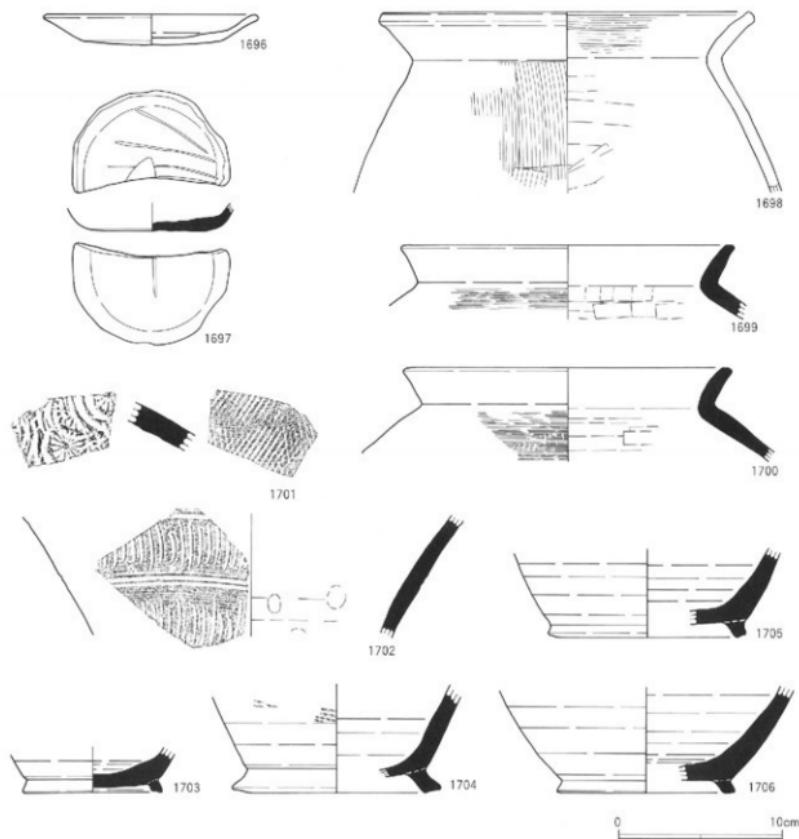


第974図 V地区SD1057遺物実測図



1. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）  
黄褐色・灰白色シルトブロック含む
3. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）
4. 脱灰黄色2.5Y5/2砂質土（しまり強）  
灰白色シルトブロック含む

第975図 V地区SX1001遺構断面図



第976図 V地区SX1001遺物実測図

体部外面にカキメ、口縁内面に平行タタキのちカキメを施す。1699・1700は須恵器壺の上部。1699は体部外面にタテハケ、1700はカキメを施す。1701は須恵器壺の肩部とみられる破片。外面平行タタキのちカキメ、内面に菊花青海波の当て具痕を残す。1702～1706は須恵器壺。1702は頸部で、横位の沈線を引き、縱位のヘラ描き文を連続して施文する。7世紀代か。1703～1706は下半部。8世紀後半頃とみられる。1706の底部内面に径5cmの円形に自然釉付着。

#### 小穴12号（V地区 SP1012）（第977図）

V-1区西北寄り、J5グリッドに位置する、径44cm深度37cmを測る円形の小穴。出土遺物に鉄滓を作うことから、SA1001を中心とした鍛冶関連遺構の一つと考えられる。掲載遺構の他にも羽口が出土したSP1013・1015・1030・1031・1081、鉄滓が出土したSP1018・1030・1031・1033は、同様に鍛冶関連遺構と考えられる。1707は凝灰岩製砥石。5面を使用する。

#### 小穴19号（V地区 SP1019）（第978図）

V-1区西部南寄り、H6グリッドに位置する、径54cm深度50cmを測る不整円形の小穴。鍛冶関連遺構の一つと考えられる。遺物は土師質土器羽釜、羽口、鉄製品片、鉄滓2.83kgが出土。1708は土師質土器羽釜の上半部。鋸部は折り曲げ技法で作る。15～16世紀代とみられる。

#### 小穴20号（V地区 SP1020）（第979図）

V-1区西部南寄り、H6グリッドに位置する、径26cm深度33cmを測る円形の小穴。断面はU字状で、埋土は4層に分層できる。第1層は炭化物片を多く含む暗色土層で、鍛冶関連遺構の可能性がある。鉄滓0.12kgが出土。

#### 小穴21号（V地区 SP1021）（第980図）

V-1区西部南寄り、H6グリッドに位置する、長軸残存長43cm深度32cmを測る楕円形の小穴。断面は方形で、埋土は1層である。遺物は羽口のほか、鉄滓3.0kg（うち椀形滓2点）が出土。鍛冶関連遺構の一つと考えられる。

#### 小穴23号（V地区 SP1023）（第981図）

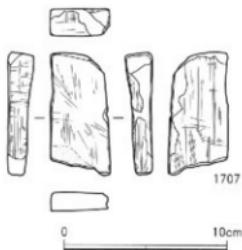
V-1区西部南側、H5グリッドに位置する、径27cm深度36cmを測る円形の小穴。断面はU字状で、埋土は1層である。炭化物片を多く含む暗色土層で、鍛冶関連遺構の可能性がある。鉄滓0.57kg出土。

#### 小穴24号（V地区 SP1024）（第982図）

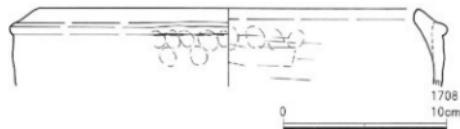
V-1区西部南側、H5グリッドに位置する、径25cm深度30cmを測る円形の小穴。遺物は羽口、鉄滓1.5kgが出土。鍛冶関連遺構の一つと考えられる。

#### 小穴25号（V地区 SP1025）（第983図）

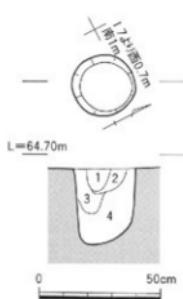
V-1区西部南側、H5グリッドに位置する、径52cm深度44cmを測る不整形の小穴。断面はU字状で、埋土は3層。柱痕とみられる土層を確認。遺物は土師質土器片、羽口、鉄滓0.5kgが出土。鍛冶関連遺



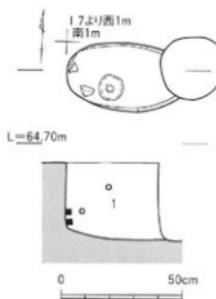
第977図 V地区SP1012遺物実測図



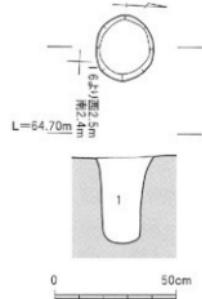
第978図 V地区SP1019遺物実測図



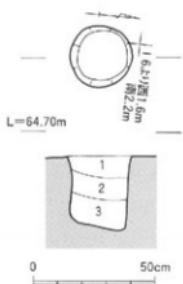
第979図 V地区  
SP1020遺構実測図



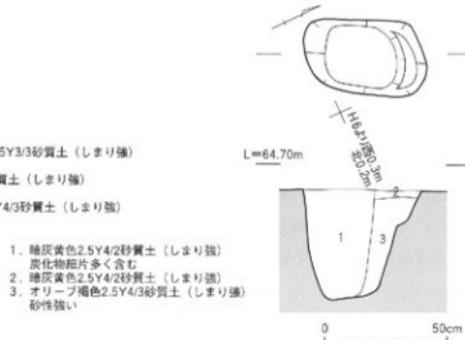
第980図 V地区  
SP1021遺構実測図



第981図 V地区  
SP1023遺構実測図



第982図 V地区SP1024遺構実測図



第983図 V地区SP1025遺構実測図

構の一つと考えられる。

#### 小穴27号（V地区 SP1027）（第984図）

V-1区西部南側、H6グリッドに位置する、長径60cm深度8cmを測る長楕円形の小穴。断面は皿状で、底面は北側が凹む。埴上は2層に分層できる。鉄滓0.1kg出土。鍛冶関連遺構の可能性がある。

#### 小穴71号（V地区 SP1071）（第985図）

V-1区東部北端、K13グリッドに位置する、一辺61cm深度30cmを測る隅丸方形の小穴。遺物は土師器片（赤彩ほか）・椀・煮炊具が出土。1709は高台付土師器椀の底部。底部内面に密なヘラミガキ、外外面に赤彩を施す。

#### 小穴73号（V地区 SP1073）（第986図）

V-1区東部北側、J13グリッドに位置する、一辺70cm深度16cmを測る隅丸方形の小穴。遺物は土師器煮炊具、須恵器片・杯が出土。1710は無高台の須恵器杯の下半部。

#### 小穴91号（V地区 SP1091）（第987図）

V-2区西部北端、J16・17グリッドに位置する、長径48cm深度39cmを測る楕円形の小穴。遺物は須恵器杯・瓦質土器片が出土。1711は高台付須恵器杯の底部。焼成不良により軟質で、外面炭素付着。

#### 小穴100号（V地区 SP1100）（第988図）

V-2区西部中央、G16グリッドに位置する、径34cm深度52cmを測る円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1712は銅鏡。嘉祐元寶の篆書体。北宋鏡で、1056年初鑄。背に鋳ズレあり。

#### 小穴109号（V地区 SP1109）（第989図）

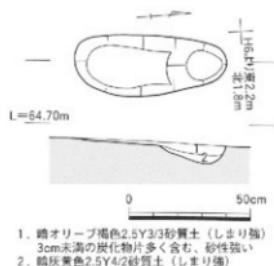
V-2区西部中央、F16グリッドに位置する、径42cm深度60cmを測る円形の小穴。遺物は土師器片・土師質土器片・杯が出土。1713は土師質土器杯。回転台成形で、底部外面に回転糸切り裏を残す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。13世紀前後とみられる。

#### 小穴117号（V地区 SP1117）（第990図）

V-2区西部南寄り、E・F16グリッドに位置する、長径53cm深度48cmを測る楕円形の小穴。遺物は土師器煮炊具・須恵器片・綠釉陶器皿が出土。1714は土師質土器擂鉢の上半部。体部外面上端に粘土絆を継ぎ足して口縁を作り、端部を内上方に拡張する。内面ヨコハケのち擂目を施す。15~16世紀代とみられる。

#### 小穴121号（V地区 SP1121）（第991図）

V-2区西部南側、E16グリッドに位置する、長径90cm深度49cmを測る長楕円形の小穴。遺物は土師器煮炊具・須恵器片・綠釉陶器皿が出土。1715は綠釉陶器皿の上部。小片のため傾きと径は不正確であることから、碗の可能性もある。口縁はわずかに端反る。部分的に酸化炎焼成される。釉は濃い緑色を呈し、剥離はほとんど見られない。



第984図 V地区SP1027構造実測図



第985図 V地区  
SP1071遺物実測図



第986図 V地区  
SP1073遺物実測図



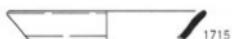
第988図 V地区  
SP1100遺物実測図



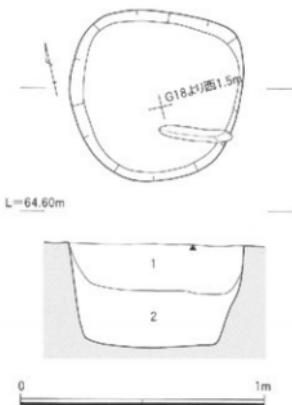
第989図 V地区  
SP1109遺物実測図



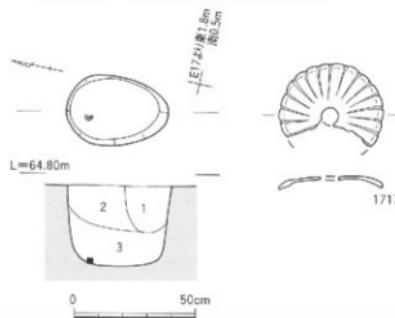
第990図 V地区SP1117遺物実測図



第991図 V地区SP1121遺物実測図



1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土(しまり弱)  
黄褐色シルトブロック含む  
2cm未満の炭化物片多く含む
2. 緑灰黄色2.5Y4/2砂質土(しまり弱)  
砂性強い



1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土(しまり強)
2. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土(しまり強)
3. 緑灰黄色2.5Y4/2砂質土(しまり弱)

第993図 V地区SP1168構造・遺物実測図



第992図 V地区SP1150構造・遺物実測図

#### 小穴150号（V地区 SP1150）（第992図）

V－2区西部中央、F・G17グリッドに位置する、径70cm深度42cmを測る不整円形の小穴。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は土師質土器片・煮炊具・羽釜が出土。1716は土師質土器羽釜の上半部。鋲部を折り曲げ技法で作る。15～16世紀代とみられる。

#### 小穴168号（V地区 SP1168）（第993図）

V－2区西部南側、D17グリッドに位置する、長径42cm深度33cmを測る楕円形の小穴。断面はU字状で、埋土は3層に分層できる。遺物は土師質土器片・青銅製飾り金具が出土。1717は青銅製飾り金具。径3.2cmを測り、菊花形を作る。外面は凸面状で、中央に径5mmの円孔を有する。内面無文。

#### 小穴173号（V地区 SP1173）（第994図）

V－2区西部南側、D17グリッドに位置する、径46cm深度52cmを測る円形の小穴。遺物は土師質土器片・羽釜・鉄刀子・青銅製小柄が出土。1718は土師質土器羽釜の上半部。鋲部を折り曲げ技法で作る。外外面に横位の板ナデを施す。1719は青銅製小柄の鞘。

#### 小穴191号（V地区 SP1191）（第995図）

V－2区西部北寄り、H18グリッドに位置する、径48cm深度50cmを測る円形の小穴。遺物は土師器片・須恵器片・土師質土器擂鉢が出土。1720は土師質土器擂鉢の上半部。口縁端部を上方に拡張。体部内面横位の板ナデのち捲目を施す。15～16世紀代とみられる。

#### 小穴217号（V地区 SP1217）（第996図）

V－2区中央部北端、J19グリッドに位置する、長径40cm深度17cmを測る楕円形の小穴。遺物は鉄製品片・鑿・刀子が出土。1721・1722は鉄製の鑿とみられる。細長い板状鉄製品で下方にいくほど幅を狭める。頂部はわずかに折り曲げる。

#### 小穴225号（V地区 SP1225）（第997図）

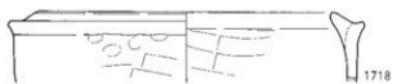
V－2区中央部北側、G・H19グリッドに位置する、長径63cm深度52cmを測る楕円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1723は瀬戸美濃系陶器の天口茶碗。概ね中世末期とみられる。

#### 小穴234号（V地区 SP1234）（第998図）

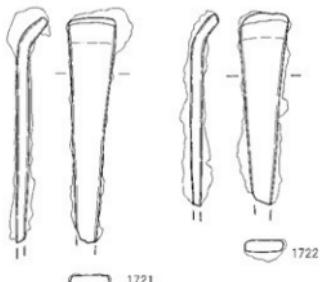
V－2区中央部、E19グリッドに位置する、長径70cm深度52cmを測る楕円形の小穴。遺物は土師器煮炊具・須恵器片・杯・鉄釘が出土。1724は高台付土師器杯の底部。須恵器の焼成不良品である可能性あり。8世紀代とみられる。

#### 小穴249号（V地区 SP1249）（第999図）

V－2区中央部北端、I20グリッドに位置する、径35cm深度12cmを測る円形の小穴。遺物は土師器杯・土師質土器片が出土。1725は土師器杯。口縁端部の内側を強いヨコナデによって凹線状に作る。外外面に赤彩を施す。8世紀中葉前後とみられる。



第994図 V地区SP1173遺物実測図



第996図 V地区SP1217遺物実測図



第995図 V地区SP1191遺物実測図



第996図 V地区  
SP1234遺物実測図



第999図 V地区SP1249遺物実測図

第997図 V地区  
SP1225遺物実測図



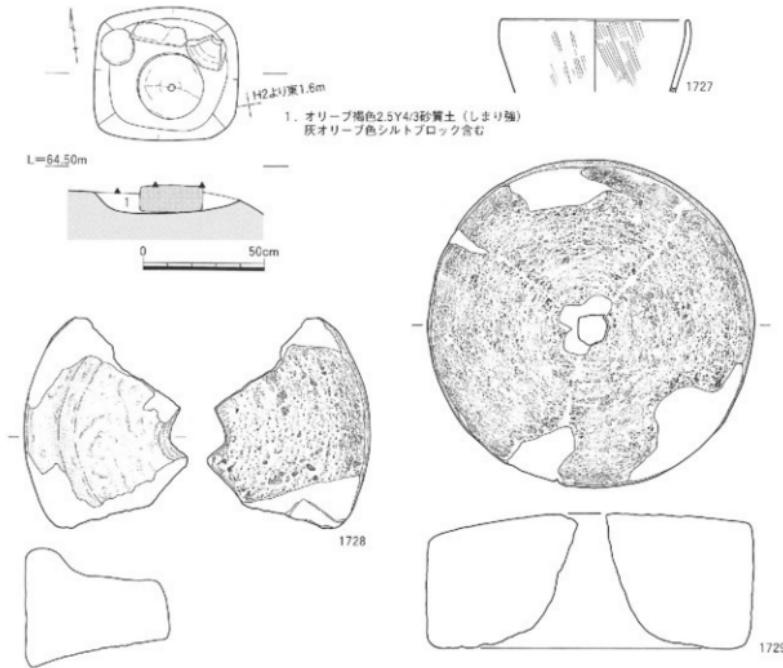
第1000図 V地区SP1260遺物実測図

#### 小穴260号（V地区 SP1260）（第1000図）

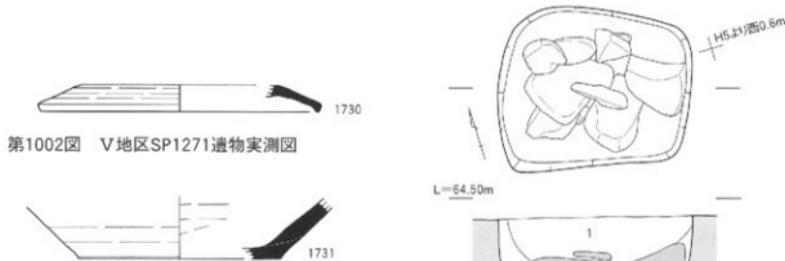
V-2区中央部南端、A・B20グリッドに位置する、径65cm深度28cmを測る円形の小穴。遺物は土師器片、上師質土器鍋が出土。1726は土師質土器鍋。頸部は強く屈曲して明瞭な稜を残す。体部内外面にハケを施す。胎土は粗く、結晶片岩と絹雲母を含む。

#### 小穴268号（V地区 SP1268）（第1001図）

V-2区中央部北側、G・H2グリッドに位置する、一辺60cm深度8cmを測る隅丸方形の小穴。断面



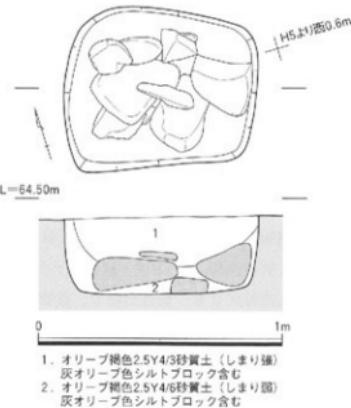
第1001図 V地区SP1268遺構・遺物実測図



第1002図 V地区SP1271遺物実測図



第1003図 V地区SP1279遺物実測図



第1004図 V地区SP1285遺構実測図

は皿状で、埋土は1層である。中央部に完形の角礫凝灰岩製石臼（下臼）を据え、北側に20cm前後の礫や石臼片（上臼）が出土する。このほかに弥生土器小型丸底鉢、土師器片、土師質土器片が出土。

1727は弥生土器小型丸底鉢の口縁部。内外面にタテハケを施す。胎土は精良で、結晶片岩と網雲母を含む。弥生時代後期末頃とみられる。混入品であろう。1728は天霧產とみられる角礫凝灰岩製石臼（上臼）。中央付近に供給孔が貫通する。下面は凹面状で、溝目は確認できない。側面に横打ち込み孔が2ヶ所あり、一つは摩耗によって下面に露出する。1729は天霧產角礫凝灰岩製石臼（下臼）で、ほぼ完形。中央に芯棒受け孔が貫通。上面は凸面状で、溝目は確認できない。

遺構の年代は、石臼の年代から概ね15~16世紀代と考えられる。

#### 小穴271号（V地区 SP1271）（第1002図）

V-2区東部北寄り、E2グリッドに位置する、長径68cm深度28cmを測る楕円形の小穴。遺物は土師器煮炊具、須恵器蓋が出土。1730は須恵器蓋で、中央部を欠く。焼成不良で、酸化炎焼成される。

#### 小穴279号（V地区 SP1279）（第1003図）

V-2区東部南側、B2グリッドに位置する、長径67cm深度11cmを測る楕円形の小穴。遺物は土師質土器片、須恵質土器捏鉢が出土。1731は須恵質土器捏鉢の下半部。焼成不良により酸化炎焼成気味。東播系の可能性が考えられるが、底部外面に回転糸切り痕が確認できない。

#### 小穴285号（V地区 SP1285）（第1004図）

V-2区西部北端、G・H4グリッドに位置する、一辺79cm深度30cmを測る不整な隅丸方形の小穴。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は土師質土器皿・煮炊具・擂鉢が出土。

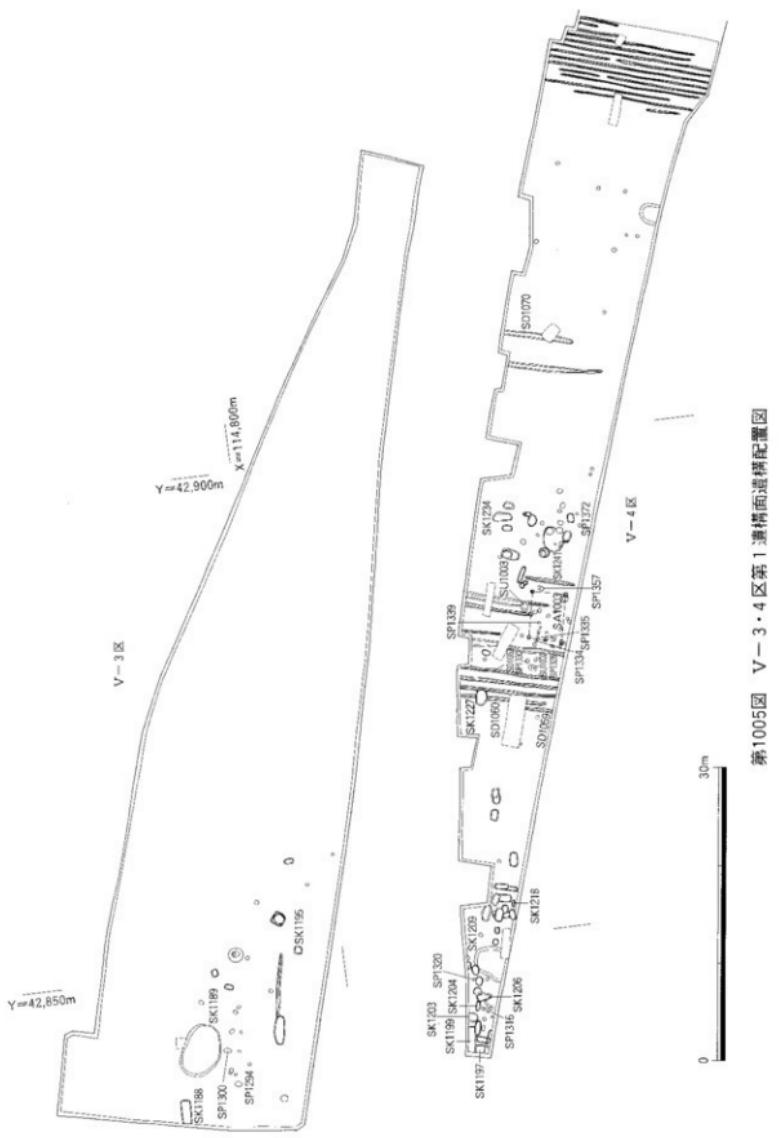
#### V-3・4区（第1005図）

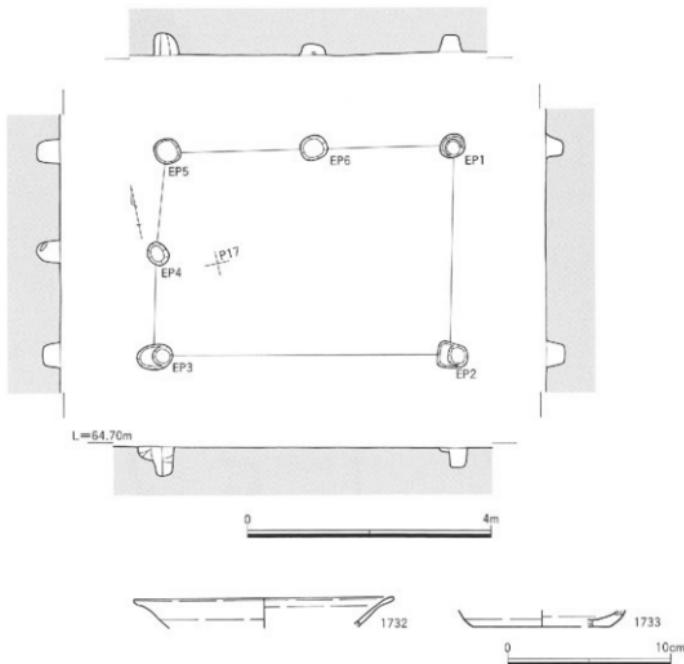
V-3・4区第1遺構面は、全体的に北東へ向けて下がる。遺構面直上に洪水砂層が覆い、遺構面のベース土も砂性を帯び、北東に向かうにつれて砂性を増す。遺構密度は低く、V-3区では南西隅部を除いて遺構が検出されない。V-4区では西半部に遺構が集中し、東半部は耕作に伴う連続溝を除いて目立った遺構は検出されない。第2遺構面と同様に中庄東遺跡の縁辺部にあたると考えられる。SA1棟、SK56基、SU2基、SD29条、SP91基を検出。

#### 掘立柱建物3号（V地区 SA1003）（第1006図）

V-4区中央部、O・P16・17グリッドに位置する。東西2間（4.9m）南北2間（3.4m）床面積16.7m<sup>2</sup>、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N79°Wを向く。柱穴の平面形は円形または不整円形で、径38~54cm深度18~48cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP3・5で柱痕とみられる土層を確認。

遺物はEP2・3・5・6から、須恵器片、土師質土器片・杯・皿・擂鉢・煮炊具・羽釜・土鍤が出土。1732・1733はEP5の出土遺物で、1732は土師質土器皿の上半部。器壁はきわめて薄い。胎土に結晶片岩と網雲母を含む。1733は土師質土器皿の底部。底部外面に回転糸切り痕を残す。





第1006図 V地区SA1003遺構・遺物実測図

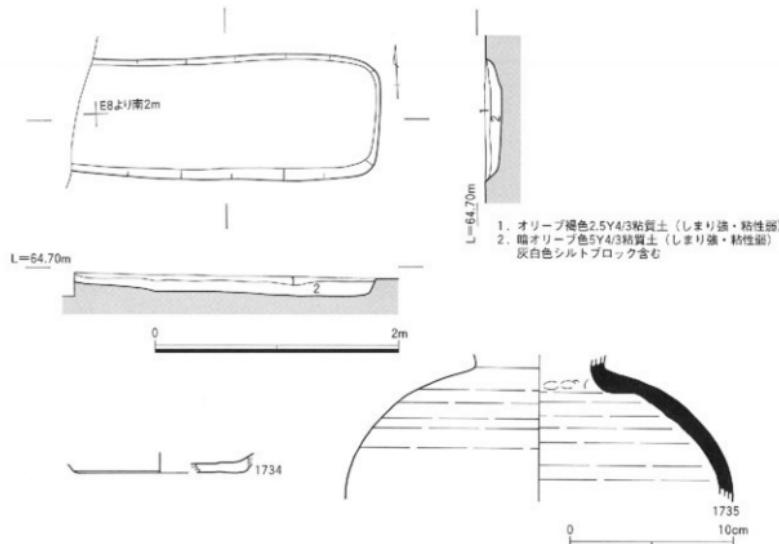
#### 土坑188号（V地区 SK1188）（第1007図）

V-3区西端部、D7・8グリッドに位置し、西は調査区外に延びる。長軸検出長250cm短軸104cm深度15cmを測る隅丸長方形の土坑。主軸はN89°Wを向く。断面は逆台形状または皿状で、埋土は2層。遺物は土師器杯、須恵器壺が出土。1734は土師器杯の底部。外面に炭素の付着がみられ、須恵器の焼成不良品の可能性がある。1735は須恵器壺の体部上半。

#### 土坑189号（V地区 SK1189）（第1008・1009図）

V-3区西部、C・D8・9グリッドに位置する、長軸560cm短軸384cm深度38cmを測る不整な楕円形の土坑。主軸はN61°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は6層に分層できる。東側の埋土上位で10~30cm大の礫が散在する。配置に規則性は見いだせない。

遺物は土師器片（赤彩はか）、杯、碗、煮炊具、甕、瓶、須恵器杯、甕、黑色土器碗A類、近世陶器碗、鉄鉗、釘が出土。



第1007図 V地区SK1188遺構・遺物実測図

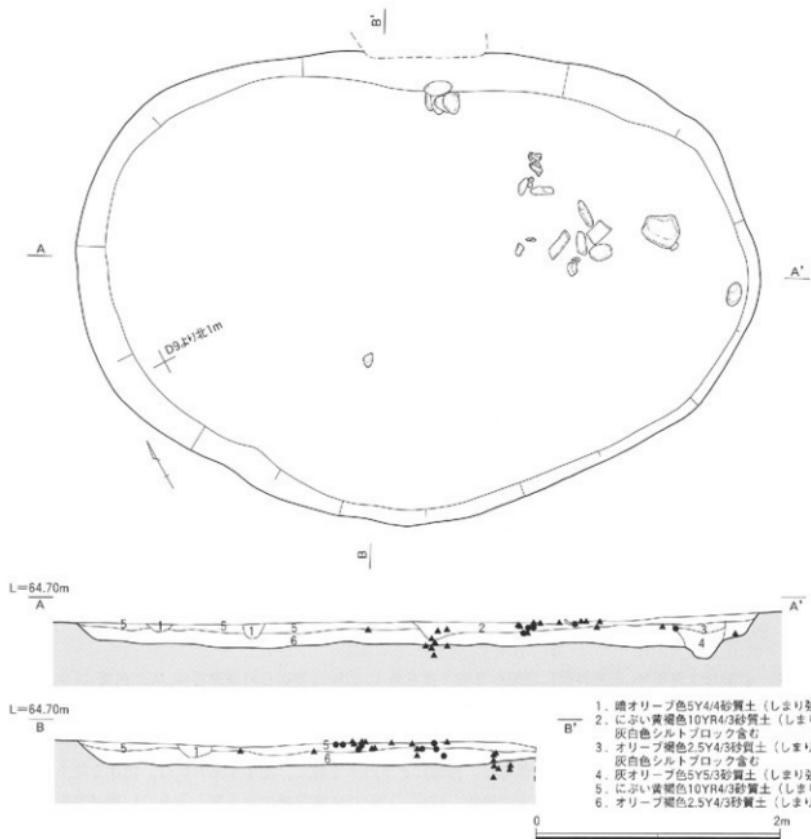
1736～1738は土師器杯。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。1739は無高台の須恵器杯。底部内面に「キ」字状のヘラ記号を描く。底部外面に回転ヘラ切りのち板目痕を残す。土師器杯と器形・法量が酷似する。1740は高台付土師器椀の底部。胎土に結晶片岩を含むとみられる。1741は瀬戸美濃系陶器天目茶碗の上半部。鉄釉を施す。1742は土師器瓶の体部片。外面にタテハケを施し、把手を貼り付け。把手を貼り付けた体部内面側は、指頭圧痕を丁寧にナデ消す。1743・1744は土師器甕の上半部。ともに口縁端部をわずかに拡張。体部外面にタテハケ、口縁内面にヨコハケを施す。1745は鉄製の鉢。

#### 土坑195号（V地区 SK1195）（第1010図）

V-3区西部南側、A11グリッドに位置する、長軸80cm短軸78cm深度24cmを測る不整な隅丸方形土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、1746は土師質器杯か皿の口縁部。

#### 土坑197号（V地区 SK1197）（第1011図）

V-4区西端部、R8グリッドに位置し、西は調査区外に延びる。東西検出長86cm南北102cm深度19cmを測る隅丸方形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層である。遺物は土師器煮炊具、土師質器杯、黒色土器A類、土錘が出土。1747は土師質器杯の下半部。底部外面に回転糸切り痕を残す。焼成堅敏。

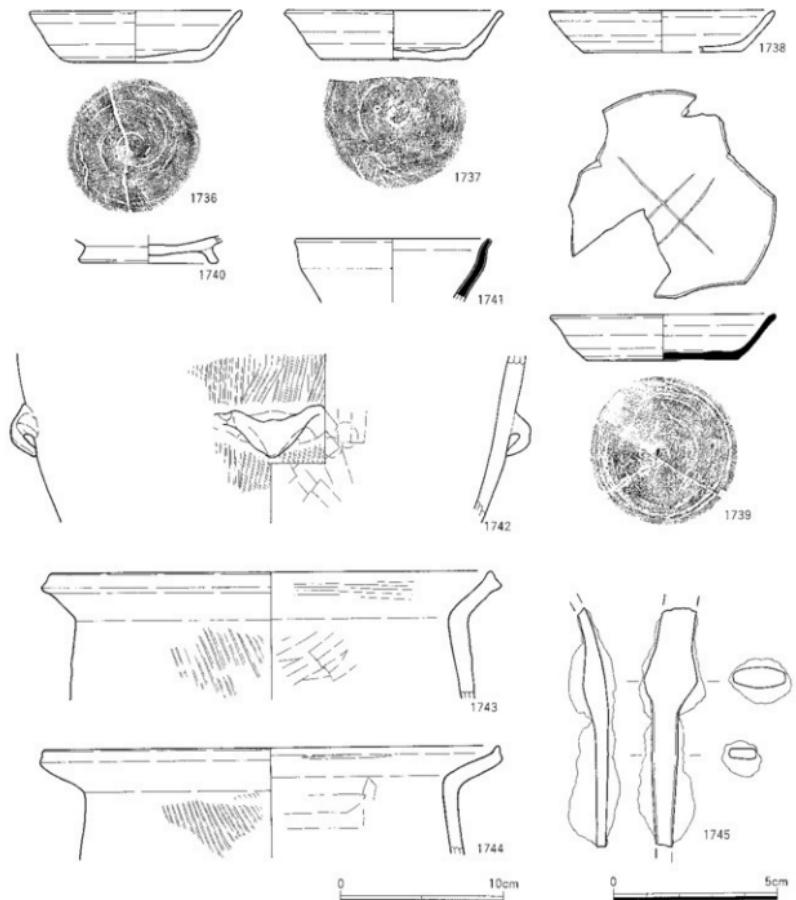


第1008図 V地区SK1189遺構実測図

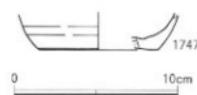
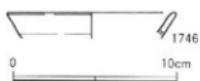
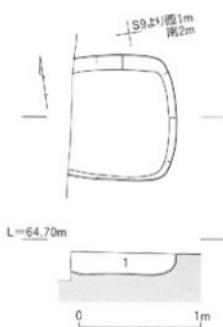
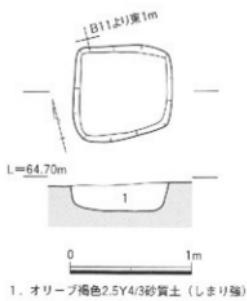
#### 土坑199号 (V地区 SK1199) (第1012図)

V-4区北西端部、R 8・9グリッドに位置し、北・西は調査区外に延びる。東西検出長256cm南北検出長77cm深度23cmを測る方形または長方形とみられる土坑。断面は逆台形状で、埋土は1層。

遺物は土師器杯・煮炊具・鍋、須恵器片、土師質土器杯（回転糸切り・回転ヘラ切り）、皿・煮炊具脚部、黒色土器A類が出土。1748は土師器杯の底部。内外面に赤彩を施す。1749は土師質土器杯の底部。底部外面に回転糸切り痕を残す。1750は土師器鍋の口縁部。端部をつまんで尖らせ気味に仕上げる。内面にヨコハケを施す。



第1009図 V地区SK1189遺物実測図



第1010図 V地区SK1195遺構・遺物実測図

第1011図 V地区SK1197遺構・遺物実測図

#### 土坑203号 (V地区 SK1203) (第1013図)

V-4区西端部、R9グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。南北残存長96cm東西100cm深度20cmを測る楕円形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は3層。

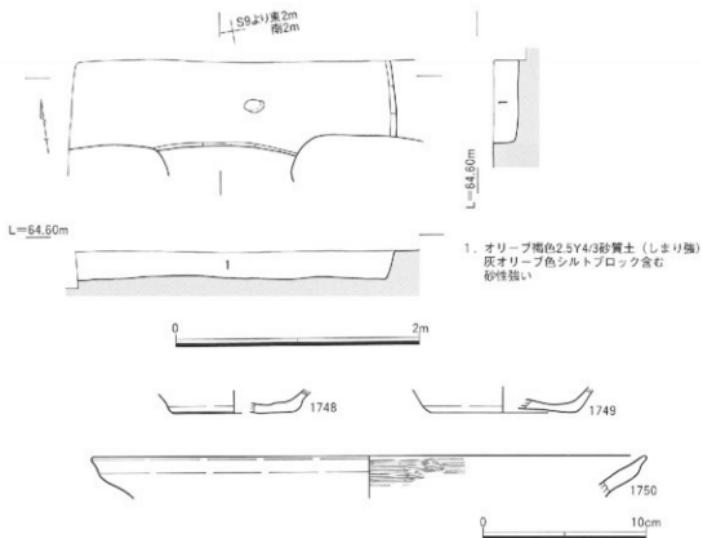
遺物は土師器片（赤彩ほか）、皿・煮炊具、須恵器片・杯、土師質土器片・杯・煮炊具・鍋、須恵質土器椀、肥前系磁器皿、鉄滓が出土。1751は土師質土器杯の下半部。回転台成形で、底部外面に回転糸切り痕を残す。1752は土師器皿。体部中位で外方に屈曲する。1753は須恵器杯。底部を欠く。焼成やや不良で、部分的に炭素付着し、外面に重焼痕を残す。1754は須恵質土器椀の口縁部。軟質焼成で、炭素が付着し重焼痕を残す。1755は肥前系とみられる磁器皿の下半部。底部内面に蛇目目剥ぎを施し、砂目痕を残す。

#### 土坑204号 (V地区 SK1204) (第1014図)

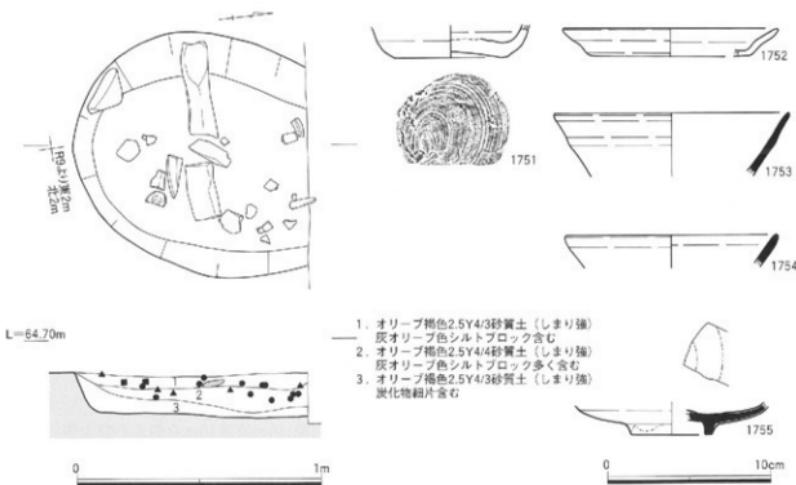
V-4区西部、R9グリッドに位置する、長軸104cm短軸45cm深度9cmを測る長楕円形の土坑。主軸はN78°Wを向く。断面は浅い逆台形状で、埋土は1層である。遺物は土師器煮炊具、須恵器蓋、土師質土器片・杯・煮炊具脚部・羽釜が出土。1756は須恵器蓋で、中央部を欠く。

#### 土坑206号 (V地区 SK1206) (第1015図)

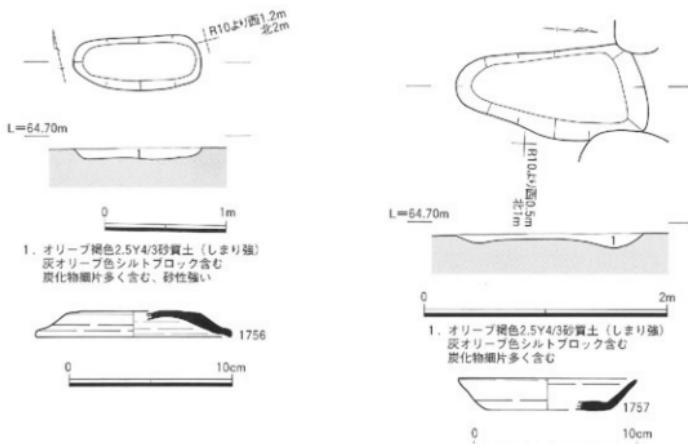
V-4区西部、R9グリッドに位置する、長軸160cm短軸82cm深度11cmを測る不整形土坑。主軸はN



第1012図 V地区SK1199遺構・遺物実測図



第1013図 V地区SK1203遺構・遺物実測図



第1014図 V地区SK1204遺構・遺物実測図

第1015図 V地区SK1206遺構・遺物実測図

5°Wを向く。断面は皿状で、埋土は1層。遺物は土師器片（赤彩ほか）・煮炊具、須恵器片・皿が出土。1757は無高台の須恵器皿。

#### 土坑209号（V地区 SK1209）（第1016図）

V-4区西部、Q・R10グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。南北残存長318cm東西340cm深度22cmを測る不整形の土坑。断面は皿状で、埋土は2層に分層できる。

遺物は土師器煮炊具、須恵器片、土師質土器杯（回転糸切り・回転ヘラ切り）・煮炊具（格子タタキ・脚部ほか）・鍋、瓦器碗が出土。1758は土師質土器杯。回転台成形で、底部外面に回転糸切り痕を残す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。13世紀頃とみられる。

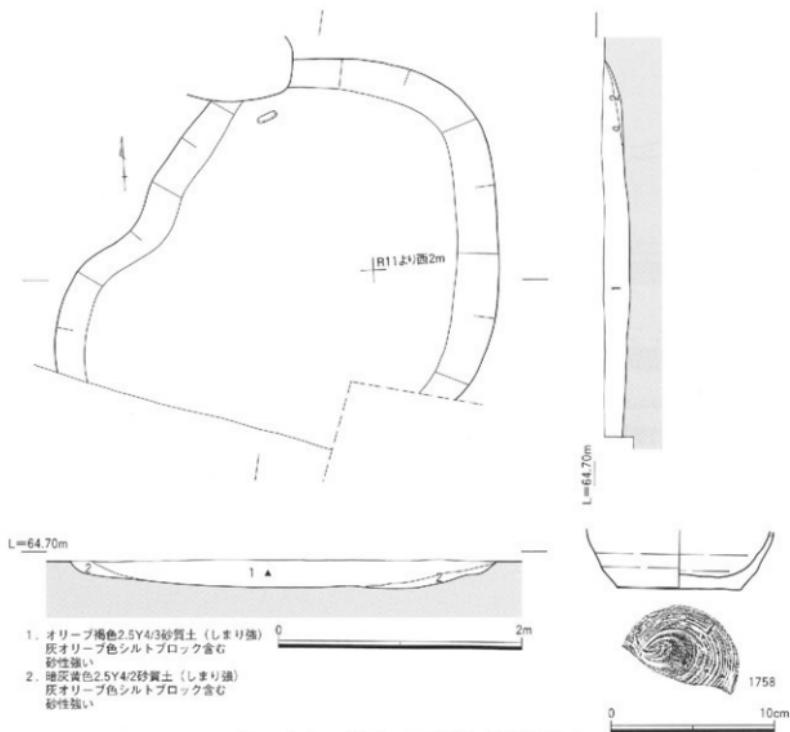
#### 土坑218号（V地区 SK1218）（第1017図）

V-4区西部、Q11グリッドに位置する、長軸72cm短軸32cm深度15cmを測る梢円形の土坑。主軸はN72°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層である。出土遺物は1点のみで、1759は鉄製の刀子。

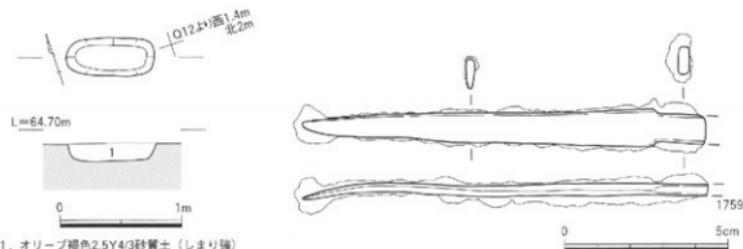
#### 土坑227号（V地区 SK1227）（第1018図）

V-4区中央部北側、Q15グリッドに位置する、長軸168cm短軸116cm深度18cmを測る不整な梢円形の土坑。主軸はN77°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。

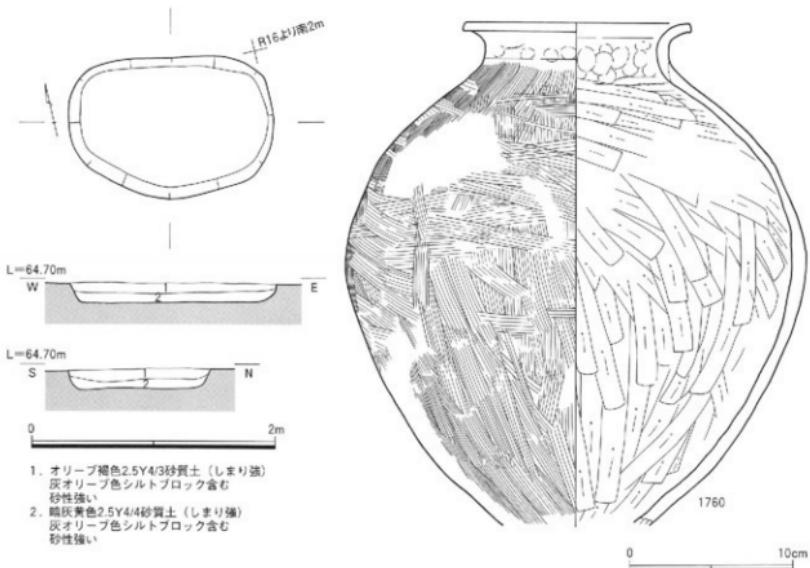
遺物は弥生土器壺、土師質土器片が出土。1760は弥生土器壺で、底部を欠く。体部外面にハケ、内面にケズリを施す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。弥生時代後期末頃とみられる。



第1016図 V地区SK1209遺構・遺物実測図



第1017図 V地区SK1218遺構・遺物実測図



第1018図 V地区SK1227遺構・遺物実測図

#### 土坑234号（V地区 SK1234）（第1019図）

V-4中央部北側区、P19グリッドに位置する、長軸198cm短軸94cm深度40cmを測る不整な楕円形の土坑。主軸はN 5°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は6層に分層できる。遺物は須恵器片、土師質土器片・釜が出土。1761は土師質土器釜の上部。口縁は大きく内方に屈曲する。胎土に砂岩を含む。16世紀頃とみられる。

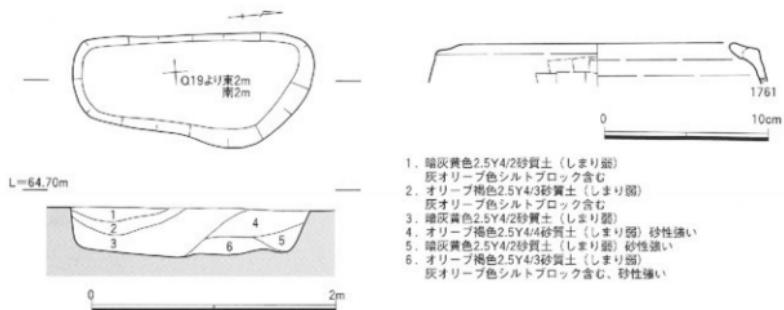
#### 土坑241号（V地区 SK1241）（第1020図）

V-4区中央部南側、O18・19グリッドに位置し、南北を遺構に切られる。長軸270cm短軸残存長224cm深度15cmを測る不整な楕円形の土坑。断面は逆台形状で、底面は起伏がある。埋土は1層である。遺物は土師質土器片・煮炊具・鉄釘が出土。1762は鉄釘。頂部を叩いて平頭に作る。

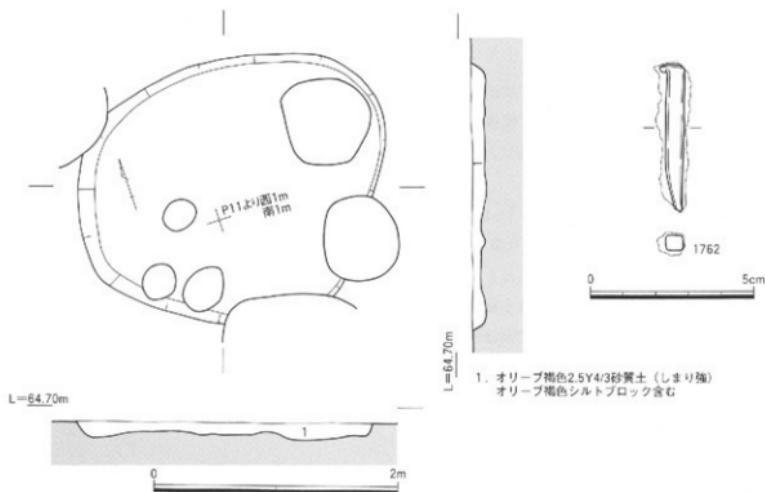
#### 集石造構2号（V地区 SU1002）（第1021図）

V-4区中央部、P16グリッドに位置する。検出面から上に7~25cmで、5~30cm大の礫が長軸84cm短軸62cmの範囲に集中する。礫の配置に規則性は見いだせない。集石下に深度7cmを測る遺構の掘り込みを伴う。断面は皿状で、埋土は1層。

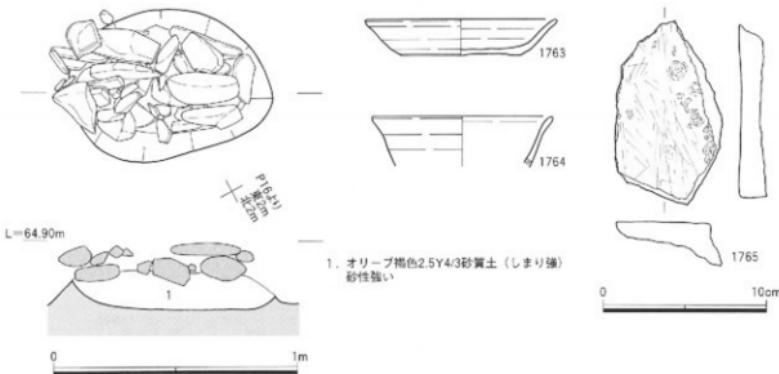
遺物は土師器杯、土師質土器片・瓦器椀、砂岩製砥石が出土。1763は土師器杯。底部外面に回転ヘラ



第1019図 V地区SK1234遺構・遺物実測図



第1020図 V地区SK1241遺構・遺物実測図



第1021図 V地区SU1002遺構・遺物実測図

切り痕を残す。胎土は粗く砂岩を含むとみられる。1764は土師器杯か皿の上半部。胎土に結晶片岩を含むとみられる。1765は砂岩製砥石片。大型品の一部とみられ1面のみ残存。

#### 集石遺構3号（V地区 SU1003）（第1022図）

V-4区中央部、P17グリッドに位置する。長軸114cm短軸80cm深度15cmを測る土坑に、5~20cm大の礫が密集。比較的大型の礫が周縁に、小型の礫が中央にみられる。断面は逆台形状または皿状で、埋土は2層に分層。

遺物は土師質土器杯（静止糸切り）・皿・擂鉢・煮炊具・羽釜（内耳はか）・鍋が出上。1766~1769は土師質土器皿。底部外面に静止糸切り痕を残す。1769の口縁内面に、部分的に被熱による気泡が生じる。1766・1767は胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。1770は土師質土器杯か皿の上半部。器壁はきわめて薄い。胎土は精良で、砂岩を含む。1771は土師質土器擂鉢の上半部。口縁端部を内上方に拡張する。内面横位の板ナデのち捺目を施す。1772~1774は土師質土器羽釜。いずれも鋤部を折り曲げ技法で作る。1772は内耳部をもつ。1775は土師質土器鍋の口縁部。

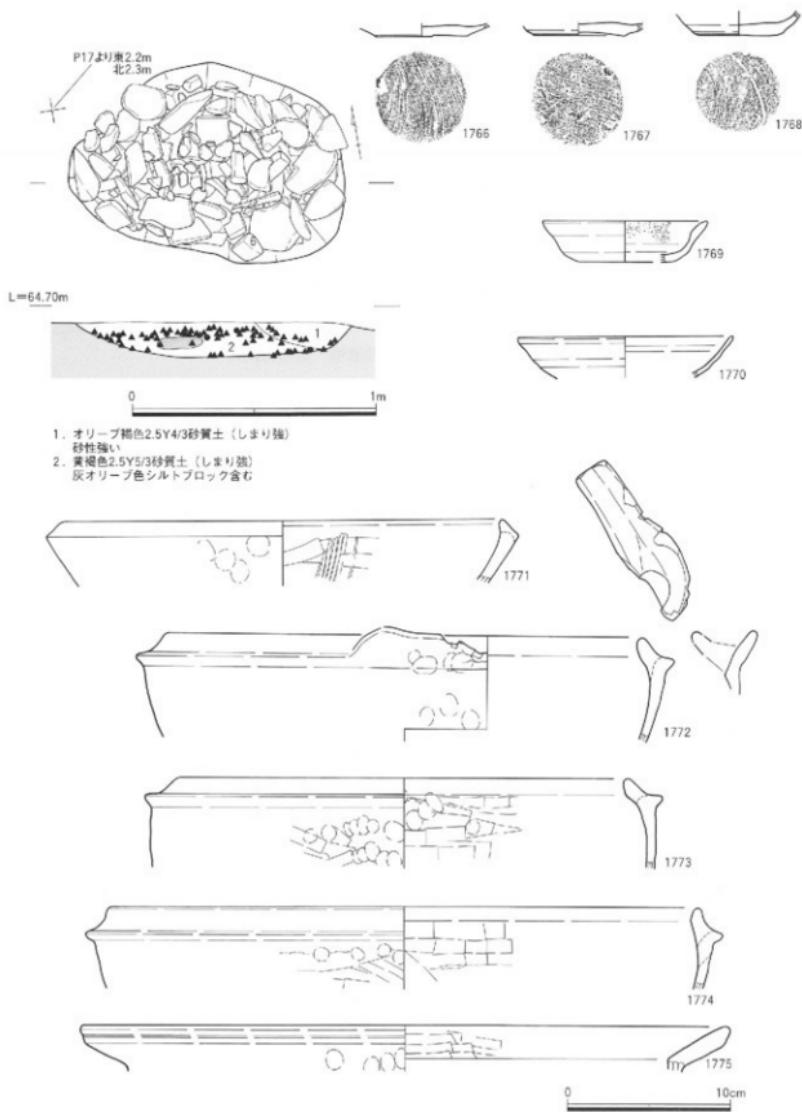
遺構の年代は、出土遺物から概ね15~16世紀代と考えられる。

#### 溝59号（V地区 SD1059）（第1023図）

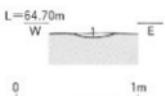
V-4区で検出した南北方位の溝はいずれも幅40cm前後深度5cm前後で、60cm程度の間隔で東西に並び、V-5区へと続く。耕作に伴う溝と考えられる。

SD1059はV-4区中央部、P15グリッドに位置し、南は調査区外に延び北は擾乱に切られる。検出長2.8m幅38cm深度4cmを測る。主軸は、N13°Eを向く。断面は浅いレンズ状で、埋土は1層である。

遺物は土師器杯か皿、土師質土器片が出上。1776は高台付の土師器杯か皿の底部。細く直立した高い高台をもつ。



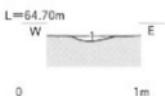
第1022図 V地区SU1003遺構・遺物実測図



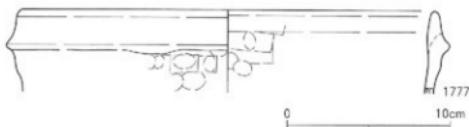
1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）



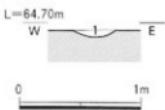
第1023図 V地区SD1059遺構・遺物実測図



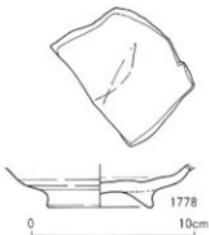
1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）



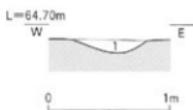
第1024図 V地区SD1060遺構・遺物実測図



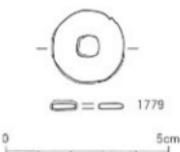
1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）



第1025図 V地区SD1063遺構・遺物実測図



1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）



第1026図 V地区SD1070遺構・遺物実測図

#### 溝60号（V地区 SD1060）（第1024図）

V-4区中央部、P・Q15グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。検出長8.9m幅40cm深度4cm。主軸は、N13°Eを向く。断面は浅いレンズ状で、埋土は1層。遺物は土師質土器片・羽釜が出土。1777は土師質土器羽釜の上半部。鋤部は折り曲げで作る。胎土は粗く、砂岩を含むとみられる。16世紀頃。

#### 溝63号（V地区 SD1063）（第1025図）

V-4区中央部、O-Q15・16グリッドに位置し、南北とも調査区外に延びる。検出長10.2m幅38cm

深度5cmを測る。主軸は、N13°Eを向く。断面は浅いレンズ状で、埋土は1層。遺物は土師器皿・煮炊具、土師質土器片が出土。1778は高台付の土師器皿下半部。底部外面に幅の広い高台を貼り付け。底部内面に「メ」字状のヘラ描き記号を描く。

#### 溝70号（V地区 SD1070）（第1026図）

V-4区西部、N~P2・3グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。検出長7.1m幅60cm深度11cmを測る。主軸は、N15°Eを向く。断面はレンズ状で、埋土は1層である。遺物は土師質土器片・近世磁器片、不明鉄製品が出土。1779は用途不明鉄製品で、径2.2cmを測り、中央に5mm角の方形の孔を有する。鉄錢の一種か。

#### 小穴294号（V地区 SP1294）（第1027図）

V-3区西部南側、C8グリッドに位置する、長径68cm深度24cmを測る不整な梢円形の小穴。遺物は土師器煮炊具・須恵器杯、須恵質土器碗が出土。1780は無高台の須恵器杯底部。底部内面に記号とみられる1条のヘラ描き経線を施すが、工具擦痕の可能性あり。1781は須恵質土器碗の底部。板ナデやミガキは確認できない。

#### 小穴300号（V地区 SP1300）（第1028図）

V-3区西部南寄り、C9グリッドに位置する、長径81cm深度26cmを測る不整な梢円形の小穴。遺物は土師器煮炊具・壺が出土。1782は土師器壺の上部。口縁端部を上方に拡張。体部外面にタテハケ、口縁内面にヨコハケを施す。

#### 小穴316号（V地区 SP1316）（第1029図）

V-4区西部、R9グリッドに位置する、長径38cm深度11cmを測る梢円形の小穴。遺物は土師器片・煮炊具・壺、須恵器杯、土師質土器片、須恵質土器壺が出土。1783は土師器壺の体部上位。外面に粗いタテハケのち横位の板ナデ、内面に横位の板ナデを施す。

#### 小穴320号（V地区 SP1320）（第1030図）

V-4区西部、R10グリッドに位置する、長径26cm深度18cmを測る梢円形の小穴。遺物は土師器煮炊具・須恵器壺が出土。1784は高台付須恵器壺の底部。外面上に「×」字状のヘラ描き記号を描く。

#### 小穴328号（V地区 SP1328）（第1031図）

V-4区中央部南側、P16グリッドに位置する、径34cm深度20cmを測る円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1785は瓦器碗で、口縁を欠く。体部内面に横位のヘラミガキ、底部内面に沈線状の平行ヘラミガキ暗文を施す。内外面炭素吸着や不良。和泉型瓦器碗III-3期に相当し、13世紀前葉の年代が与えられる。

#### 小穴330号（V地区 SP1330）（第1032図）

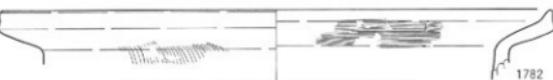
V-4区中央部、P16グリッドに位置する、長径40cm深度29cmを測る梢円形の小穴。出土遺物は1点



第1028図 V地区SP1300遺物実測図



第1029図 V地区  
SP1294遺物実測図



第1030図 V地区  
SP1320遺物実測図



第1031図 V地区SP1328遺物実測図



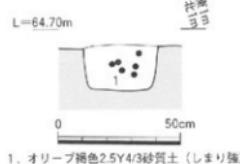
第1032図 V地区  
SP1330遺物実測図



第1033図 V地区  
SP1334遺物実測図



第1034図 V地区  
SP1335遺物実測図

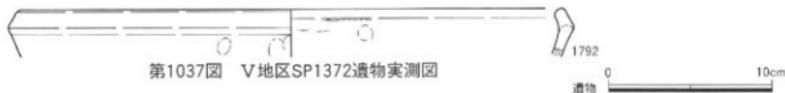


1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土(しまり強)

第1035図 V地区SP1339遺構・遺物実測図



第1036図 V地区SP1357遺物実測図



第1037図 V地区SP1372遺物実測図

のみで、1786は青磁碗の上半部。端反りの口縁をもつ。釉の透明度高く、粗い貫入を伴う。土山分類D類に相当し、14世紀後葉～15世紀前葉の年代が与えられる。

#### 小穴334号（V地区 SP1334）（第1033図）

V-4区中央部、P16グリッドに位置する、長径31cm深度31cmを測る楕円形の小穴。遺物は土師質土器杯・煮炊具が出土。1787は土師質土器杯の上半部。胎土は粗く結晶片岩を含む。

#### 小穴335号（V地区 SP1335）（第1034図）

V-4区中央部、P16グリッドに位置する、長径32cm深度21cmを測る楕円形の小穴。遺物は土師器片・煮炊具、土師質土器片・杯（回転ヘラ切り）が出上。1788は土師質土器杯の底部。外面に回転ヘラ切り痕を残す。

#### 小穴339号（V地区 SP1339）（第1035図）

V-4区中央部南寄り、P17グリッドに位置する、長径30cm深度18cmを測る楕円形の小穴。断面は逆台形状で、埋土は1層。

遺物は土師質土器片・擂鉢・羽釜が出土。1789は土師質土器羽釜の上半部。鉢部は折り曲げ技法で作る。体部内面にヨコハケを施し、上位はハケをナデ消す。1790は土師質土器擂鉢で、底部を欠く。口縁端部を内上方に拡張。外面にユビオサエのち部分的に板ナデ、内面横位の板ナデのち擂目を施す。遺構の年代は、出土遺物から概ね15～16世紀代と考えられる。

#### 小穴357号（V地区 SP1357）（第1036図）

V-4区中央部南寄り、O-P17グリッドに位置する、径48cm深度26cmを測る不整円形の小穴。遺物は土師質土器片・羽釜が出土。1791は土師質土器羽釜の上部。鉢部は短く退化し、折り曲げ技法で作る。16世紀頃とみられる。

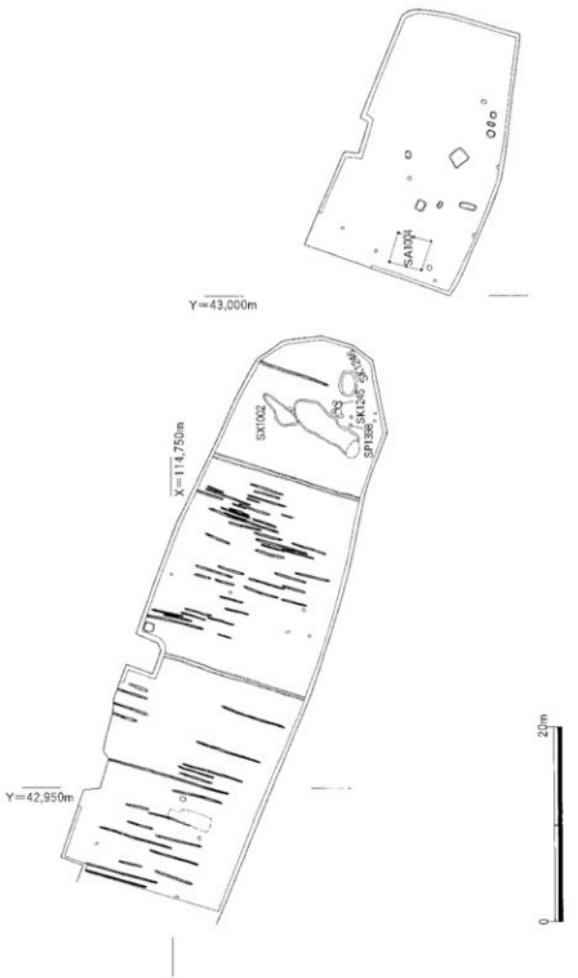
#### 小穴372号（V地区 SP1372）（第1037図）

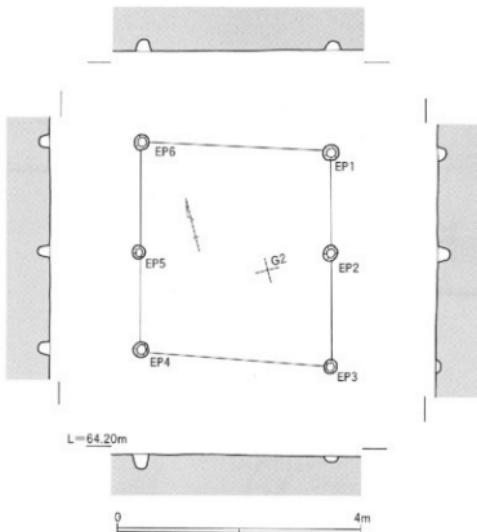
V-4区中央部南端、O19グリッドに位置する、径38cm深度40cmを測る円形の小穴。出土遺物は1点のみで、1792は土師質土器鉢の口縁部で、擂目が確認できないものの器形から擂鉢と考えられる。口縁は内側に屈曲する。15～16世紀代とみられる。

#### V-5区（第1038図）

V-5区はV地区東端に位置する調査区で遺構面は1面のみ検出された。全体的に東に下がる。遺構面直上の洪水砂層は厚みを増し、遺構面のベース土も砂性が強い。遺構密度は低く、耕作に伴う溝群を除いて目立った遺構は検出されない。中庄東遺跡の東側縁辺部にあたると考えられる。SA1棟、SK11基、SD66条、SX2基、SP27基を検出している。

第1038图 V—5区第1油井面道情配图





第1039図 V地区SA1004遺構実測図

#### 掘立柱建物 4号 (V地区 SA1004) (第1039図)

V-5東区西部、F・G1・2グリッドに位置する。東西1間(3.2m)南北2間(3.5m)床面積11.2m<sup>2</sup>、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N15°Eを向く。柱穴の平面形は円形で、径20~25cm深度10~22cmを測る。断面はU字状で、柱痕は検出されない。出土遺物は皆無である。

#### 土坑245号 (V地区 SK1245) (第1040図)

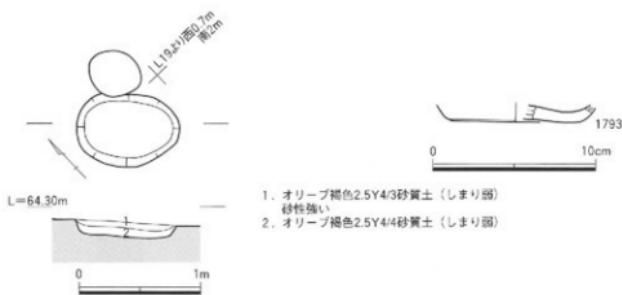
V-5西区東部、H18グリッドに位置する、長軸85cm短軸60cm深度12cmを測る楕円形の土坑。主軸はN47°Wを向く。断面は浅い逆台形状で、埋土は2層に分層できる。出土遺物は1点のみで、1793は土師質土器杯の底部。外面に回転糸切り痕を残す。

#### 土坑246号 (V地区 SK1246) (第1041図)

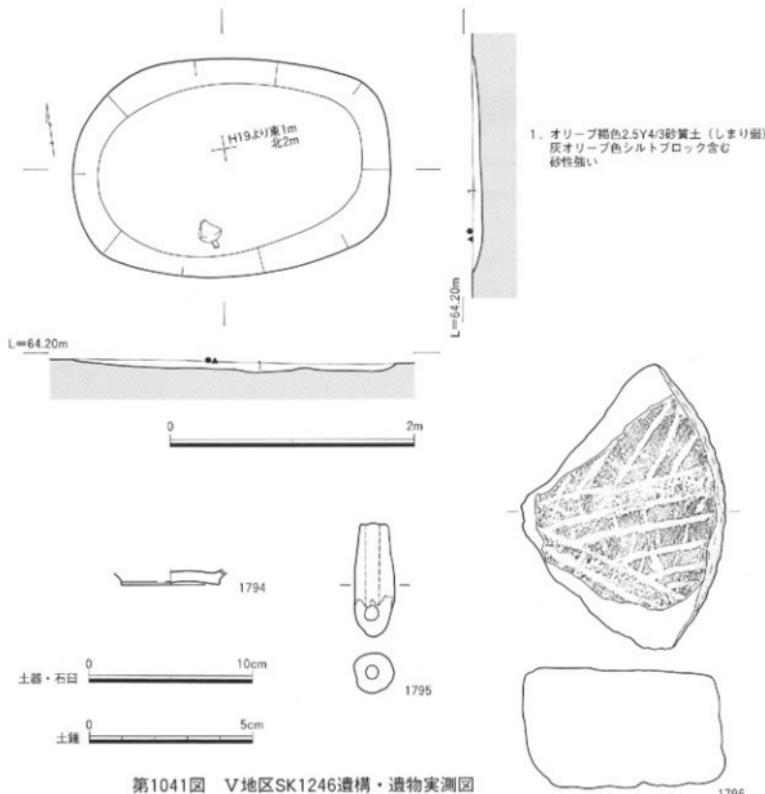
V-5西区東部、H18・19グリッドに位置する、長軸260cm短軸180cm深度8cmを測る不整な楕円形の土坑。主軸はN82°Wを向く。断面は皿状で、埋土は1層。遺物は土師質土器杯・皿・煮炊具、管状土錘、砂岩製石臼が出土。1794は土師質土器皿とみられる底部。外面に回転糸切り痕を残す。1795は土師質管状土錘。1796は砂岩製石臼。下白で、上面の溝目は8分画副溝6条とみられる。全体的に被熱赤変。

#### 溝87~152号 (V地区 SD1087~1152) (第1038図・付図18)

V-5区東側調査区で検出した、南北方位の溝群である。多くは幅20cm深度10cm前後で、東西方向に



第1040図 V地区SK1245遺構・遺物実測図

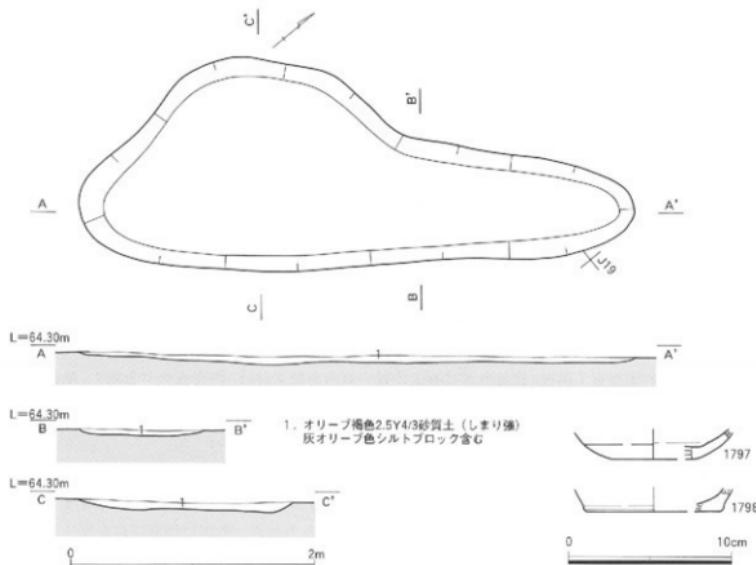


第1041図 V地区SK1246遺構・遺物実測図

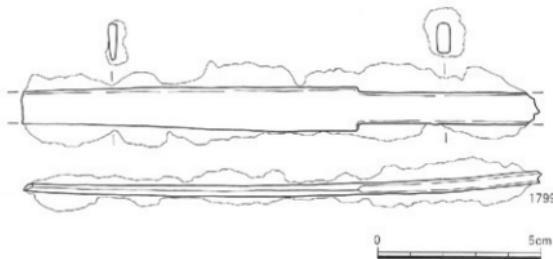
並ぶ。溝同士の間隔は不揃いで、短く途切れるものも多い。耕作に伴う溝と考えられる。SD1108・1111は途切れることなく調査区を横断しており、幅50cm深度20前後で比較的大きな法量をもつ。地境または用水といった用途の溝と考えられる。出土遺物は皆無。

#### 不明遺構2号（V地区 SX1002）（第1042図）

V-5西区東部、I・J18グリッドに位置する、長軸455cm短軸175cm深度10cmを測る不整形の浅い落ち込み。断面は浅い皿状で、埋土は1層である。遺物は土師質土器片・杯（回転糸切り）、鉄製品片・釘



第1042図 V地区SX1002遺構・遺物実測図



第1043図 V地区SP1398遺物実測図

が出土。1797・1798は土師質土器杯の底部。外面に回転糸切り痕を残す。

#### 小穴398号（V地区 SP1398）（第1043図）

V-5西区東部、H18グリッドに位置する、径35cm深度25cmを測る円形の小穴。遺物は土師質土器片、鉄製刀子、鉄釘が出土。1799は鉄製の刀子。

#### 〈V地区 第1包含層出土遺物〉（第1044～1047図）

1800～1803は土師質土器皿。いずれも回転台成形である。1800～1802は底部外面に回転ヘラ切り痕を残し、1802は板目痕を伴う。3点とも胎土に結晶片岩を含む。1803は回転糸切り痕を残す。1804は土師質土器杯。回転台成形で、底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。古代の土師器である可能性がある。1805・1806は土師器円盤状高台付椀。回転台成形で、底部外面に回転糸切り痕を残す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。

1807は黒色土器椀A類の上半部。体部内外面に横位のヘラミガキを施す。内面に炭素吸着良好。

1808は瓦器椀の上半部。体部内部に横位のヘラミガキを施す。炭素吸着は良好。和泉型瓦器椀III-3期に相当し、13世紀前葉の年代が与えられる。1809は瓦器椀の下半部。体部内部に横位のヘラミガキ、底部内部に平行状のヘラミガキを施す。胎土は粗く、結晶片岩と絹雲母を含む。内面に炭素吸着やや不良、外面不良。西村系須恵質土器椀の可能性もある。

1810は瓦質土器捏鉢で、底部を欠く。口縁端部を方形に仕上げる。回転台成形とみられ、指頭圧痕は部分的。胎土に砂岩を含む。炭素吸着はやや不良。

1811は西村系の須恵質土器椀。底部外面に幅広の低い高台を貼り付け。内面板ナデを施す。軟質焼成。佐藤編年5～6期、13世紀後半頃とみられる。

1812は備前焼とみられる陶器蓋。上面に赤色の塗土を施す。近世である。

1813は青白磁皿か壺の底部。内面にヘラ先と櫛状工具による花文を陰刻。釉は高台内側途中まで施し、粗い貫入を伴う。12～13世紀代とみられる。1814は青磁碗で、底部を欠く。端反りの口縁をもつ。

1815は土師質埴鍋。内面に銅滓が付着する。片口をもつとみられる。外面に指頭圧痕を残す。胎土は粗く、口縁端部に被熱による細かな鬆がみられる。

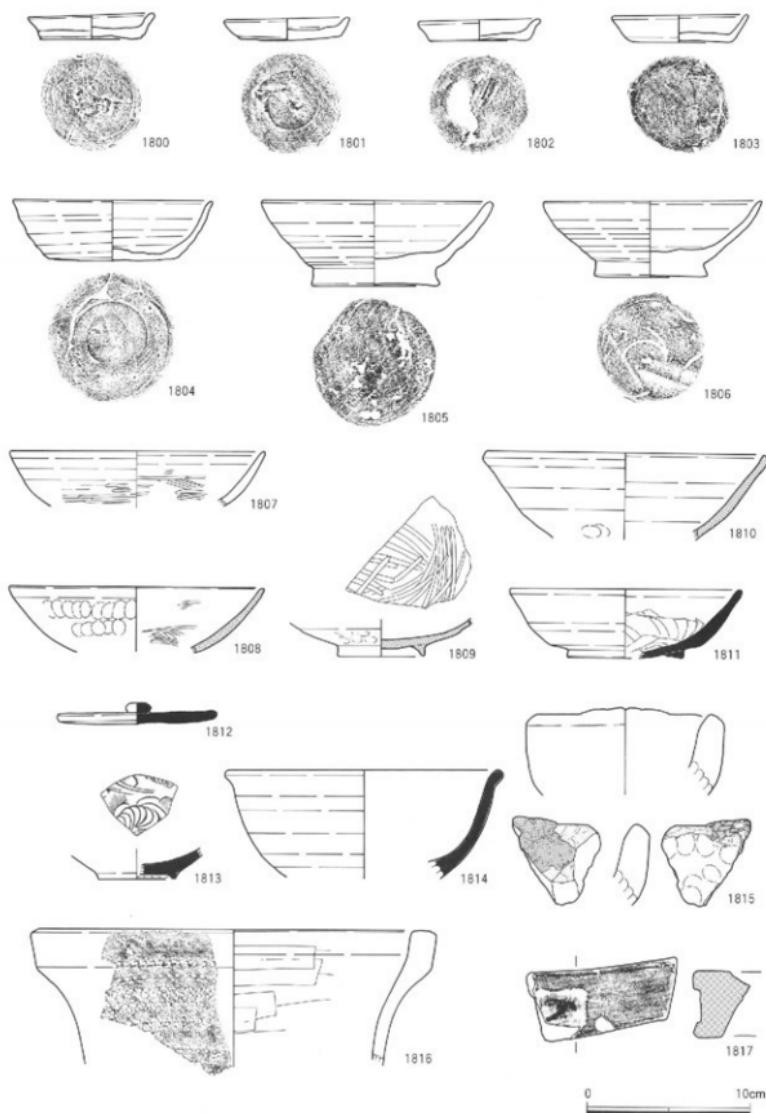
1816は土師質上器火鉢の上半部とみられる。体部外面に櫛状工具によるとみられる刺突穴を施す。胎土に鬆がみられ、金雲母のはか角閃石とみられる黒色鉱粒子を含む。口縁に煤付着。中世末～近世か。

1817は瓦質軒平瓦。瓦当の内区に唐草文を型押し。胎土に砂岩を含む。部分的に炭素吸着。

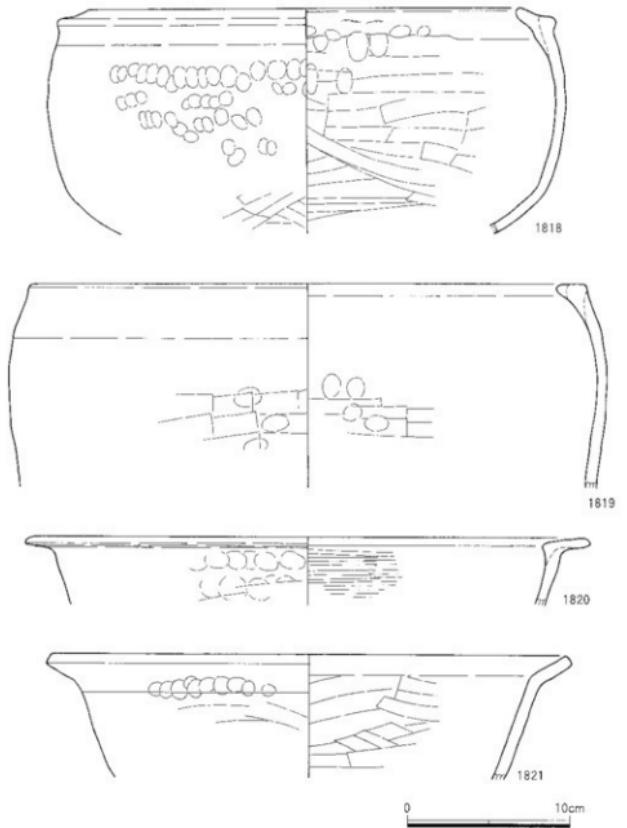
1818は土師質土器羽釜。鋤部は折り曲げ技法で作る。体部外面に横位の連続した指頭圧痕を残し、底部外面に板ナデ、内面横位の板ナデを施す。概ね15～16世紀代とみられる。1819は土師質土器釜。口縁は内彎し、頂部は平坦に仕上げる。内外面にユビオサエのち横位の板ナデを施す。

1820は土師質上器鍋の上部。口縁はほぼ水平に外方に延びる。体部外面に指頭圧痕を残し、内面ヨコハケを施す。胎土は粗く、結晶片岩と絹雲母を含む。植井産鍋の在地模倣品とみられ、13世紀後半頃と考えられる。1821は土師質土器鍋の上半部。頸部外面に指頭圧痕を残し、体部内外面に板ナデを施す。胎土は粗く、結晶片岩と絹雲母を含む。

1822は鉄製つり金具。棒状の鉄材をヘアピン状に折り曲げる。1823は完形の鉄釘。1824は錆。1825・



第1044図 V地区第1包含層遺物実測図(1)



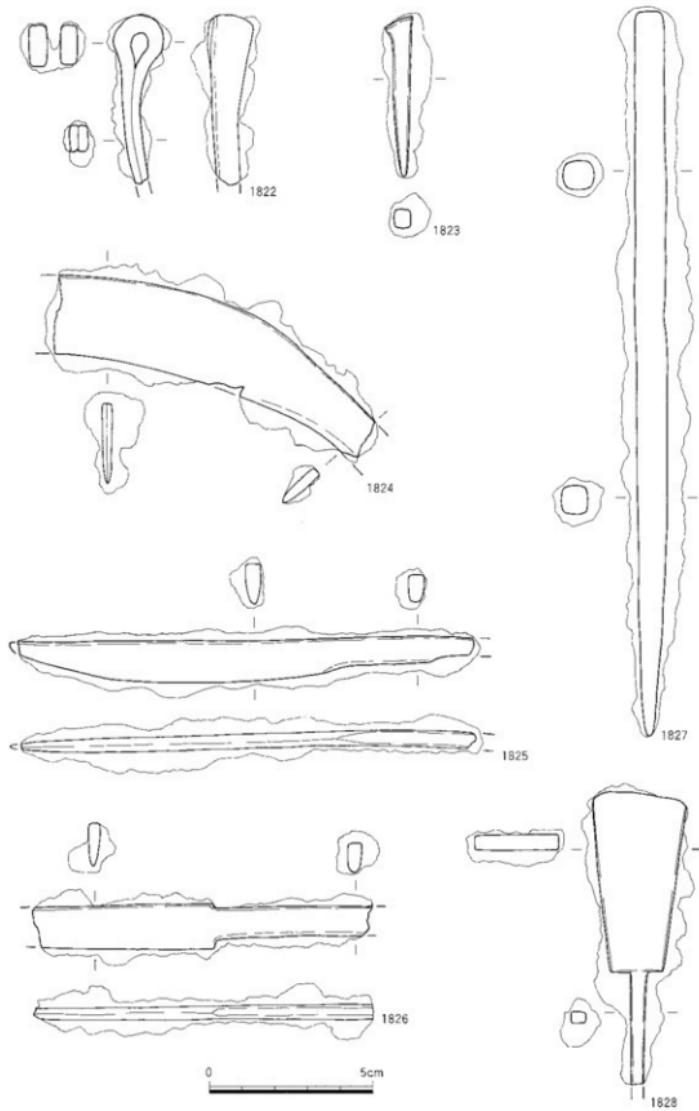
第1045図 V地区第1包含層遺物実測図(2)

1826は鉄製の刀子。1827は棒状の鉄製品で鏺とみられる。全長22.2cmを測る。1828は鉄製の方頭鎌。1829は鉄製の煙管雁首で、周間に鉄分が固着。1830は青銅製の煙管吸口。草花文を打刻する。

1831～1834は銅銭。1831は咸平元寶。北宋銭で、998年初鋤。輪部分を故意に削った磨輪錢である。1832は景德元寶の真書体。北宋銭で、1004年初鋤。1833は寛永通寶。占寛永水で、鑄造地不明。1635年以降の初鋤である。1834は寛永通寶。新寛永水で、無背。鑄造地不明で、1668年以降の初鋤である。

1835は、結晶片岩の扁平な楕円形自然礫の片面に「摩」字の墨書を施す。墨蹟は鮮やかで、新しいものか。「一字・一石経のひとつとみられるが、他に同様の遺物は出土していない。

1836は泥岩製砥石。方形の板状で、5面を使用。1837は結晶片岩製砥石。1面のみ使用する。



第1046図 V地区第1包含層造物実測図(3)